



2017／2018  
SAJクロスカントリー部  
技術・運営ハンドブック

公益財団法人全日本スキー連盟

クロスカントリー部 技術・運営委員会

# クロスカントリー技術・運営ハンドブック

## 目 次

1	運営組織一覧表	1
2	2016/2017 コーチ名簿	2
3	2016/2017 ナショナルチーム名簿	3
4	SAJ クロスカントリー情報伝達連絡網名簿	4
5	ワールドカップ第1ピリオド派遣基準	8
6	平昌オリンピック派遣推薦基準	9
7	競技者登録数の推移表	10
8	2016/2017 FIS ファーイーストカップ男子スタンディング	12
9	2016/2017 FIS ファーイーストカップ女子スタンディング	14
10	2017/2018 ワールドカップカレンダー	15
11	2017/2018 FIS ノルディックカレンダー	16
12	2017/2018 SAJ 公認大会一覧	17
13	2017/2018 公認大会ポイント締切日・有効期間	20
14	TD 業務確認連絡事項	22
15	2017/2018 シーズンにおけるルール対応	24
16	2016/2017 リザルト他不備点について	25
17	ペナルティポイント報告書	26
18	警告書	27
19	Injury Report (傷害報告)	28
20	2016/2017 TD 報告要旨一覧表	29
21	2017 ローラースキーTD 報告要旨一覧表	32
22	FIS クロスカントリージュリーのためのガイドライン	33
23	ローラースキー競技運営ガイドライン	39
24	公認技術代表細則要旨	40
25	公認技術代表名簿	41
26	2017/2018 FIS (SAJ) ポイントルール	45
27	SAJ ポイント概略	56
28	公認計算員規定	58
29	全日本選手権開催規程	59
30	全日本選手権大会出場資格 (附則)	60
31	天皇杯授与規定	63
32	SAJ クロスカントリーコース (競技場) 公認手順	64
33	競技施設公認規定 (抜粋)	66
34	国際競技用品規格&コマーシャルマーケティング規格	71
35	SAJ パーソナルスポンサー	83
36	SAJ パーソナルスポンサー規程	86
37	スプリントフォーム決勝ラウンド表	88
38	マス・スタート設定モデル	92
39	スキーテストエリア設定モデル	93
40	スキーアスロン ピットサイズ	94
41	クラシカル・テクニクの定義とルール	95
42	公認クロスカントリー指導員・検定員関係行事要項	103
43	教育本部 CC 関係規程抜粋	111
44	各種公認・登録等料金一覧表	118

平成28・29年度クロスカントリー一部運営組織編成一覧表

クロスカントリー部			技術・運営委員会						強化委員会		
部長	蛭沢 克仁	富山県	委員長	中村 堅	長野県				委員長	小境 啓之	長野県
			副委員長	池田 幹雄	北海道				副委員長	山岸 修	
			委員	安村 英彦	青森県				副委員長	宮澤 豊彦	新潟県
			委員	渡辺 吉晴	栃木県				委員	藤田 善也	学連
			委員	伊藤 英樹	神奈川県				委員	高橋 幸一郎	長野県
			委員	井瀧 信雄	富山県				委員	木村 正哉	新潟県
			委員	青谷 正章	滋賀県				委員	佐々木 一成	青森県
			委員	萬羽 琢哉	学連				委員	江川 淳	北海道
			委員	佑川 亮	高体連				委員	金澤 涉	秋田県
FIS担当			計算小委員会			大会運営小委員会			委員	岩崎 伊之	
									委員	吉見 雅博	北海道
CC委員会 執行部員	蛭沢 克仁	富山県	委員長	中村 堅	長野県	委員長	山崎 彰俊	北海道	委員	竹内 順一	石川県
W-Cup & COC ルール&コントロール	小境 啓之	長野県	副委員長	安村 英彦	青森県	副委員長	杉沼 智	山形県	委員	高橋 光二	京都府
			委員	渡辺 吉晴	栃木県	委員	青谷 正章	滋賀県	委員	仲野 伸良	
			委員	岸 一成	新潟県	委員	伊藤 英樹	神奈川県	委員	藤原 良次	
									委員	勝田 誠二	広島県
			ルール・公認・施設小委員会								
			委員長	吉田 茂	北海道						
			副委員長	和田 明	北海道						
			委員	高橋 誠一	新潟県						

## 2017/2018 Japan Ski Team 【クロスカントリーコーチングスタッフ】

平成29年7月15日理事会承認

No.	役職	氏名	ふりがな	性別	生年月日	年齢	所属クラブ	加盟団体
1	部長	蛭沢 克仁	えびさわ かつひと	男	1972年7月11日	45	立野ヶ原スキークラブ	富山県
2	アドバイザー	佐々木 一成	ささき かずなり	男	1962年11月25日	54	平内町スキークラブ	青森県
3	コーチ	小境 啓之	こざかい ひろし	男	1971年7月27日	46	飯山市スキークラブ	長野県
4	コーチ	山岸 修	やまぎし おさむ	男	1979年9月25日	38	なし	
5	ジュニアチーフコーチ	勝田 誠二	かつた せいじ	男	1987年4月16日	30	芸北体育協会スキー部	広島県
6	コーチ	藤田 善也	ふじた ぜんや	男	1984年8月20日	33	稲門スキー倶楽部	学 連
7	コーチ(強化委員)	高橋 幸一郎	たかはし こういちろう	男	1977年7月7日	40	木島平スキークラブ	長野県
8	コーチ(強化委員)	宮澤 豊彦	みやざわ とよひこ	男	1978年12月4日	38	小出高等学校	新潟県
9	コーチ(強化委員)	木村 正哉	きむら まさや	男	1986年7月27日	31	TEAM UCHIDA SPORTS	新潟県
10	コーチ(強化委員)	金澤 渉	かなざわ わたる	男	1981年4月2日	36	鹿角市スキー連盟	秋田県
11	トレーナー	近藤 圭司郎	こんどう けいじろう	男	1976年12月13日	40	なし	
12	トレーナー	野口 真隆	のぐち まさたか	男	1987年7月17日	30	なし	
13	トレーナー	藤原 良次	ふじわら りょうじ	男	1978年7月15日	39	(移籍中)	
14	ワックスマン	吉見 雅博	よしみ まさひろ	男	1979年1月13日	38	自衛隊体育学校	北海道
15	フィジカルコーチ	竹田 正樹	たけだ まさき	男	1966年4月17日	51	同志社大学OB会	学 連
16	ワックスマン	ERIKSON Ulf	ウルフ・エリクソン	男	1969年7月23日	48	なし	
17	ワックスマン	WILKMAN Andreas	アンドレアス・ウィルクマン	男	1986年5月15日	31	なし	



## 2017/2018 Japan Ski Team 【クロスカントリー】

2017年10月現在

No.	氏名	ふりがな	性別	生年月日	年齢	所属クラブ	加盟団体
1	石田 正子	いしだ まさこ	女	1980年11月5日	36	JR北海道スキー部	北海道
2	吉田 圭伸	よしだ けいしん	男	1987年1月12日	30	自衛隊体育学校	北海道
3	小林 由貴	こばやし ゆき	女	1987年11月1日	29	岐阜日野自動車スキークラブ	岐阜
4	宮沢 大志	みやざわ ひろゆき	男	1991年10月12日	26	ジェイアール東日本スポーツスキー部	東京都
5	馬場 直人	ばば なおと	男	1996年7月20日	21	専修大学	学連
6	宇田 彬人	うだ あきひと	男	1995年7月25日	22	早稲田大学	学連
7	児玉 美希	こだま みき	女	1996年11月21日	20	日本大学	学連
8	大田喜 日向	おおたき ひゆうが	男	1998年10月25日	19	日本大学	学連
9	山下 陽暉	やました はるき	男	1999年3月11日	18	早稲田大学	学連
10	土濃塚 悠成	とのづか ゆうせい	男	2000年1月15日	17	秋田北鷹高等学校	秋田県
11	湯本 幸耶	ゆもと こうや	男	2001年9月13日	16	中野立志館高校	長野県
12	滝沢 こずえ	たきざわ こずえ	女	1995年12月5日	21	早稲田大学	学連
13	宮崎 日香里	みやざき ひかり	女	1998年8月21日	19	日本体育大学	学連
14	小林 千佳	こばやし ちか	女	1998年7月3日	19	早稲田大学	学連
15	横濱 汐莉	よこはま しおり	女	1999年10月4日	18	野辺地高等学校	青森県
16	祖父江 凜	そぶえ りん	女	2000年11月6日	16	飯山高等学校	長野県
17	小林 萌子	こばやし もえこ	女	2000年9月30日	17	十日町高校	新潟県

## SAJ クロスカントリー 情報伝達 連絡網

クロスカントリー 部長	蛭沢 克仁	e-mail ebiebi.k711@gmail.com
		携帯 090-5584-3510
FIS委員 ヘッドコーチ 強化委員長	小境 啓之	e-mail kooooo@nifty.com
		携帯 090-8723-0785
技術運営委員長 (兼)甲信越ブロック	中村 堅	e-mail katashin@ever.ocn.ne.jp
		携帯 090-1613-9265

↓

北海道ブロック	池田 幹雄	e-mail mik4649@hotmail.com
		携帯 090-3778-5594
東北ブロック (兼)青森県	安村英彦	e-mail <a href="mailto:yasufischer.skistaff4213@gmail.com">yasufischer.skistaff4213@gmail.com</a>
		携帯 090-2275-6887
北関東ブロック (兼)栃木県	渡辺吉晴	e-mail <a href="mailto:yoshi-npz@silk.plala.or.jp">yoshi-npz@silk.plala.or.jp</a>
		携帯 090-8427-0166
南関東ブロック (兼)神奈川県	伊藤 英樹	e-mail hideki.ito@daimler.com
		携帯 090-9806-3557
東海北陸ブロック	井瀨 信雄	e-mail <a href="mailto:te967@tym.ed.jp">te967@tym.ed.jp</a>
		携帯 090-3299-8272
西日本ブロック	青谷 正章	e-mail <a href="mailto:aotani-shiga@gaia.eonet.ne.jp">aotani-shiga@gaia.eonet.ne.jp</a>
		携帯 090-8937-8439
学連ブロック	萬羽 琢哉	e-mail <a href="mailto:makie@2134.jp">makie@2134.jp</a>
		携帯 080-2373-3750
高体連	佑川 亮	e-mail sukegawa@hokkaido-c.ed.jp
		携帯

↓

岩手県	新里浩人	e-mail <a href="mailto:hiroto-niisato@hotmail.co.jp">hiroto-niisato@hotmail.co.jp</a>
		携帯 090-8424-6108
宮城県	下浅勝男	e-mail <a href="mailto:katsuo.shimoasa@gib-life.co.jp">katsuo.shimoasa@gib-life.co.jp</a>
		携帯 090-2278-6415
秋田県	加賀誠幸	e-mail <a href="mailto:p72txi4e@yahoo.co.jp">p72txi4e@yahoo.co.jp</a>
		携帯 090-4552-0811
山形県	渡部淳一	e-mail <a href="mailto:jun.w.4868@gmail.com">jun.w.4868@gmail.com</a>
		携帯 090-3127-3778
福島県	茂木利幸	e-mail <a href="mailto:moji.toshiyuki@rz66.fks.ed.jp">moji.toshiyuki@rz66.fks.ed.jp</a>
		携帯 090-4635-3611
茨城県	益子一也	e-mail <a href="mailto:kiryu@kiryo.ac.jp">kiryu@kiryo.ac.jp</a>
		携帯 090-2447-1989
群馬県	阿部明磨	e-mail <a href="mailto:abe-marou@pref.gunma.lg.jp">abe-marou@pref.gunma.lg.jp</a>
		携帯 090-4138-7115
埼玉県	水谷泰男	e-mail <a href="mailto:ysomizusan@yahoo.co.jp">ysomizusan@yahoo.co.jp</a>
		携帯 090-8720-1265
千葉県	北村 章	e-mail <a href="mailto:kitamura@tohoh.toho-u.ac.jp">kitamura@tohoh.toho-u.ac.jp</a>
		携帯 090-3452-1750
東京都	西村英之	e-mail i_nideyuki-n@ezweb.ne.jp
		携帯 090-4202-0978
山梨県	町 貴仁	e-mail <a href="mailto:machixcpt@yahoo.co.jp">machixcpt@yahoo.co.jp</a>
		携帯 090-3563-0179
長野県	東 禎孝	e-mail ton-tei@taupe.plala.or.jp
		携帯 090-8843-1628
新潟県	岸 一成	e-mail <a href="mailto:kishi@vega.ocn.ne.jp">kishi@vega.ocn.ne.jp</a>
		携帯 090-1533-3270

富山県	山崎 洋	e-mail <a href="mailto:yama5143@p2.tst.ne.jp">yama5143@p2.tst.ne.jp</a>
		携帯 090-4680-5143
石川県	竹内 順一	e-mail <a href="mailto:team123j@m2.ishikawa-c.ed.jp">team123j@m2.ishikawa-c.ed.jp</a>
		携帯 090-9762-0753
福井県	宇田 康二	e-mail <a href="mailto:k-uda-kd@ma.fukui-ed.jp">k-uda-kd@ma.fukui-ed.jp</a>
		携帯 090-8967-4224
静岡県	半田 誠	e-mail <a href="mailto:makoto2.handa@toshiba.co.jp">makoto2.handa@toshiba.co.jp</a>
		携帯 090-4187-3265
愛知県	相澤 昇	e-mail <a href="mailto:nh-aizawa@katch.ne.jp">nh-aizawa@katch.ne.jp</a>
		携帯 090-7432-1689
三重県	浅井 豊司	e-mail <a href="mailto:toyoshi.asai@fxmfg.co.jp">toyoshi.asai@fxmfg.co.jp</a>
		携帯 090-9924-7315
岐阜県	切手 直樹	e-mail <a href="mailto:nkitte2000@yahoo.co.jp">nkitte2000@yahoo.co.jp</a>
		携帯 090-7698-7263
滋賀県	川添 公博	e-mail <a href="mailto:k-kawazoe@zeus.eonet.ne.jp">k-kawazoe@zeus.eonet.ne.jp</a>
		携帯 090-8268-1222
京都府	高橋 光二	e-mail <a href="mailto:st-bear@plum.plala.or.jp">st-bear@plum.plala.or.jp</a>
		携帯 090-7105-2912
大阪府	馬場 耕一郎	e-mail <a href="mailto:kobaba@oowada.ed.jp">kobaba@oowada.ed.jp</a>
		携帯 090-3709-4585
兵庫県	西村 誠	e-mail <a href="mailto:nishimura947@hyogo-c.ed.jp">nishimura947@hyogo-c.ed.jp</a>
		携帯 090-5054-0994
和歌山県	辻 篤史	e-mail <a href="mailto:tutchie@gaia.eonet.ne.jp">tutchie@gaia.eonet.ne.jp</a>
		携帯 090-2512-2054
奈良県	倉田 輝雄	e-mail <a href="mailto:t.kurata.663@vega.ocn.ne.jp">t.kurata.663@vega.ocn.ne.jp</a>
		携帯 090-1022-1755

鳥取県	坪倉 寿樹	e-mail <a href="mailto:tubokura-ts@mailk.torikyo.ed.jp">tubokura-ts@mailk.torikyo.ed.jp</a>
		携帯 090-2007-6458
島根県	荒金 岳登	e-mail <a href="mailto:gakuto.a@dojyokko.ne.jp">gakuto.a@dojyokko.ne.jp</a>
		携帯 090-8248-6674
岡山県	本守 竜二	e-mail <a href="mailto:hiruzen.ryuji@ezweb.ne.jp">hiruzen.ryuji@ezweb.ne.jp</a>
		携帯 090-1188-6477
広島県	藤井 真吾	e-mail <a href="mailto:fujii-s@khiro.jp">fujii-s@khiro.jp</a>
		携帯 090-8245-6271
山口県	斉藤 正登	e-mail <a href="mailto:smasato@c-able.ne.jp">smasato@c-able.ne.jp</a>
		携帯 090-2294-3250
愛媛県	三嶋 浩一	e-mail <a href="mailto:mishimakou1003@yahoo.co.jp">mishimakou1003@yahoo.co.jp</a>
		携帯 090-1576-1335
福岡県	佐藤 隆寛	e-mail <a href="mailto:taka@satohnet.co.jp">taka@satohnet.co.jp</a>
		携帯 090-3197-0167
大分県	大西晃仁	e-mail <a href="mailto:ski.woodlife8129@docomo.ne.jp">ski.woodlife8129@docomo.ne.jp</a>
		携帯 090-8634-8186
他、西日本ブロック 加盟団体	青谷 正章	e-mail <a href="mailto:aotani-shiga@gaia.eonet.ne.jp">aotani-shiga@gaia.eonet.ne.jp</a>
		携帯 090-8937-8439

平成 29 年 9 月 11 日

2017/18 シーズン  
クロスカントリー F I S ワールドカップ 第 1 ピリオド 派遣基準

■ 選考レース

- ① 2017 年 11 月 10 日～12 日 Finland Olos (FIS レース)
- ② 2017 年 11 月 17 日～19 日 Sweden Gaellivare (FIS レース)

■ 選考基準

- A) スプリント競技ファイナル進出者 (最上位者 1 名のみ)
- B) ディスタンス競技の FIS ポイント上位者 (最大 3 名まで)

- ・ スプリント競技で 1 名派遣する場合は、ディスタンス競技の派遣は 2 名までとする。
- ・ スプリント競技での派遣がない場合は、ディスタンス競技の派遣は 3 名までとする。
- ・ 2016 年 11 月から 2017 年 11 月までの期間で FIS ポイント男子 60 点以下、女子 90 点以下の成績を保有していること。

■ 派遣対象大会

- ・ 2017 年 11 月 24 日～26 日 F I S ワールドカップ Ruka 大会  
選考レース①において最大 3 名を派遣する。
- ・ 2017 年 12 月 2 日～3 日 F I S ワールドカップ Lillehammer 大会  
選考レース②において最大 3 名を派遣する。
- ・ 2017 年 12 月 9 日～10 日 F I S ワールドカップ Davos 大会  
Ruka 大会・Lillehammer 大会の成績上位者の中から最大 3 名を派遣する。
- ・ 2017 年 12 月 16 日～17 日 F I S ワールドカップ Toblach 大会  
Ruka 大会・Lillehammer 大会の成績上位者の中から最大 3 名を派遣する

【補足】

※SAJ 強化指定選手についてはこの限りではない。

## 公益財団法人全日本スキー連盟 第23回オリンピック冬季競技大会（2018／平昌） 派遣推薦基準

CC	派遣推薦基準（クロスカントリー競技）
<p>1. 個人種目の選手 2016/2017シーズン及び2017/2018シーズン（各種別が定める基準日まで）における世界レベルの評価対象競技会にて、下記のいずれかの成績を収めた選手。 （1）8位以内の成績を1回以上 （2）10位以内の成績を2回以上（2シーズン合計） （3）12位以内の成績を3回以上（2シーズン合計）</p> <p>2. 団体種目の選手 2016/2017シーズン及び2017/2018シーズン（各種別が定める基準日まで）における世界レベルの評価対象競技会にて、下記のいずれかの成績を収めた団体種目に出場するための選手。 （1）8位以内の成績を1回以上 （2）10位以内の成績を2回以上（2シーズン合計）</p>	
<b>【評価対象とする競技会】</b>	
FIS世界選手権及びワールドカップ	
<b>【基準日】</b>	
2018年1月中旬頃 ※ 大会スケジュールが決まり次第、種別ごとに決定する	
<b>【リレー種目に関する附則】</b>	
<p>2017/2018シーズンのワールドカップ第1ピリオドのレースにおいて30位以内の成績を収めた選手が2名以上、40位以内の成績を収めた選手が1名以上揃った場合、個人種目での派遣推薦基準をクリアした選手とあわせて最大男女各4名を選出する。 該当選手が5名以上の場合は個人種目で選出された選手を優先し、2017/2018シーズンのワールドカップ第1ピリオドの成績上位選手から選出する。</p> <p>補足）補欠は次点の選手又は2017年12月17日時点でFISポイント上位の選手から選考する。</p>	

# 競技者登録数推移(ノルディック 県連別)

2016/2017シーズン終了時点

	01/02	02/03	03/04	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10	10/11	11/12	12/13	13/14	14/15	15/16	16/17	
北海道	310	329	350	332	337	314	293	194	289	298	297	285	299	290	305	308	
青森	93	104	91	94	86	83	97	82	91	94	104	93	90	76	70	73	
岩手	69	75	71	73	57	67	48	46	62	68	63	71	77	97	96	70	
宮城	30	39	32	15	16	14	13	15	7	8	10	8	15	26	15	26	
秋田	175	181	173	139	155	147	133	122	151	146	117	112	105	116	119	120	
山形	103	112	105	69	81	86	92	65	68	85	83	69	77	83	94	91	
福島	69	73	85	70	66	73	80	85	76	63	54	55	57	53	51	45	
茨城	15	14	22	15	16	14	14	10	11	5	9	11	8	8	13	13	
栃木	35	24	21	14	11	9	9	7	4	2	0	0	1	2	1	1	
群馬	78	79	77	60	60	40	41	41	42	47	42	56	62	63	58	59	
埼玉	4	12	8	6	3	1	1	3	3	0	0	5	3	0	0	0	
千葉	49	62	52	44	51	53	59	48	45	43	36	26	26	29	30	31	
東京	18	23	29	28	37	38	33	32	38	25	27	24	33	46	48	63	
神奈川	13	7	1	1	3	3	1	0	2	2	2	4	4	3	3	4	
山梨	24	37	41	42	24	25	26	31	26	17	20	26	26	17	27	24	
長野	237	238	246	243	238	272	242	220	217	216	226	223	213	205	205	222	
新潟	211	236	252	276	259	271	254	262	261	254	295	302	302	269	256	167	
富山	66	76	73	75	68	61	71	63	63	78	89	80	79	82	84	83	
石川	54	55	47	69	53	55	49	54	42	39	37	25	32	35	41	48	
福井	22	14	17	15	10	10	8	12	14	15	16	19	17	16	19	14	
静岡	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0	
愛知	34	35	47	51	41	40	45	59	52	37	42	46	46	47	49	45	
三重	9	6	7	3	2	12	6	4	1	3	5	8	9	4	5	6	
岐阜	52	57	41	36	26	30	40	37	32	36	46	44	41	46	46	42	
滋賀	13	13	16	10	9	13	23	31	18	12	9	27	17	25	29	17	
京都	40	35	34	26	30	28	27	24	32	24	33	32	46	47	46	43	
大阪	45	28	33	43	33	30	34	33	30	39	39	41	46	42	37	42	
兵庫	32	31	29	32	35	33	35	36	43	40	40	46	48	55	57	47	
奈良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	
鳥取	33	21	32	39	39	42	26	24	24	23	23	25	29	26	28	30	
島根	19	16	21	18	18	12	15	15	13	12	11	7	8	10	12	13	



	01/02	02/03	03/04	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10	10/11	11/12	12/13	13/14	14/15	15/16	16/17	
岡山	18	20	21	21	19	20	21	16	21	19	21	16	20	18	22	18	
広島	12	14	12	19	19	18	21	22	15	13	16	13	16	17	15	10	
山口	15	20	22	20	27	19	19	14	14	12	7	11	14	11	10	14	
香川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
徳島	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
愛媛	3	4	7	4	2	4	4	4	3	3	2	2	1	3	7	10	
高知	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福岡	0	4	8	4	3	5	3	0	1	0	0	0	0	2	1	2	
佐賀	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	
長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	
熊本	9	10	9	11	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大分	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
宮崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鹿児島	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄	1	1	8	5	2	1	1	2	2	3	0	0	0	0	0	1	
学連	853	813	765	756	694	680	629	559	659	585	593	585	553	577	612	578	
合計	2,864	2,918	2,906	2,779	2,640	2,627	2,516	2,273	2,474	2,369	2,416	2,400	2,423	2,448	2,512	2,380	

2008/2009シーズンは資料不足の為、クロスカントリーの人数しか判らないので、合計の人数もクロスカントリーのみです。

FIS Far East Continental Cup Standing 2016–2017

(Men)

		Date	Place	Nation	Distance	Penalty	Nation Entry			Point					
		1	16. 12.16	Alpensia Resort	KOR	Sprint C	98.23	KOR	JPN	RUS	Rank 1 =100				
		2	17. 12.16	Alpensia Resort	KOR	15KmF	40.88	KOR	JPN	RUS	Rank 30 = 1				
		3	26. 12.16	Otoineppu	JPN	10KmC	26.23	KOR	JPN	THA					
		4	27. 12.16	Otoineppu	JPN	10KmF	27.45	KOR	JPN	THA					
		5	06. 01.17	Sapporo	JPN	10KmC	26.23	KOR	JPN	THA					
		6	07. 01.17	Sapporo	JPN	Sp.1.4KmC	70.76	KOR	JPN	THA					
		7	08. 01.17	Sapporo	JPN	15KmF	26.23	KOR	JPN	THA					
		8	15. 01.17	Alpensia Resort	KOR	10KmC	37.46	KOR	JPN						
		9	16. 01.17	Alpensia Resort	KOR	15KmF	37.46	KOR	JPN						
Rank	FIS Cord	Name	Nation	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Total		
1	3300241	KASHIWABARA	Nobuhito	JPN	100	18	18	26	60	100	32	60	80	494	
2	3300330	LENTING	Akira	JPN			100	32	50	40	50	100	100	472	
3	3300399	FUJINOKI	Hikari	JPN	36	100		36	29	80	45	80	50	456	
4	3300190	YOSHIDA	Keishin	JPN			60	100	100	60	100			420	
5	3300351	EBINA	Takanori	JPN	50	80		29	24	45	40	36	60	364	
6	3300373	MIYAZAWA	Hiroyuki	JPN			80	60	80	24	60			304	
7	3300277	SHIMIZU	Kohei	JPN	80	22	50	22	45	50	14			283	
8	3300270	NARUSE	Kaichi	JPN	45	60	26	45	32	36	29			273	
9	3300494	BABA	Naoto	JPN			45	80	40	1	80			246	
10	3300374	SATO	Tomoki	JPN	60	50	32		22	32	36			232	
11	3300362	ISHIKAWA	Kentaro	JPN			20		20	29		40	40	149	
12	3320127	HWANG	Jun-ho	KOR	32	29		13				45	20	139	
13	3320184	KIM	Min-woo	KOR	13	20						50	45	128	
14	3300422	UDA	Takatsugu	JPN			36	50	12	4	22			124	
15	3320114	PARK	Seong-beom	KOR	29	16						32	29	106	
16	3320158	KIM	Eun-ho	KOR	16	15						29	36	96	
17	3300363	ISHIKAWA	Jun	JPN			15	24	36		20			95	
18	3300361	YOSHIDA	Yuma	JPN			29	40	9	3	13			94	
19	3300378	NISHIDA	Jumpu	JPN	40	26	2	1	10	10				89	
20	3300519	GOTO	Taisei	JPN	22	36	6	18						82	
21	3300608	YAMASHITA	Haruki	JPN	15	32	24	8						79	
21	3300536	OTAKI	Hyuga	JPN	26	45				8				79	
23	3300543	MATSUMURA	Atomu	JPN	18	40		10			10			78	
24	3300458	TANAKA	Masato	JPN			22	16	14	7	17			76	
25	3320106	JEONG	Jong-won	KOR	10	9						22	32	73	
26	3300408	UDA	Akihito	JPN			5		15	26	24			70	
26	3320061	PARK	Sang-yong	KOR	11	11						26	22	70	
26	3320150	CHO	Yong-jin	KOR	20	24							26	70	
29	3320135	KIM	Min-uk	KOR	9	14						20	16	59	
30	1260127	JUNG	Eui-myung	KOR	8	10						15	24	57	
31	3320159	KIM	Dae hyun	KOR	14	12						24	6	56	
32	3300371	SUZUKI	Takahiro	JPN			13		11	5	26			55	
33	3300520	KASAHARA	Riku	JPN	24	13	16							53	
33	3300418	HOSHINO	Takeo	JPN			40	6			7			53	
35	3300398	KOBAYASHI	Yosuke	JPN			11	14.5	8		11			44.5	
36	3300443	ICHIMURA	Kotaro	JPN				2	26	11	4			43	
36	3320144	LEE	Ho-Jin	KOR	12	5						13	13	43	
36	3320193	KIM	Hyeon-su	KOR	2	7						16	18	43	
39	3300635	UDA	Shunya	JPN			8		16	13	5			42	
40	3320139	LEE	Geon-yong	KOR	3	8						14	15	40	
41	3300474	KODAMA	Munefumi	JPN			14	5	4		15			38	
42	3320147	LEE	Jae-bong	KOR	6	6						18	7	37	
43	3300404	KATO	Takuma	JPN					7	20	9			36	
43	3300380	KODAMA	Shohei	JPN					6	18	12			36	
45	3300450	MURAJI	Takuma	JPN			12		18					30	
45	3300336	TANAKA	Hokuto	JPN					13	15	2			30	
47	3320176	HONG	Yeon-ki	KOR	7							7	14	28	
48	3300515	HACHISUKA	Masatoshi	JPN			7	20						27	
48	3320186	KIM	Dong-hyun	KOR	5	3						8	11	27	
50	3320145	BYUN	Joo-young	KOR	4	2						11	8	25	
51	3300541	SASAKI	Kenya	JPN				7			17			24	
52	3300540	KAWANO	Sohei	JPN						22				22	
52	3320050	KIM	Jeong-min	KOR								10	12	22	
54	3300396	KOJIMA	Hironori	JPN					2	16	3			21	

55	3300511	NAKAJIMA	Yuwa	JPN		10	9					19
55	3300542	TAKEHARA	Yoshiyuki	JPN			11		8			19
57	3320165	BYUN	Ji-Yeong	KOR						9	9	18
58	3300499	FINDLAY	Sam	JPN			14.5					14.5
59	3300495	HONMA	Yuji	JPN				14				14
59	3320209	HA	Jang -ho	KOR	4						10	14
61	3300404	KATO	Takuma	JPN		1	12					13
62	3300290	KOJIMA	Yuji	JPN				12				12
62	3320181	HWANG	Ho-Cheol	KOR						12		12
64	3300581	TONOZUKA	Yusei	JPN		9						9
64	3300487	ANDO	Tsubasa	JPN				9				9
64	3300411	ITABASHI	Tatsuki	JPN				3	6			9
67	3320152	CHO	Young-Chan	KOR						6	1	7
67	3320191	LEE	Dong-Chan	KOR						3	4	7
69	3300401	YUMOTO	Keita	JPN				6				6
69	3320175	KIM	Seon-min	KOR	1					5		6
69	3320208	LEE	Jeong-chan	KOR		1					5	6
72	1276617	ONDA	Yuichi	JPN				5				5
73	3300533	MIYAZAKI	Ryoshu	JPN		4						4
73	3300593	MIYAO	Yuji	JPN			4					4
73	3320166	KIM	Min-Gyu	KOR						4		4
73	3320171	WOO	Gyoung-jin	KOR						1	3	4
77	3300385	SATO	Taichi	JPN		3						3
77	3300568	HABUKI	Yuito	JPN			3					3
79	3300490	WATANABE	Akihito	JPN				2				2
79	3320205	KIM	Myeong-Chan	KOR						2		2
79	3320195	KIM	Young-kyu	KOR							2	2
82	3300434	KOBAYASHI	Hiro	JPN				1				1
82	3300546	KIRURA	Takashi	JPN					1			1

FIS Far East Continental Cup Standing 2016-2017

(Ladies)

Rank	Date	Place	Nation	Distance	Penalty	Nation	Entry	Point						Total
1	16.12.16	Alpensia Resort	KOR	Sprint C	193.24	KOR	JPN RUS	Rank 1 = 100						
2	17.12.16	Alpensia Resort	KOR	10KmF	76.32	KOR	JPN RUS	Rank 30 = 1						
3	26.12.16	Otoineppu	JPN	5 KmC	40.53	KOR	JPN							
4	27.12.16	Otoineppu	JPN	5 KmF	40.53	KOR	JPN							
5	06.01.17	Sapporo	JPN	5 KmC	48.23	KOR	JPN							
6	07.01.17	Sapporo	JPN	Sp.1.4KmC	156.35	KOR	JPN							
7	08.01.17	Sapporo	JPN	10 KmF	40.53	KOR	JPN							
8	15.01.17	Alpensia Resort	KOR	5 KmC	70.11	KOR								
9	16.01.17	Alpensia Resort	KOR	10 KmF	70.11	KOR								
Rank	FIS Cord	Name	Nation	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Total	
1	1258769	LEE	Chae-won	KOR	80	100	60	80	50	40	60	100	100	670
2	1274580	ISHIDA	Masako	JPN			100	100		100	100			400
3	3305134	KOBAYASHI	Yuki	JPN			80	60	100	60	80			380
4	3305024	OBAYASHI	Chisa	JPN	45	80	45	50	80	20	50			370
5	3305258	MIYAZAKI	Hikari	JPN	60	32	40	40	32	45	20			269
6	3305270	FUJITA	Nanase	JPN	100	20	11	1	18	80	13.5			243.5
7	3305282	YOKOHAMA	Shiori	JPN	36	60	4	29	40	29	40			238
8	3305193	TAKIZAWA	Kozue	JPN			50	36	60	50	36			232
9	3325027	JU	Hye-ri	KOR	29	36			6	4	8	50	80	213
10	3325046	HAN	Da-som	KOR	40	26						60	60	186
11	3325065	JE	Sang-mi	KOR	32	22						80	50	184
12	3305240	KODAMA	Miki	JPN			36	26	45	15	45			167
13	3305021	ISHIGAKI	Sumiko	JPN	20	40	20	18	20	9	26			153
14	3305298	SATO	Aoi	JPN	26	24	17	11	26	32	13.5			149.5
15	3305263	KOBAYASHI	Chika	JPN	22	50	32	45						149
16	3305268	SOBUE	Rin	JPN	50	45	29	24						148
17	3305194	TANAKA	Yukari	JPN			9	32	24	36	29			130
18	3305279	TSUCHIYA	Masae	JPN			26	20	36	6	32			120
19	3325036	CHOE	Shin-ae	KOR	12	15						45	45	117
20	3305066	AZEGAMI	Naoko	JPN	24	29	3	12	13	10	10			101
21	3325074	KIM	Na-yeong	KOR	16	13						40	29	98
22	3325076	LEE	Ji-ye	KOR	13	16						24	36	89
23	3325078	MOON	So-youn	KOR	18	14						22	32	86
24	3305259	WATANABE	Yuka	JPN			22	15	16	14	11			78
25	3325082	HAM	Hae young	KOR	3	18						14	40	75
26	3305261	SAKAI	Yui	JPN			24		29	3	18			74
27	3305204	MATSUDATE	Yuki	JPN				14	22	11	24			71
28	3325058	KIM	Eun-ji	KOR	11	11						20	26	68
29	3325056	BAE	Min-ju	KOR	9	4						36	18	67
30	3325050	SHIN	Ji-soo	KOR	8	6						32	16	62
31	3325042	LEE	Ji-yun	KOR	7	12						18	22	59
32	3305250	YAMAISHI	Sayaka	JPN			14	2	4	22	15			57
33	3305205	KAISAKA	Yu	JPN			15	13	11	5	12			56
34	3325060	KIM	Bo-ra	KOR	4	7						29	14	54
35	3325051	YOO	Dan-bi	KOR								26	24	50
36	3325072	LEE	Jee-Hoo	KOR	10	8						13	15	46
36	3325070	UM	Da-young	KOR	5	5						16	20	46
38	3305286	KARAKI	Nagano	JPN			12	10	9	13	1			45
39	3305269	FUNABA	Nanako	JPN					15	26	3			44
40	3305300	HAYASHI	Asuka	JPN			1	8		12	22			43
41	3305280	KOSENDA	Harumi	JPN			6	22		7	2			37
42	3305153	OTSUKA	Yuka	JPN				7	12	1	16			36
42	3325068	KIM	Eu-gene	KOR	6	3						15	12	36
44	3305267	FUKUDA	Hikaru	JPN			10	4		16	4			34
45	3305239	KOJIMA	Chikayo	JPN					10	18	5			33
46	3305237	SUGAI	Chiho	JPN			8	9	8		6			31
47	3325069	CHA	Jea-in	KOR	2	2						12	11	27
48	3305224	SAKAI	Rina	JPN					2	24				26
49	3325077	LIM	Gaeul	KOR	15	10								25
49	3325080	PARK	So-hyun	KOR	1							11	13	25
51	3325067	KIM	Hee-yeon	KOR	14	9								23
52	3305299	IGARASHI	Moe	JPN					14		7			21
53	3305235	TAKIZAWA	Sora	JPN				6	5		9			20
54	3305256	ISHIYAMA	Rika	JPN			17							17
55	3305273	KOBAYASHI	Shiori	JPN			13	3						16
55	3305805	UCHIDA	Yumeka	JPN				16						16
57	3305262	YAMAMOTO	Chiaki	JPN			7		7					14
58	3305143	YAGUCHI	Sayuri	JPN					3	8				11
59	3325066	KIM	Eu-Jin	KOR								10		10
60	3305277	SAKAI	Mizuki	JPN				5	1					6
61	3305306	OTANI	Yoshino	JPN			5							5
62	3305302	KOBAYASHI	Moeko	JPN			2							2
62	3305278	YASUMURA	Rina	JPN						2				2

## FIS CROSS-COUNTRY WORLD CUP 2017/18

Date	Day	Site	Nation	Ladies	Men	Remarks
<b>Period I</b>						
<b>Ruka Triple</b>						
24.11.	Fri	Ruka	FIN	Sprint C	Sprint C	
25.11.	Sat	Ruka	FIN	10km C	15km C	
26.11.	Sun	Ruka	FIN	10km F	15km F	Pursuit
02.12.	Sat	Lillehammer	NOR	Sprint C	Sprint C	
03.12.	Sun	Lillehammer	NOR	Skiathlon	Skiathlon	
09.12.	Sat	Davos	SUI	Sprint F	Sprint F	
10.12.	Sun	Davos	SUI	10km F	15km F	
16.12.	Sat	Toblach	ITA	10km C	15km C	
17.12.	Sun	Toblach	ITA	10km F	15km F	Pursuit
<b>Period II</b>						
<b>Tour de Ski</b>						
30.12.	Sat	Lenzerheide	SUI	Sprint F	Sprint F	
31.12.	Sun	Lenzerheide	SUI	10km C	15km C	
01.01.	Mon	Lenzerheide	SUI	10km F	15km F	Pursuit
03.01.	Wed	Oberstdorf	GER	Sprint C	Sprint C	
04.01.	Thu	Oberstdorf	GER	10km F	15km F	Mass Start
06.01.	Sat	Val di Fiemme	ITA	10km C	15km C	Mass Start
07.01.	Sun	Val di Fiemme	ITA	Final Climb	Final Climb	Pursuit
13.01.	Sat	Dresden	GER	Sprint F	Sprint F	
14.01.	Sun	Dresden	GER	Team Sprint F	Team Sprint F	
20.01.	Sat	Planica	SLO	Sprint C	Sprint C	
21.01.	Sun	Planica	SLO	10km C	15km C	
27.01.	Sat	Seefeld	AUT	Sprint F	Sprint F	
28.01.	Sun	Seefeld	AUT	10km F	15km F	Mass Start
<b>Period III</b>						
09.02.		OWG 2018	KOR			
25.02.		PyeongChang				
<b>Period IV</b>						
03.03.	Sat	Lahti	FIN	Sprint F	Sprint F	
04.03.	Sun	Lahti	FIN	10km C	15km C	
07.03.	Wed	Drammen	NOR	Sprint C	Sprint C	
10.03.	Sat	Oslo	NOR		50km F	Mass Start
11.03.	Sun	Oslo	NOR	30km F		Mass Start
<b>World Cup Final</b>						
16.03.	Fri	Falun	SWE	Sprint F	Sprint F	
17.03.	Sat	Falun	SWE	10km C	15km C	Mass Start
18.03.	Sun	Falun	SWE	10km F	15km F	Pursuit

FIS Nordic Junior World Ski Championships, Goms-Kandersteg (SUI), 27.01-03.02.2018  
 Olympic Winter Games, PyeongChang (KOR), 09.-25.02.2018

## FIS NORDIC WORLD CUPS, SKI FLYING WORLD CHAMPIONSHIPS, OWG 2017/2018

Date	Cross-Country	Ski Jumping Ladies	Ski Jumping Men	Nordic Combined
18.-19.11.			Wisla, POL	
24.-26.11.	Ruka Triple, FIN		Ruka, FIN (25/26)	Ruka Tour, FIN
		<b>Mini Tour</b>		
01.-03.12.	Lillehammer, NOR (2/3)	Lillehammer, NOR	Nizhny Tagil, RUS (2/3)	Lillehammer, NOR (2/3)
09.-10.12.	Davos, SUI		Titisee-Neustadt (GER)	
16.-17.12.	Toblach, ITA	Hinterzarten, GER	Engelberg, SUI	Ramsau, AUT
	<b>Tour de Ski</b>		<b>4-Hills Tournament</b>	
30./31.12.	Lenzerheide, SUI		Oberstdorf, GER (30)	
01.01.	Lenzerheide, SUI		Ga-Partenkirchen, GER	
03.-04.01.	Oberstdorf, GER		Innsbruck, AUT (4)	
06.-07.01.	Val di Fiemme, ITA	Rasnov, ROU	Bischofshofen, AUT (06)	Otepää, EST
12.-14.01.	Dresden, GER (13/14)	Sapporo, JPN (13/14)	Tauplitz/Bad Mitterndorf, AUT (13/14)	Val di Fiemme, ITA
			<b>Ski Flying World Championships</b>	
19.-21.01.	Planica, SLO (20/21)	Zao, JPN (19-21)	Oberstdorf, GER	Chaux-Neuve, FRA (20/21)
				<b>NC Triple</b>
26.-28.01.	Seefeld, AUT (27-28)	Ljubno, SLO (27/28)	Zakopane, POL (27/28)	Seefeld, AUT
03.-04.02.		Hinzenbach, AUT	Willingen, GER	Hakuba, JPN
09.-25.02.	Olympic Winter Games, PyeongChang, KOR			
03.-04.03.	Lahti, FIN		Lahti, FIN	Lahti, FIN
07.03.	Drammen, NOR		<b>RAW AIR Tournament</b>	
10.-11.03.	Oslo, NOR	Oslo, NOR (11)	Oslo, NOR	Oslo, NOR (10)
13.-14.03.			Lillehammer, NOR (13)	Trondheim, NOR
15.03.	<b>World Cup Final</b>		Trondheim, NOR	
16.-18.03.	Falun, SWE		Vikersund, NOR (17/18)	Klingenthal, GER (17-18)
23.-25.03.		Oberstdorf, GER (24/25)	Planica, SLO	Schonach, GER (24/25)

FIS Nordic Junior World Ski Championships, Kandersteg-Goms (SUI), 27.01 – 04.02.2018  
 Olympic Winter Games Pyeongchang (KOR), 10.02 – 25.02.2018

2017/2018 SAJ公認クロスカントリースキー大会・TD・コード一覧表

No.1

番号	期日	開催地	大会名称	カテゴリー	種目(日付):男子	CODEX	種目(日付):女子	CODEX
1	12/15-17	北海道 遠軽町	第29回白滝大雪クロスカントリースキー大会	B	10kmC (12/16) 10kmF (12/17)	0001 0002	5kmC (12/16) 5kmF (12/17)	5001 5002
2	12/20-23	北海道 音威子府村	第32回全日本学生チャンピオンズスキー大会	B	SP 1.2kmF Qual (12/21) SP 1.2kmF 1、2部 Final (12/21) SP 1.2kmF 3、4部 Final (12/21)	0003	SP 1.2kmF Qual (12/21) SP 1.2kmF 1、2部 Final (12/21)	5003
3	12/24	北海道 名寄市	第23回クロスカントリー名寄大会	B	10kmF (12/22) 15kmC (12/23)	0004 0005	5kmF(12/22) 10kmC (12/23)	5004 5005
4	12/25-27	北海道 音威子府村	FIS Far East Cup第35回全日本クロスカントリー音威子府大会 FIS Far East Cup The 35th OTOINEPPU Cup	COC B	10kmC (12/26) 10kmF (12/27)	0007 0008	5kmC (12/26) 5kmF (12/27)	5007 5008
5	1/4	北海道 旭川市	第45回全日本クロスカントリー旭川大会	B	10kmF (1/4)	0009	5kmF (1/4)	5009
6	1/6	北海道 札幌市	第36回伊藤杯全日本チャンピオンズスキーレース FIS Far East Cup The36th Ito Cup All Japan Champion Ski Races	COC B	10kmC (1/6)	0010	5kmC (1/6)	5010
7	1/6-8	岩手県 八幡平市	GALLIUM CUP 第29回田山クロスカントリー大会	B	10kmC (1/7) 10kmF (1/8)	0011 0012	5kmC (1/7) 5kmF (1/8)	5011 5012
8	1/7	北海道 札幌市	ワンウェイ杯全日本クロスカントリーレース2018 FIS Far East Cup ONEWAY Cup All Japan Cross-Country Race 2018	COC B	SP 1.4kmF Qual (1/7) SP 1.4kmF Final (1/7)	0013	SP 1.4kmF Qual (1/7) SP 1.4kmF Final (1/7)	5013
9	1/8	北海道 札幌市	札幌トヨタ杯全日本クロスカントリースキーレース2018 FIS Far East Cup Sapporo Toyota Cup All Japan Cross-Country Ski Races 2018	COC B	15kmF (1/8)	0014	10kmF (1/8)	5014
10	1/12-14	広島県 北広島町	2018高松宮杯西日本クロスカントリースキー選手権大会	B	10kmC (1/13) 10kmF (1/14)	0015 0016	5kmC (1/13) 5kmF (1/14)	5015 5016
11	1/12-14	滋賀県 高島市	マックアースカップ箱館山Cross-Country Ski Fesuta2018	B	10kmC (1/13) 10kmF (1/14)	0017 0018	5kmC (1/13) 5kmF (1/14)	5017 5018
12	1/19-21	鳥取県 大山町	2018TOSクロスカントリー選手権大会	B	10kmF (1/20) 10kmC (1/21)	0019 0020	5kmF (1/20) 5kmC (1/21)	5019 5020
13	1/20-21	長野県 野沢温泉村	第84回長野県スキー選手権大会(スプリント種目)	B	SP 1.2kmC Qual (1/21) SP 1.2kmC Final (1/21)	0022	SP 1.2kmC Qual (1/21) SP 1.2kmC Final (1/21)	5022
14	1/23-25	青森県 大鰐町	第40回東北高等学校スキー選手権大会 兼 あじやからカップスキー大会	B	リレー10km×4(1/24) 10kmF (1/25)	M001 0023	リレー5km×3(1/24) 5kmF (1/25)	W001 5023
15	1/25-28	新潟県 十日町市	天皇杯 第96回全日本スキー選手権大会 クロスカントリー競技 The96th ALL Japan Ski Championship (Cross-country)	A NC	リレー10km×4(1/26) SP 1.3kmC Qual (1/27) SP 1.3kmC Final (1/27) 15kmC (1/28) Mass FIS	M002 0024 0025	リレー5km×3(3/16) SP 1.3kmC Qual (1/27) SP 1.3kmC Final (1/27) 10kmC (1/28) Mass FIS	W002 5024 5025

2017/2018 SAJ公認クロスカントリースキー大会・TD・ロード 一覧表

No.2

番号	期日	開催地	大会名称	カテゴリー	種目(日付)コード:男子	CODEX	種目(日付)コード:女子	CODEX
16	2/4	北海道 札幌市	第38回札幌国際スキーマラソン大会 The 38th Sapporo International Ski Marathon	FIS (ML) PCC	50kmF (2/4) 25kmF (2/4) 10kmF (2/5)	M003 M004 0026	50kmF (2/4) 25kmF (2/4) 5kmF (2/5)	W003 W004 5026
17	2/4-8	岐阜県 郡上市	第67回全国高等学校スキー大会	A	10kmC (2/7) リレー10km×4 (2/8) 5kmC (2/9)	0027 M005 0028	5kmC (2/6) リレー5km×3 (2/8) 3kmC (2/9)	5027 W005 5028
18	2/8-11	秋田県 鹿角市	第55回全国中学校スキー大会	A	5kmF (2/10) リレー5km×4 (2/11)	0029 M006	3kmF (2/10) リレー3km×4 (2/11)	5029 W006
19	2/11	北海道 伊達市	第28回おおたき国際スキーマラソン	PCC	15kmF (2/11)	M007	15kmF (2/11)	W007
20	2/16-19	長野県 野沢温泉村	第30回全国高等学校選抜スキー大会(ルディック種目)	A	10kmC (2/17) 15kmF (2/18) Mass SP1.2kmF Qual (2/19) SP1.2kmF Final (2/19)	0030 0031 0032	5kmC (2/17) 10kmF (2/18) Mass SP1.2kmF Qual (2/19) SP1.2kmF Final (2/19)	5030 5031 5032
21	2/18	北海道 美瑛町	丘のまちびえい宮様国際スキーマラソン hilly town of miyasama international ski marathon	FIS (ML) PCC	20kmF (2/18) 38.3kmF (2/18)	M008 M009	20kmF (2/18) 38.3kmF (2/18)	W008 W009
22	2/25-28	新潟県 妙高市	第73回国民体育大会冬季大会スキー競技会	A	10kmC 少年(2/26) 10kmC 成年A, B(2/26) 5kmC (2/27)	0033 0034 0035	5kmC (2/27)	5033
23	3/1-5	長野県 野沢温泉村	秩父宮杯・秩父宮妃杯 第91回全日本学生スキー選手権大会 91th 2018 Intercollegiate Skiing Games of Japan	A	少年リレー10km×4 (2/28) 成年リレー10km×4 (2/28) 1部30kmC (3/2) Mass 2部15kmC (3/2) Mass 3部10kmC (3/2) Mass 2部10kmF (3/3) 3部5kmF (3/3) 1部10kmF (3/4) 2,3部リレー 5km×3 (3/4)	M010 M011 0036 0037 0038 0039 0040 0041	リレー5km×4 (2/28) 1部15kmC (3/2) Mass 2部10kmC (3/2) Mass 2部5kmF (3/3) 1部5kmF (3/4)	W010 5036 5037 5039 5042
24	3/8-11	北海道 札幌市	第89回宮様スキー大会国際競技会 The 89th International Miyasama Ski Games	FIS B	10kmC (3/9) 15kmF (3/10)	0042 0043	5kmC (3/9) 10kmF (3/10)	5042 5043
25	3/9-11	岩手県 八幡平市	第42回全日本マスターズスキー選手権小樽大会	マスターズ*	マスターズ規定	—	マスターズ規定	—
26	3/10-11	北海道 旭川市	第38回バーサローベット・ジャパン 38th VASALOPPET JAPAN	FIS (ML)	50kmF(3/10) 45kmF(3/10)	M014	30kmF (3/10)	W014
27	3/11	新潟県 十日町市	2018 YOKO 第38回十日町カップ クロスカントリースキー大会	B	10kmF (3/11)	0044	5kmF (3/11)	5044



番号	期日	開催地	大会名称	カテゴリー	種目(日付)コード:男子	CODEX	種目(日付)コード:女子	CODEX
28	3/12-16	北海道 札幌市	第96回全日本スキー選手権大会 クロスカントリースキー競技 The 96th All Japan Ski Championship Cross-Country Competition	A	10kmF (3/13)	0045	5kmF (3/13)	5045
					Skiathlon 10/10kmC/F (3/14)	0046	Skiathlon 5/5kmC/F (3/14)	5046
					50kmF (3/16) Mass	0047	30kmF (3/16) Mass	5047
29	3/16-19	北海道 名寄市	JOCジュニアオリンピックカップ2018全日本ジュニアスキー選手権大会 兼 全日本中学生 小学生選抜スキー大会	A	10kmF (3/18)	0048	5kmF (3/18)	5048
					10kmC (3/19)	0049	5kmC (3/19)	5049
					2.5kmF (3/18)小学生	0050	2.5kmF (3/18)小学生	5050
					2.5kmC (3/19)小学生	0051	2.5kmC (3/19)小学生	5051
30	3/20-21	石川県 白山市	2018 白山白峰クロスカントリースキーレース	B	15kmF (3/21) Mass	0052	10kmF (3/21) Mass	5052
31	3/23-24	富山県 南砺市	たいらクロスカントリースキー大会	B	10kmF (3/24)	0053	5kmF (3/24)	5053
32	3/25-26	長野県 山ノ内町	第46回志賀高原距離大会	B	10kmF (3/26)	0054	5kmF (3/26)	5054
33	3/28	新潟県 津南町	トコモカップ第20回つなぐクロスカントリースキー大会	B	10kmF (3/28)	0055	5kmF (3/28)	5055
34	3/29-30	新潟県 妙高市	2018小賀坂CUP 第43回池の平クロスカントリースキー選手権大会	B	10kmC (3/30)	0056	5kmC (3/30)	5056
35	3/29-31	新潟県 妙高市	第29回クロスカントリースキーチャンピオンシップ池の平大会	B	10kmF (3/31)	0057	5kmF (3/31)	5057

※全日本選手権、国民体育大会と全日本学生選手権には、TD、ATD(アシスタントTD)の他SAJ指名ジュニア2名を派遣する。

※カテゴリーAの大会にはTDとATDを、カテゴリーBの大会にはTDを派遣する。

※2017/2018シーズンは全日本学生チャンピオン大会に選手権に、TD、ATDの2名を派遣する。

※技術代表の欄1段目はTDを、2段目はATDを、3・4段目は派遣ジュニアを指す。 FISカテゴリー、技術代表の欄2段目はナショナルATDを指す。

2017/2018公認競技大会ポイント締切日と有効期間

期日	開催地	大会名称	カテゴリー	ポイントリストNo.	
				有効	反映
12/15-17	北海道 遠軽町	第29回白滝北大雪クロスカントリースキー大会	B	No.1	No.2
12/20-23	北海道 音威子府村	第32回全日本学生チャンピオンズスキー大会	B	↓	↓
12/24	北海道 名寄市	第23回クロスカントリー名寄大会	B	締切	↓
12/25-27	北海道 音威子府村	FIS Far East Cup第35回全日本クロスカントリー音威子府大会 FIS Far East Cup The 35th OTOINEPPU Cup	COC B	↓	No.3
1/4	北海道 旭川市	第45回全日本クロスカントリー旭川大会	B	No.2	↓
1/6	北海道 札幌市	第36回伊藤杯全日本チャンピオンズスキーレース FIS Far East Cup The36th Ito Cup All Japan Champion Ski Races	COC B	↓	↓
1/6-8	岩手県 八幡平市	GALLIUM CUP 第29回田山クロスカントリー大会	B	↓	↓
1/7	北海道 札幌市	ワンウェイ杯全日本クロスカントリーレース2018 FIS Far East Cup ONEWAY Cup All Japan Cross-Country Race 2018	COC B	↓	↓
1/8	北海道 札幌市	札幌トヨタ杯全日本クロスカントリースキーレース 2018FIS Far East Cup Sapporo Toyota Cup All Japan Cross-Country Ski Races 2018	COC B	↓	↓
1/12-14	広島県 北広島町	2018高松宮杯西日本クロスカントリースキー選手権大会	B	↓	↓
1/12-14	滋賀県 高島市	マックアースカップ箱館山Cross-Country Ski Fesuta2018	B	↓	↓
1/19-21	鳥取県 大山町	2018TOSクロスカントリー選手権大会	B	↓	↓
1/20-21	長野県 野沢温泉村	第84回長野県スキー選手権大会(スプリント種目)	B	締切	↓
1/23-25	青森県 大鰐町	第40回東北高等学校スキー選手権大会 兼 あじらカップスキー大会	B	↓	No.4
1/25-28	新潟県 十日町市	天皇杯 第96回全日本スキー選手権大会 クロスカントリー競技 The96th ALL Japan Ski Championship (Cross-country)	A NC	No.3	↓
2/4-8	岐阜県 郡上市	第67回全国高等学校スキー大会	A	締切	↓
2/8-11	秋田県 鹿角市	第55回全国中学校スキー大会	A	↓	No.5

期 日	開催地	大会名称	カテゴリー	ポイントリストNo.	
				有効	反映
2/16-19	長野県 野沢温泉村	第30回全国高等学校選抜スキー大会(ノルディック種目)	A	No.4	↓
2/25-28	新潟県 妙高市	第73回国民体育大会冬季大会スキー競技会	A	↓	↓
3/1-5	長野県 野沢温泉村	秩父宮杯・秩父宮妃杯 第91回全日本学生スキー選手権大会 91th 2018 Intercollegiate Skiing Games of Japan	A	締切	↓
3/8-11	北海道 札幌市	第89回宮様スキー大会国際競技会 The 89th International Miyasama Ski Games	FIS B	↓	No.6
3/11	新潟県 十日町市	2018 YOKO 第38回十日町カップ クロスカントリースキー大会	B	↓	↓
3/12-16	北海道 札幌市	第96回全日本スキー選手権大会 クロスカントリー競技 The 96th All Japan Ski Championship Cross-Country Competision	A NC	No.5	↓
3/16-19	北海道 名寄市	JOCジュニアオリンピックカップ2018全日本ジュニアスキー選手権大会 兼 全日本中学生 小学生選抜スキー大会	A	↓	↓
3/20-21	石川県 白山市	2018 白山白峰クロスカントリースキーレース	B	↓	↓
3/23-24	富山県 南砺市	たいらクロスカントリースキー大会	B	↓	↓
3/25-26	長野県 山ノ内町	第46回志賀高原距離大会	B	↓	↓
3/28	新潟県 津南町	ドコモカップ第20回つなんクロスカントリースキー大会	B	↓	↓
3/29-30	新潟県 妙高市	2018小賀坂CUP 第43回池の平クロスカントリースキー選手権大会	B	↓	↓
3/29-31	新潟県 妙高市	第29回クロスカントリーチャンピオンシップ池の平大会	B	締切	↓

## I、TDの指名を受けたら

- 1、開催地の責任者と連絡をとる。
  - ①コース・データの確認、②積雪等の情報を得る
  - ③要望等は早めに ④現地到着日等の連絡

## II、現地に到着したら

- 1、競技委員長から準備状況の報告を受ける。
- 2、コース視察を行う。その際、選手、コーチ、地元役員から批判を受けないように必ずスキーを履いてコース視察を行う。
  - ・積雪等の関係でコース変更を行う必要がある場合は、変更後のコース・データをリザルトに記載する。  
コース変更する場合は早急にSAJクロスカントリー技術・運営委員長まで連絡する。  
チーム・キャプテン・ミーティングでもこのことを伝達する。
- 3、競技前・競技中・競技後の業務を行う。
  - ・助言の必要、修正の必要がある場合は適切なアドバイスを行う。
  - ・選手、コーチ、主催者からの要望・意見等がある場合は報告書に記載する。
- 4、競技規則391条(ペナルティー)に抵触した選手名は、**クロスカントリー:警告書**に内容を記載し、中村 堅へ郵送と同時に電話又はメールして下さい。そして、必ずTDレポートにも記載ください。
- 5、TDレポート(技術代表報告書)は競技日毎に作成して下さい。
- 6、以下の報告書原簿はSAJデータ・バンク Web、“お知らせ”から入手して下さい。
  - ・クロスカントリー書面警告書
  - ・クロスカントリーSAJペナルティーP報告書
  - ・SAJクロスカントリーTDレポート(日本語)
  - ・インジュリーレポート(傷害報告)

## III、公式報告書の提出先

- 1、SAJ競技本部長への報告
  - ①TD報告書1部 ②大会要項、プログラム(又はスタートリスト)1部 ③リザルト1部送付先:〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館 SAJ競技本部長 宛
- 2、データ・バンクへの報告(メールでデータ送付のみ)
  - ①ポイント・ルールどおりに処理したリザルト1部 ②スタートリスト1部
  - ③ペナルティ・ポイント報告書 ④TD報告書

アドレス                      [taikai@xcat.co.jp](mailto:taikai@xcat.co.jp)

問い合わせ                      クロスキャット内   SAJ データ・バンク宛  
TEL 03-3474-5302   FAX 03-3474-5255

3、大会開催地組織委員会への報告

アドバイス、要望、改善提案等のコメントをつけた TD 報告書を1部

4、担当者(SAJクロスカントリー技術・運営委員長)への報告

TD 報告書、リザルト、ペナルティ・ポイント報告書、大会要項、スタートリスト各1部  
インジュリーレポート

送付先: 〒399-9301 北安曇郡白馬村北城 10800 中村 堅 宛

Tel 090-1613-9265(携帯)、Fax 0261-72-6521(自宅)

IV、その他

・最新版『SAJクロスカントリースキー競技規則』

は、データ・バンク Web.及び、SAJ HP.[ライブラリー]から入手できます。

※必ず最新版ルールで運営を行うようお願い致します。

『FISクロスカントリー ジュリーのためのガイドライン』

『ポイント・ルール』

は、データ・バンク Web.及び、SAJ HP.[ライブラリー]に

【2017/2018 技術・運営ハンドブック】として掲載されています。

『FIS CC コース・ホモロゲーションマニュアル』

は、SAJ HP.[ライブラリー]から入手できます。

・公式報告書の提出はTDが必ず、責任を持って対応するよう、お願いします。

FIS大会もSAJ公認大会を兼ねています。ATDがSAJのTDレポートを作成、提出をお願いします。PCC 大会は SAJ 派遣 ATD が SAJ の TD レポートを作成、提出をお願いします。

2017.10.

## 2017/2018 シーズンにおける、新 FIS ルールへの対応について

SAJ クロスカン トリー部

- ◎ ICR343.8.1 項 (ポール 8 3 % 条項、2016/17 シーズンからの条項)  
今シーズン (2017/18) SAJ 主催・公認大会における対応について、下記の通りとする。
- 1、以下の SAJ 主催・公認大会以外は条項が適用される。
- ・ 2/8～11 第 55 回全国中学校スキー大会(秋田県・鹿角市)
  - ・ 3/16～19 JOC ジュニアオリンピックカップ
- ※ SAJ に身長データが無い選手(高校 1 年生など)は採取のため下記の通り、参加選手の測定を実施する。再検査を希望する選手も同様に実施する。
- 実施期間 学生チャンピオン大会の前から全日本音威子府大会前  
(後日日程、時間をチームごとに通知する)
- 実施場所 音威子府会場、管理棟
- 上記大会に参加しない選手は以降の公認大会の事務局に申し出て測定する。
- ◎ ICR310.2.1.4 項 (※要約=ダブル・ポール禁止ゾーンをジュリー判断として設定  
2016/17 シーズンからの条項)  
今シーズン (2017/18) SAJ 主催・公認大会における対応について、下記の通りとする。
- 1、全ての SAJ 主催・公認大会で条項が適用される。
- 2、条項の名称を『テクニクゾーン』とする。
- ◎ ICR316.4.1 項及び 316.4.2 項 (計時におけるトランスポンダの扱いについて。2016/17  
シーズンからの条項)  
今シーズン (2017/18) SAJ 主催・公認大会における対応について、下記の通りとする。
- 1、全ての SAJ 主催・公認大会で条項が適用される。

以上

## 公認大会 リザルト、他の不備点について

2016-2017大会

### リザルト関係

- ◎ ポイントの記載がSAJポイントではなく、レースポイントが記載されていた。
- ◎ 競技者番号の記載無し。
- ◎ ペナルティポイント表の送付無し
- ◎ ポイントの記載が違っていた。(ずれていた)
- ◎ スプリントの予選リザルトの送付無し
- ◎ ジュリーメンバー構成の不備  
B級公認のメンバー構成でコース係長が含まれている。  
B級公認のメンバー構成で副競技委員長が含まれている。

B級はTD、ATD、競技委員長の3名構成
----------------------

### ペナルティ計算表

- ◎ 1位の有効SAJポイントが違う。
- ◎ 適用ペナルティ値がちがう。(マックスバリュが適用されていない)
- ◎ 外人が含まれていた。

### その他

- ◎ スプリント決勝ヒートのレーン選択権の順番違い。
- ◎ 報告書の送付無し。

<input type="checkbox"/> スプリント Sprint	<input type="checkbox"/> ディスタンス Distance:	<input type="checkbox"/> マススタート Mass Start	<input type="checkbox"/> スキーアスロン Skiathlon	<input type="checkbox"/> パシュート Pursuit	<input type="checkbox"/> インターバルスタート Interval Start	Codex No. <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr></table>			

## SAJ ペナルティ・ポイント報告書

SAJ Points Additional Report Cross-Country

**競技終了後リザルト・TDレポート・プログラム・スタートリストと共に3日以内に送付下さい。**

To be sent together with result lists and TD report and the result list within 3 days after the competition to FIS

TDが記入する To be filled in by TD					
<b>競技会の名称</b> Name of the competition _____			<b>競技会場</b> Competition site _____		
Land Country	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	月 日 Date	<input type="checkbox"/>	距離 Distance	<input type="checkbox"/> 競技会カテゴリー Level of the competitor:
女子 Ladies	<input type="checkbox"/>	男子 Men	<input type="checkbox"/>	テクニック:フリー Technique: free	<input type="checkbox"/>
				クラシカル classic	<input type="checkbox"/>
				全日本	<input type="checkbox"/>
				A級	<input type="checkbox"/>
				B級	<input type="checkbox"/>
				COC	<input type="checkbox"/>
				マスター ス	<input type="checkbox"/>
				PCC	<input type="checkbox"/>
<b>コースデータ</b> Technical characteristics					
HD m	MC m	TC m	標高最高地点 m		
HD in meter	m MC in meter	m TC in meter	m Highest Level above sea m		
ランク Rank	SAJコード Code	氏 名 Name First Name		所 属 Team	SAJポイント SAJ Points according to list
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
<b>SAJポイント上位3名のポイントを足し 3.75で割る</b> Remove the two (2) worst list points. Add the remaining three (3) values. Divide by 3.75					= 計算ペナルティ
					ミニマムペナルティ
					マキシマムペナルティ
					レースペナルティ
年 月 日 ( ) Date				TD署名 Signature TD _____	



(公財)全日本スキー連盟 (Ski Association of Japan)  
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内  
Tel 03-3481-2315 Fax 03-3481-2318 <http://www.ski-japan.or.jp>

**クロスカントリー:警告書(口頭警告含む)**

年月日: 年 月 日( )

競技会名:

違反者名:

所属加盟団体名:

違反内容:ルール

条に抵触

所見:

(追加制裁:罰金 円)

TD 署名:

違反者 署名:

**書面による警告を二度受けると強制失格(352.2.3条)になる**

1枚はSAJ競技本部長へ、1枚は違反者へ、1枚は違反者の所属加盟団体へ、送付し、  
1枚はSAJ CC技術・運営委員長へ送付下さい。

**口頭警告・注意内容**

口頭による警告・注意の場合も下記に記載しTDレポートと同時に送付下さい。

違反者名:

所属加盟団体名:

口頭警告・注意内容

TD 署名:

Reporter: 

入力欄をクリックしてください

《Event information》		《Athlete information》	
Discipline 〈競技種目〉 <input type="checkbox"/>		Name 〈名 前〉	
Site 〈場 所〉		Gender 〈性 別〉	
Competition 〈大会名〉		Birth date 〈生年月日〉	DD.MM.YYYY 日 月
Category 〈カテゴリー〉		Team 〈所 属〉	
Date 〈受傷年月日〉	DD.MM.YYYY 日 月		

## 《Injury information》

〈Body part injured〉 : 傷害部位 <input type="checkbox"/>	〈Injury type〉 : 傷害のタイプ <input type="checkbox"/>
〈Expected absence from training and competition〉 トレーニング及び試合への不参加見込み期間 <input type="checkbox"/>	〈Side〉 受傷側 <input type="checkbox"/>

医師による診察の有無

## 《Specific diagnosis》 具体的な診断名

診断医名	
所属	
電話orE-mail	

## 《Injury circumstances》

〈circumstances〉 : 試合 or 練習 <input type="checkbox"/>	Binding Release (受傷時ビンディング解放の有無) <input type="checkbox"/>
〈Type of snow〉 : 雪質、地面 <input type="checkbox"/>	〈Course conditions〉 : コースの状況 <input type="checkbox"/>
〈Weather conditions〉 : 気象状況 <input type="checkbox"/>	〈Wind conditions〉 : 風の状況 <input type="checkbox"/>

## 《Video》

\*Contact information to obtain copy of video  
上記ビデオの入手方法があれば記して下さい

\*Explain 上記に関する説明

--	--

## 《Other comments》 \*その他気付いた点があれば記入して下さい

--

2016/2017 SAJ公認クロスカントリースキー大会 TD報告書要旨 No.1

番号	期日	開催地	大会名(競技委員長)	カテゴリー	技術代表	TDの改善提案等コメント要旨	エントリー数		ヘパルタイム		インジュー報告
							男	女	男	女	
1	12/16-18	遠軽町	第28回白海北大雪クロスカントリースキー大会(古寺博)	B	江川 聡 (北海道)	計時計算の流れがスムーズである。連携が良く取れた組織委員会である。ジュリー用のピブの導入を望む。	10C/47 10F/43	5C/14 5F/14	40.22 40.30	47.13 47.13	症例無し
2	12/20-23	音威子府村	第31回全日本学生チャンピオンズスキー大会(山崎彰俊)	B	田中靖治 (北海道)	1日目SP、前日より降雪で50cmの吹溜まりができるほどコース状況は悪かったが変更無く終了した。 2日目FR、降雪で1日目と同じ状況、使用コースを5kmにし、距離を男子、15km→10km、女子を10km→5kmに変更して実施した。	SP.F/147 10F/150 10C/143	SP.F/42 5F/40 5C/38	68.66 17.97 14.40	52.28 33.80 35.00	症例無し
3	12/23	名寄市	第22回クロスカントリー名寄大会(高橋浩一)	B	吉田 茂 (北海道)	フィニッシュゾーンをより長く確保するレイアウトを考える。 管理棟またはジュリールームのネット環境設置を強く希望する。	10F/213	5F/68	5.97	36.09	症例無し
4	12/25-27	音威子府村	FIS Far East Cup第34回全日本クロスカントリー音威子府大会 FIS Far East Cup The 34st OTOINEPPU Cup (山崎彰俊)	COC B	Soon-Cheol Hong(FIS) 山家祥幸(学連)	コース終盤のS字カーブに、安全を期してセーフティマウントをダブルで設置することを検討願う。(ATD山家)	10C/367 10F/377	5C/127 5F/132	0.80 0.63	11.49 11.49	症例無し
5	1/4	旭川市	第44回全日本クロスカントリー旭川大会(山家祥幸)	B	山崎彰俊 (北海道)	競技日前日、1.5kmの道路横断箇所でスキーを外さないで滑走できるように希望する。	10F/45	5F/14	18.91	75.63	症例無し
6	1/6-8	八幡平市	GALLIUM CUP 第28回田山クロスカントリー大会	B	下浅勝雄 (宮城)	雪不足のため中止	—	—	—	—	—
7	1/6	札幌市	第35回伊藤杯全日本チャンピオンズスキーレース FIS Far East Cup The35th Ito Cup All Japan Champion Ski Races (池田幹雄)	COC B	江川 淳 (FIS) 金谷浩克 (北海道)	若手競技役員確保が課題。(前年と同様の指摘) TDルームと医務室は別室を用意すること。( 〃 ) トップ選手参加でレベルの高いレース。	10C/165	5C/64	1.36	23.70	症例無し
8	1/7	札幌市	ワンウェイ杯全日本クロスカントリーレース 2017 FIS Far East Cup ONEWAY Cup All Japan Cross-Country Races 2017 (池田幹雄)	COC B	江川 淳 (FIS) 片岡祐幸 (北海道)	若手競技役員確保が課題。(前年と同様の指摘) スタート地点にモニターを設置を要望する。 ヒート戦において説明に不備が生じた。	SPC /144	SFC/54	13.93	35.90	症例無し
9	1/8	札幌市	札幌トヨタ杯全日本クロスカントリースキーレース 2017 FIS Far East Cup Sapporo Toyota Cup All Japan Cross-Country Ski Races 2017 (池田幹雄)	COC B	江川 淳 (FIS) 片岡祐幸 (北海道)	若手競技役員確保が課題。(前年と同様の指摘) 競技役員間のコミュニケーションが必要。	15F/169	10F/58	1.36	19.54	症例無し
10	1/13-14	北広島町	2017高松宮杯西日本クロスカントリースキー選手権大会	B	渡邊雅彦 (大阪)	雪不足のため会場を変更した。変更の設置は迅速であった。 運営スタッフ少数であったがまとまり良く連携が取れていた。	—	—	—	—	—
11	1/18-19	木島平村	第83回長野県スキー選手権大会 [スプリント種目フリー] (市川 昭)	B	中山哲治 (長野)	雪不足のため会場を変更した。変更の設置は迅速であった。 運営スタッフ少数であったがまとまり良く連携が取れていた。	SPF/72	SPF/30	74.06	62.41	症例無し
12	1/20-22	大山町	TOSクロスカントリースキー選手権大会(本守竜二)	B	藤木弘美 (岡山)	競技に精通した若手役員の確保が課題。数少ない公認大会であるので、選手のレベルアップのために参加者の増員を望む。ワックステストコースは明確な表示をすること。1日目は吹雪であったが設定、整備はスムーズであった。	10F/38 10C/40 5C/5	5F/14 5C/17 —	124.17 124.07 133.70	140.80 140.80	症例無し
13	1/22-24	高島市	マツクアース箱館山Cross-Country Ski Festa 2017(野崎吉雄)	B	真目祐治(学連)	昨年中止になった影響が、タイムスケジュール通りに行かない部分があった。事前シミュレーションの実施を希望する。運営マニュアル、役割分担の確認を望む。役員用チケットの準備を望む。競技本部建屋の増設、フィニッシュゾーンの拡張を検討願う。大会の認知度を上げ参加者の増加に期待する。	10C/12 10F/14	5C/4 5F/4	140.80 140.80	140.80 140.80	症例無し
14	1/24-26	大鵬町	第39回東北高等学校スキー選手権大会 兼 あじからカップスキー大会(久保直人)	B	田口 将 (秋田)	1日目、連日の降雪に速やかに対応しスケジュール通り運営できた。 2日目、コースコンディション良くスムーズな運営。	10F/84 ルー/11	5F/31 ルー/5	46.86 —	96.51 —	症例無し

番号	番期日	開催地	大会名称	カテゴリ	技術代表	TDの改善提案等コメント要旨	エントリー数		ヘッパルタイム		インジューラ報告		
							男	女	男	女			
15	1/26-29	十日町市	第95回全日本スキー選手権大会 種目:スプリント・スキー・アスロン (The 95th JapanSki championship(Cross-country) (児玉義昭)	A NC	江川 淳 (北海) 道) 杉沼 賀 (山) 形) 志賀直哉 (新潟) 織田則 泰 (石川)	1日目、SP、レグピブは両サイドに付けるのが望ましい。 2日目、TSP、昨日からの雨でコースが柔らかくなくなったが役員総出で素晴らしいコースが出来た。 3日目、コース良好。 今後のために圧雪車に取り付けられた4連カッターの導入が必要となる。	SPF/83 TSP C/36 SA 10C+10F /72	SPF/57 TSP C/15 SA 5C+5F/3 5	17.83 — 0.00	44.32 — 0.00	症例無し		
16	2/2-5	真室川町	第54回全国中学校スキー大会 (佐藤新一)	A	佐藤志郎 (長野) 高橋洋一 (岩手)	1日目、クラシカル、女子ウォーミングアップの確保が十分ではなかったが大きな問題なく終了。 男女のスタート時間の間隔を後30分開ければ確保できると思われる。 2日目、応援者のコース内、立ち入りのコントロールの徹底ができなかった。 期間を通して表彰式は整然とおこなわれた。	5C/175 5F/177 ルー-/19	3C/122 3F/121 ルー-/15	80.00 80.00 —	80.00 80.00 —	3/2ルース 中庄迫骨 折 1名		
17	2/2-6	片品村	平成28年度全国高等学校総合体育大会 第66回全国高等学校スキー大会(萩原和典)	A	市川 昭 (長野) 切手直樹 (岐阜)	競技1日目、悪天候(吹雪)に翌日実施とした。 2日目、男女フリーを実施。予定の女子クラシカルを翌日に行うこととした。運営はスムーズであった。 競技3日目、男女クラシカル実施、特に問題無し。 競技4日目、悪天候だったが、整備を良くしルーを実施。運営はよかった。会場立地面から、開催時期が2月中旬以降の競技会実施を考慮すればと考える。輸送もこの会場独特の課題である。	10F/193 10C/192 ルー-/32	5F/114 5C/113 ルー-/24	34.26 37.77 —	61.77 84.47 —	症例無し		
18	2/5	札幌市	第37回札幌国際スキーマラソン大会(中田邦雄) The 37th Sapporo International Ski Marathon	FIS (ML)	Casey Carlie (FIS) 江川 淳 (北海道)	コースよく整備されていて良い。(ATD江川)	50F/490 25F/392	50F/54 25F/73	— —	— —	— —	症例無し	
19	2/12	伊達市	第27回おおたき国際スキーマラソン (橋本善洋)	PCC	片岡祐幸 (北海道)	気温が高く暖かい。降雪もなく良いコンディションであった。実行委員会が競技役員に業務マニユアルを配布し、各係の任務を徹底して良い。	15F/135	15F/26	—	—	—	症例無し	
20	2/14-17	白馬村	第72回国民体育大会冬季大会スキー競技会 (下澤弘嘉)	A	佐々木一成 (青森) 萩 藍葉弘之 (長野) 山 尚 (新潟) 山 尚 (新潟) 佐藤新一 (山形)	1日目、コース等の仕上げ良い。今団体は個人種目が2日に分散されたが競技者、コーチ、運営側も含め時間的余裕が出来、良いと感じる。 2日目、コースコンディション等、良く運営問題無し。 3日目、悪天候(雨)だったが、連携良くタイムスケジュールの変更無く運営された。トランスポンダは競技者への徹底を図り、ミスの無いように人員配置等が必要である。	少10C/143 戒10C/122 5C/48 少ルー-/24 戒ルー-/23	5C/135 — — 女ルー-/18	36.45 6.60 78.02 — —	29.76 — — — —	— — — — —	— — — — —	
21	2/18-19	美瑛町	丘のまちびえい宮嶽国際スキーマラソン Hilly Town Of MIYASAMA International Ski Marathon	FIS (ML)	渡邊 雅彦 (FIS) 古寺 博 (北海道)	送付無し	38F/ 20F/	38F/ 20F/	— —	— —	— —	— —	— —
22	2/19-24	大鱒町	秩父宮杯・秩父宮妃杯 第90回全日本学生スキー選手権大会 (久保直人)	A	中村 堅 (長野) 渡辺吉晴 (栃木) 高橋光二 (京都) 萩原和典 (群馬)	1日目、30km、従来、マスタースタートで行われるレースであったがコース幅等を考慮しインターバルスタートにして行われた。1部は良くコントロールされたレースだった。2部は競技レベル差が大きく競技時間が長くなった。今後の課題と思われる。運営は良く機能されていた。 2日目、女子1部レースまで降雪があったが適切なコース整備、前走対応でクリアした。後半レースは天候回復し問題なく終了。女子2部、競技開始直後は選手の手集合が遅れ気味となり、3日目、クラシカルトラックセットが遅くライソンの修正もあった。オーブンまでにシングルでも終了が望ましい。機器が1台でのダブルトラックセットは時間的にも仕上がり状態においても厳しいと思われる。同機種種のトラックセット機器の購入を望む。 4日目、男子2部リレーはレベル差が大きく2走者から繰り上げを実施した。計時、リザルト処理は安定性がある。 最終日、男女リレー共にレベル差が少なく、エキサイトディングでリレーの魅力を十分アピールできた。コース幅材が老朽化しているので対応を望む。	1部30F/ 80 2部30F/ 70 10F/42 10C/142 5C/39 1部ルー/ 14 2部ルー/ 16 3部ルー/ 12	10F/68 — — 5C/63 — 1部ルー/ 12 2部ルー/ 6	20.95 81.59 140.80 27.17 140.80 — — — —	41.04 — — 44.35 — — — — —	右膝動帯 損傷1名		
23	2/24-27	野沢温泉村	第29回全国高等学校選抜スキー大会 (ノルデインック種目) (市川 昭)	A	藤本久久 (富山) 東 禎孝 (長野)	1日目、運営特に問題無し。喫煙エリアの明確化とレスポンス内の禁煙化を望む。 2日目、朝夕、降雪あるも対応良く問題無し。 3日目、スプリント競技運営にスタッフが慣れているおりスムーズであった。ヒート戦でフライングが多い。	10F/171 15C/73 SAC/163	5F/81 10C/58 SAC/79	30.00 34.70 113.06	41.37 41.37 176.39	— — —	症例無し	

2015/2016 SAIJ公開クロスカントリースキー大会 TD報告書要旨

No.3

番号	番期日	開催地	大会名称	カテゴリ	技術代表	TDの改善提案等コメント要旨		エントリー数		ペナルティ		インジュー報告
						男	女	男	女			
24	3/2-5	札幌市	第88回宮様スキー大会国際競技会 The 88th International Miyasama Ski Games (吉田茂)	FIS B	池田 幹雄 (FIS) 岡本 英男 (北海道)	1日目、役員数が不足気味だが協力し運営に当たった。ダブルトラック設定でVコーンでインコーナー処理を行った。 2日目、コースコンディショニングに恵まれ高速レースとなった。この時期としては良い雪質は北海道ならではのと思われ。停電があり電計が一時ストップしたが適切な処理で協議が進められた。	10C/84 15F/77	5C/34 10F/29	12.66 5.52	31.96 39.74	症例無し	
25	3/3-6	八幡平市	第41回全日本マスターズスキー選手権入幡平APPJ大会 (山本専一)	MS	佐藤 英樹 (秋田)	安比特設コースで実施。1日目、前日の吹雪の影響でコース整備、ネット設置に要望出し対応された。コースの改善点も素早く対応された。問題意識を持って運営に臨んでいた。 2日目、天候もコース状況も良い。スタート前の選手紹介、コメントも良い。視察団が多く訪れ、招致に人気の大会であることをつかかわせたが、報道関係者が少なく広報をあり方の検討を望む。大会本部の設置と放送設備の充実を望む。	5C/32 3C/17 5F/29 3F/15	5C/4 3C/2 5F/2 3F/2	マスターズ対応		症例無し	
26	3/5	十日町市	2017 YOKO 第37回十日町カップ クロスカントリースキー大会 (児玉義昭)	B	藤本 智教 (長野)	男子競技の2周目と女子の競技が重なったため、コース内が混雑した。安全面も含め改善を望む。その他についてはスムーズな運営であった。	10F/67	5F/25	31.14	75.05	症例無し	
27	3/10-13	名寄市	JOCジュニアオリンピックカップ 2017全日本ジュニアスキー選手権大会・ノルディック種目 兼 全日本中学生選抜スキー大会 (高橋浩一)	A	田中 雅徳 (秋田) 江川 聡 (北海道)	1日目、スムーズな運営。伝達系統良い。選手目線での運営が出来ている。RCミーティングを実施を要望する。より意思疎通が高まりさらに高い競技運営が出来ると思われる。競技時間開始時刻と駐車場対応の件等改善を望む。 2日目、好天で運営も良い。口頭注意1名。大会期間3日間で1日目がクロカンは競技日ではないため選手の経済的負担が大きくなる。最初の2日で行われるよう日程調整が可能か検討を願う。	10F/202 10C/202	5F/131 10C/131	30.00 30.00	32.73 32.73	症例無し	
28	3/11-12	旭川市	第37回バーサーロベット・ジャンプ37th VASALOPPET JAPAN (中筋一之)	FIS (ML)	Seong-Tae Jeun (FIS) 嵯城和彦 (北海道)	コース整備、スムーズだった。今後も継続開催されることを望む。 役員の高齢化に伴い、今後若い役員の参加を期待する。(ATD盛城)	M 45F/70 L 30K/8	30K/81 15K/27	15K/209 5K/49	5K/119 5K/49	症例無し	
29	3/15-19	音威子府村	天皇杯 第95回 全日本スキー選手権大会 クロスカントリースキー競技 [リレー・デュオスタンス種目] (山崎彰俊)	A	安村 英彦 (青森) 池田 幹雄 (北海道) 高橋 浩一 (北海道) 立花 武良 (岩手)	1日目リレー、1、2走ボーン83%条項適用、違反者無し。DP禁止区間設定、第4走者2チームオーバースタップ適用。雪質状態での安全面を考慮し女子スタート時刻を9:30から10:00に変更。競技役員も役割を果たし余裕ある運営であった。 2日目個人スタート、スムーズな運営。コースオープン前にコースに入ったチームがあった。放送等が必要である。15km競技、4kmの交差部分は事故回避のため改善が必要。 最終日ロング、ボーン83%条項適用。DP禁止区間2か所設定。オーバースタップを適用。チームピット、及びスキーチェンジン設置。設置作業は良く対応してもらった。口頭注意、DP禁止2名、SK行為1名	ル-22 15F/117 50F/74	ル-/10 10F/61 30F/37	- 0 0	- 0 0	症例無し	
30	3/19	南砺市	第32回たいらクロスカントリースキー大会 (野原潤成)	B	竹内 順一 (石川)	安全対策は良好。より細やかな作業確認を望む。ジュニアレースも行われたが一部併走があった。スタート時間の調整の検討を願う。全日本選手権と日程が重なった。日程調整が必要。	10F/24	5F/12	69.09	123.03	症例無し	
31	3/19-20	白山市	2017 白山白峰クロスカントリースキーレース (織田則泰)	B	宮脇 範純 (富山)	ルールに忠実な運営。連携良く安心感があった。全日本選手権との兼ね合いもあり、一般のエントリーが少ないかった。コース幅は広く良い。西日本の選手の参加を期待したい。	15F/57	10F/13	28.18	35.32	症例無し	
32	3/25-26	山ノ内町	第45回志賀高原距離大会 (川辺俊一郎)	B	大島 誠 (新潟)	前日、別大会が開催されていた。前日のコースオープン時間のインフオーメーションの徹底を望む。 スタジアムが狭いためレイアウトを工夫していたが今後も研究してほしい。コース脇での喫煙がなられた。禁煙とし、喫煙場所の設定をすること。仮設での競技運営であるが熱意をもって運営に当たっていた。ヒプス新調の検討を望む。	10F/79	5F/16	18.14	57.37	症例無し	
33	3/28	津南町	ドコモカップ 第19回つなぐクロスカントリースキー大会 (志賀直哉)	B	鈴木 賢一 (東京)	狭いスタジアムを工夫して実施したため、観客の盛り上がり繋がった。表彰は多くの名士が務め盛り上がり帯与された。昨年と同様の指図となるが報道関係の来会が無かったことは残念である。 チームメントが増え観客場の整理が必要である。	10F/95	5F/26	20.50	24.14	症例無し	
34	3/29-30	妙高市	第42回池の平クロスカントリースキー選手権大会	B	加藤 治 (石川)	コース改修早期着工のため中止	-	-	-	-	-	-
35	3/29-31	妙高市	第28回クロスカントリースキーチャンピオンシップ池の平大会	B	加藤 治 (石川)	コース改修早期着工のため中止	-	-	-	-	-	-

2017 SAJ公認ローラーズスキー大会技術代表報告書要点抜粋

期日 2017	大会名 (競技委員長)	技術代表氏名	規制の有無※	エントリー数	運営に対する所感・提案・指摘事項
7/29-30	第36回全日本選抜ローラーズスキー羅漢山大会 (斉藤 正登)	本守 竜二 (岡 山)	有 CL	男 65 女 28	昨年提案事項のスタート周辺の混雑はTCMで指示が徹底され、交通整理にも人員が配置され安心感があった。役員意識高く相互の協力体制もとれた運営だった。地域に根付いた大会となっている。地域も非常に強力的である。競技終了後の招待選手による指導会の実施も良い。貴重なローラーズ大会として今後とも継続を望む。前日のローラーズスキートレーニング場所確保を望む。報道機関へのPRを強く望む。
8/6	全日本選抜第30回猿倉ローラーズスキー大会 (村井 直人)	佐藤 志郎 (長 野)	有 CL	男 176 女 106	スムーズな運営。フィニッシュが重なった時の処理が課題。 コースプロフィールを掲載すること。リザルト成立の手順を理解すること。計時計算は最悪の状況のシミュレーションを考えること。セレモニー(開会式、表彰式、閉会式)の演出は素晴らしい。30回の歴史を感じた。今後とも回数を重ねる進化を望む。
8/11-12	第28回全日本ローラーズスキー選手権大会 (田中 雅徳)	山本 専一 (岩 手)	有 CL 有 FR	男 CL 208 FR 204 女 CL 124 FR 110	1日目、熱中症対策に給水所の設置、救急対応は救急車の配置など安全確保が万全である。役員間の連携良くスムーズな運営。参加者も増えレベルも向上している。今後特にコース整備には努力をお願いしたい。 2日目、雨天。ラバーマットの破損、埋土流失などを迅速に補修対応できた。安全確保に最大限努力された。次年度希望として観客サービスの充実(放送、前年優勝者のカラービブ着用など)を希望。
8/13	第26回全日本選抜ローラーズスキーみやや大会 (切手 直樹)	野原 潤成 (富 山)	有 CL (FR もCL も用)	男 CL 34 FR 79 女 CL 30 FR 45	役員数は十分で、役割分担もでき安全面の意識も良い。セレモニーも整然として良い。招待選手の講演も良い。前年指摘事項のTCM不参加チームへの通知もできていた。グレースカパーのゴムマットがスレるため重いマットに交換などの工夫を望む。路面補修を計画的に実施を望む。経費等を考慮し種目の検量も検討する。周回コースで迷う選手がいた。工夫を願う。コース図の距離表示、プロフィール記載を見直し、分かりやすくすればよいと思われる。
8/19-20	第12回全日本選抜ローラーズスキーかがみの大会 (本守 竜二)	柘津 和利 (長 野)	有 CL 用	男 78 女 28	一般道路使用だが整備良く通行時間制限も徹底されていた。安全対策も問題なく役員を意識も高い。開閉会式、TCMも問題無し。当日アップコースは1周できれば良い。交通制限の時間を考慮し検討を願う。
8/20	第26回全日本選抜ローラーズスキー尾花沢大会 (杉沼 智)	立花 武良 (岩 手)	有 CL 用	男 91 女 54	一般道路使用で時間制限もあつたが前日までに整備がしかりできていた。前日及び当日のコース試走は不可だが表示板、役員配置など安全面で問題無し。ローラーズの練習環境や大会開催は厳しい現状であるが今後も安全と地域の協力を得て更なる充実を期待する。
9/3	全日本選抜2017木島平サマーノルディック大会 (柘津 和利)	井淵 信雄 (富 山)	有 CL	男 171 女 85	本年から公認大会として開催。役員数の確保、役割分担も良い。前日ランの大会が開催されたためローラーズオープンが16時からとなったが特に問題は無い。ローラーズスキー専用コースを使用。トラブル無し。開会、表彰式も来賓多く良い。今後も更なる盛り上げに期待。大会会場までの誘導看板の設置、表彰用にも使えるので大会看板の用意、放送機器の充実、スタジアムと識別できるもの、プログラムの作成を望む。

※ローラーズスキー機種に対する規制の有無

# FIS クロスカントリー ジュリーのためのガイドライン 2017/2018

(Version 2017年5月)

## 1. 準備

ジュリーが下す全ての決定の基本は国際競技規則(ICR)であり、ジュリーは、ルール違反が原因である問題の特有な状況を考慮に入れなくてはならない(352.1.1)。

このガイドラインは、ジュリーの決定に一貫性を持たせ、制裁が違反に対して適切であることを保証する目的で作られ、良くあるケースでのICRの解釈についてのジュリーへのアドバイスである。

すべてのケースと違反において、ジュリーはこのガイドラインに記載されている決定へのプロセスを取るべきである。

ジュリーの委員長は、その他のジュリーがこのガイドラインを知っていることを確認しなければならず、また、競技前のジュリーミーティング内で、準備の一部として使用されるべきである。

## 2. 決定へのプロセス&チャート

競技中に何か起きた時、ジュリーが最初に決定すべきことは、それがレースの事故であるか、ルール違反が原因であるかの決定である。

レースの事故はマスタートとスプリント競技では頻繁に発生し、ジュリーによって“ノーケース”のように考慮されるべきである。

ジュリーが、1人(またはそれ以上)の選手が間違いをしたと判断した場合、またはルール違反が起きた場合、最初のステップは、それが重大な違反か軽微な違反かを検討することである。

違反が軽微であるかどうかの判断は、ジュリーの裁量である(352.1.1)。

第2のステップは、違反者に利益があるか否か、または違反の結果として他の競技者にとって不利益な結果があるかどうかを判断することである。

違反または間違いが軽微であり、競技の結果に影響がない場合、制裁は口頭での戒告となる。

違反が軽微であり、その競技者にとって有利な場合、それが他の競技者に実質的な影響を及ぼさない結果であり、代替行動が可能であった場合、制裁は書面による戒告でなければならない(ただし、特別な場合)

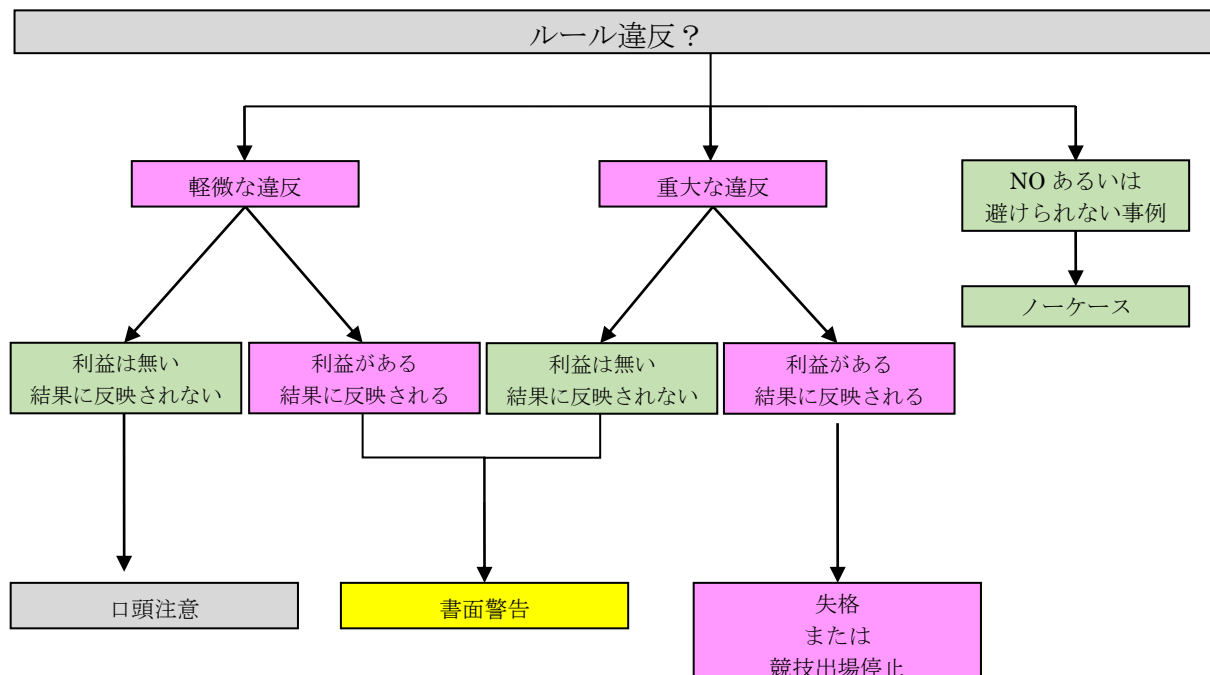
違反行為が重大で、違反者に有利でない場合、制裁は書面により警告でなければならない。(特定なルールのケース: スタート不許可、タイム・ペナルティーなど)

他の競技者が影響を受けている場合、ジュリーは競技者の最終結果に影響を与えたかを考慮する必要がある。影響が無い場合は、制裁は書面警告となる。

違反が重大であり、かつ、または競技の最終結果に影響を与えた場合(違反者に有利になる、または他の競技者の最終結果に影響を与える場合)および、352.2、352.3 に違反している場合は失格すべきである。

352.2.4(ステージ・イベント)では、DSQは352.4/352.4.2のタイム・ペナルティーまたは353.3の競技停止に換えることができる。

### 決定へのチャート



### 3. 失格と競技出場停止の決定(スプリント競技)

#### 223.3.3 条

ルールに特に記載されている場合を除き、競技の最終リザルトに有利に働く違反でない限り、選手は失格にならない。

#### 352.2.1 条

重大な違反と、競技会の最終リザルトへはっきりした影響がある違反に対してのみ、失格が使われるべきである。

#### 352.2.1 条

競技停止処分は、スプリントのヒート戦(決勝ラウンド)とボーナス・スプリント中(中間地点とフィニッシュ地点の両方)に起きた ICR 違反行為に対してのみ行使することができる。

ジュリーは、競技会フォーマットの一部を単一であり唯一の競技会のように考えるべきでない。“中間”競技会を含む競技会のように考えるべきである。このことは、次のケースにあてはまる。



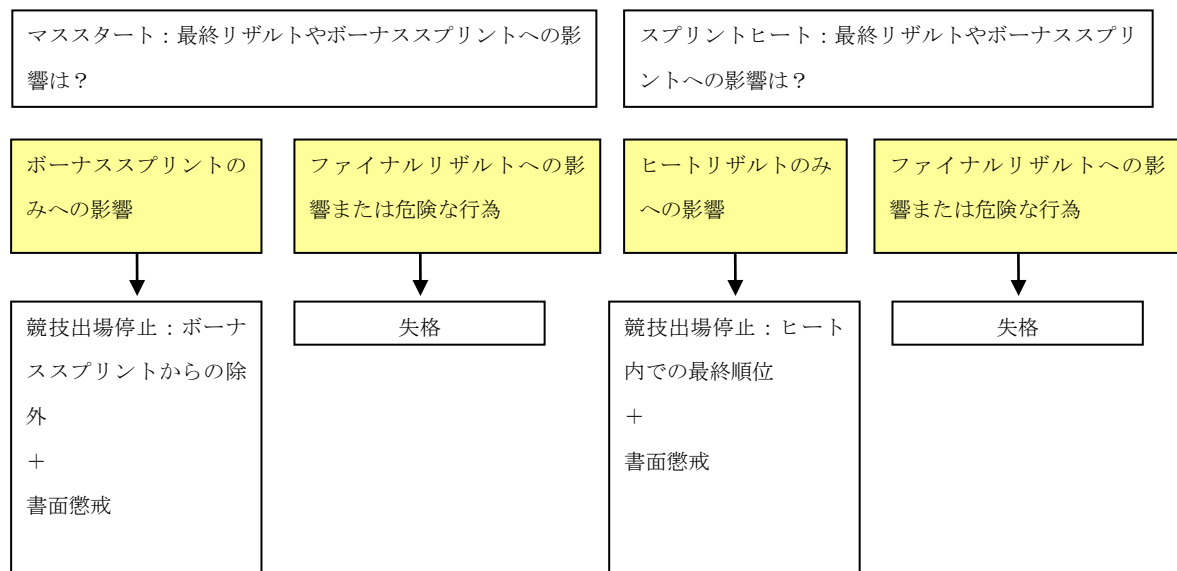
- ・マスタートやパーシュートのボーナススプリント（中間とフィニッシュの両方）
- ・スプリント競技のクォーターファイナル、セミファイナル、ファイナル。各ラウンドは、中間競技会のように考えられるべきである。

チャートを使い、失格または競技出場停止が決定される際、 Juryはその違反が最終リザルトに影響を及ぼすか、それらの中間の競技会リザルトのうちの1つのみに影響を及ぼすかを考慮しなければならない。最終リザルトに影響をおよぼす違反や、他の選手の安全に危険をおよぼす違反は、DSQ とされるべきである。（最終リザルトリストから除外される。）中間リザルトに影響を与える違反は、競技出場停止プラス書面懲戒を科されるべきである。

**競技出場停止とは、次を意味する。**

スプリント競技：ヒート内とラウンド内で、最終順位になる。（ファイナル6位、セミファイナル12位、クォーターファイナル30位）

マスタート及びパーシュート：ボーナススプリントのリザルトからの除外。



### 352. 3. 4 条 競技停止処分には常に書面警告書が付随する。

その他のフォーマットの場合、違反が最終リザルトに影響を及ぼしているか否かにより失格が決定され、罰則は自動的に失格となる。

## 4. ステージイベント：タイム・ペナルティー

マルチステージイベントのあいだ、通常のレースでは失格になる違反は、時々、厳しすぎる罰則である。なぜなら、1の競技会に対する失格ではなく、複数の競技会に対する失格であるからである。

よって、失格をタイム・ペナルティーに変えることができる。失格またはタイム・ペナルティーを使用するかは Juryの決定である。しかし、マルチステージイベントではタイム・ペナルティーが優先される。

一貫性をもたせるため、タイム・ペナルティーは以下のように設定される。

- ・インターバル・スタート競技会やスプリント予選でのフライングスタート：タイム・ペナルティーは、選手の「所要タイム+15 秒以上」と同等にするべきである。(352.4.1.1 条)
- ・ハンディキャップスタート競技会でのフライングスタート：タイム・ペナルティーは、「定時スタート時間と実際にスタートした時間の時間差+30 秒以上」と同等にするべきである。(352.4.1.2 条)
- ・そのほかの失格の場合：3分のタイム・ペナルティー (352.4.2 条)

## 5. クラシカル・テクニクの違反

個人スタートや、スプリント予選では、いかなる走法違反（例：スピード維持又は、加速させるためのスケーティング行為）は、リザルト（具体的には、スケーティングによってタイムが縮小し、より多くの FIS ポイントを獲得すること）に悪影響を及ぼす。ジュリーはたとえ優勝者であっても、選手間のタイム差異に関わらず適切な制裁（措置）を加える。

ダイヤゴナル・テクニクは、腕と脚の交互の対角線方向の動きの使用を意味し、ダイヤゴナルのストライドと開脚登高のテクニクを含む。

ジュリーは、マス・スタートやスプリント/チーム・スプリントのヒート戦で起こり得る特別な状況を考慮しなくてはならない。

ジュリーはビデオの証拠や選手のヒアリング無しで制裁を与えることができる。(ICR352.1.2)

## 6. 軽減事由

特殊且つ例外的な場合、失格が罰則として厳しすぎるケースが見受けられる。書面による注意が選手に対する「そのテクニクや行動がボーダーラインである」というメッセージになる場合がある。以下が、その場合になる。

- ・学ぶ機会を与えられるべき若い選手や経験がない選手に対する場合。(352.1 条)
- ・トラックがセットされていないコースの一部で、スケーティングをしているのか、ターンの技術なのか、選手はどの程度プッシュしているのか、判断が困難な場合。
- ・ジュリーと組織委員会が、トラックがはっきりとセットされていないと批判を受ける場合。

## 7. その他の罰則

- ・口頭注意：選手のテクニクや行動がボーダーライン上であることを選手に伝えるときにのみ用いられる。(352.6 条)
- ・罰金：コマーシャル・マーキングの違反、チームスタッフ、スキー産業の些細な行動風紀違反。(352.7 条)
- ・アクレディテーションの没収：

給食中やコーチングをしている最中に競技中の選手を故意や故意でないに関わらず妨害した場合。その他の風紀違反。

## 8. 証拠

全ての制裁はビデオ、写真、ジュリー又は競技役員などの証拠資料によって立証されなければならない。

## 9. 手続きガイドライン (224 条)

1. ジュリーは、全ての関連証拠を考慮するよう要求される。
2. 証言をする目撃者、ビデオ/TV 映像 (224.5 条)
3. 軽減及び加重事由を考慮に入れる。
4. ペナルティーを科す前に、違反に問われている人物には、ヒアリングで口頭または書面により抗弁する機会が与えられる。(注意及びアクレディテーションの取り消しの場合は除く) (224.7 条) 例外：このルールは、スプリント競技のクォーターファイナルとセミファイナルには適用されない。(326.6.3 条)
5. ヒアリングの際、選手は、自身の選択により、アクレディテーションを受けた人を伴うことが可能である。
6. ペナルティーは違反に対し妥当なものとする。
7. ジュリー決定は全て書面で記録されなければならない (競技セクレタリー)。それには次を含むものとする
  - ・ 嫌疑のかかっている違反行為
  - ・ 違反の証拠
  - ・ 違反したルールまたはジュリー指示
  - ・ 与えられたペナルティー
8. 罰則を受けた者は、上訴できる権利を有していることを知らされなければならない。
9. 書面によるペナルティー決定は、違反者、その所属国スキー連盟、及び FIS に送られなければならない。(223.7 条)
10. 失格は全て、TD レポートに記録する。(223.8 条)
11. ペナルティーは全て、TD レポートに記録する。(223.9 条)

## 10. クラシカル競技走法の用具管理

### 1. 手順のガイドライン

- ・ いつ、どこでチェックするか、どの選手をチェックするかをジュリーは責任を持って決める。
- ・ 大会開催者は測定装置を用意する。開催の数週間前に、ジュリーは必要な測定機器リストを送ること。
- ・ 全ての選手ではないが無作為にチェックを受ける。シーズンの最初には、選手の大多数がチェックを受けなければならない。
- ・ ポール・マーキングは行わない。

## 2. 測定

選手が用具を自分で確認できるように、測定機器はオフィシャル・トレーニングに利用可能にしておく。スタート前、フィニッシュ後に測定される可能性がある。必要ならば2台以上の測定機器を用意する。

ポピュラー・レースではスタートボックスに入る、その都度毎回利用可能にしておく。

マスタート競技で、スタート前に測定できない場合は終了後に行う。

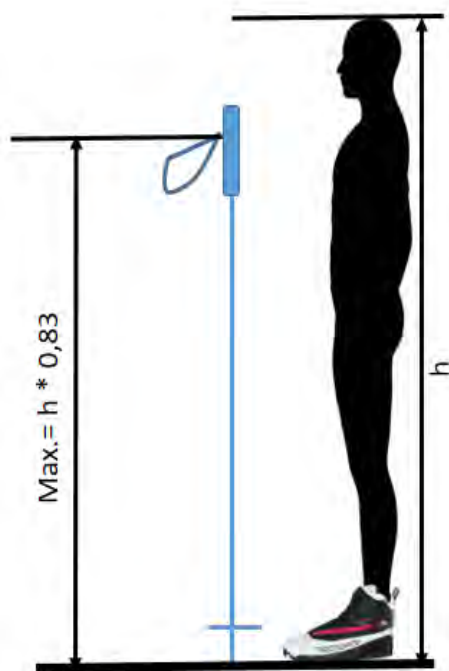
## 11. 措置

規格外の用具でスタートに立った選手は、スタートできない。(ICR351.2)

ICR343.8.1 ルールの規格から外れるポールをレース中も使用した選手には制裁措置が取られる。

## 12. ポールが破損した場合の交換

1本のポールが交換される場合、交換されたポールのサイズは関係ない。両方のポールが交換された場合は、ICR343.8.1に従わなければならない。



## ローラースキー競技運営ガイドライン

FIS ローラースキー競技規程と(公財)全日本スキー連盟スキー競技規則の最新版に基づき、安全にローラースキー競技会を実施することを目的に、ローラースキー競技運営ガイドラインを策定する。

### I、ローラースキーの機種

#### 1、フリー・テクニク用ローラースキー

長さ：前輪の車軸から後輪の車軸まで530mm以上でなければならない。

車輪径：車輪の直径は100mm以下でなければならない。

#### 2、クラシカル・テクニク用ローラースキー

長さ：前輪の車軸から後輪の車軸まで700mm以上でなければならない。

車輪径：車輪の直径は75mm以下でなければならない。

車輪幅：車輪の幅は35mm以上でなければならない。

3、ローラースキーの長さの許容範囲は、フリー、クラシカルと±5mmである。

### II、安全対策

- 1、クラシカル用ローラースキーはストッパーが付いている機種であること。
- 2、使用過多で極端に摩耗した小さなタイヤのローラースキーは使用禁止とする。
- 3、市販されているローラースキーであり形態は購入時の状態であること。  
改造したローラースキーは使用禁止とする。
- 4、ヘルメット、手袋の着用を義務付ける。肘サポーター、膝サポーターを着用することを推奨する。

### III、大会における機種決定時の注意事項

- 1、コースが狭い・下り坂や急カーブがあるなど、危険と判断される場合や参加選手の経済面を考慮し(特に、ジュニア選手等)、フリー・テクニクの競技であっても「クラシカル用の機種」に限定して実施してもよい。  
その場合は、必ず大会要項に記載すること。
- 2、大会でのテクニク・競技種目等は、担当TDの指導を受け大会組織委員会の責任で決定すること。

## SAJ公認クロスカントリー技術代表細則要旨(受験・研修・停止等)

### TD検定について

#### 《受験》

##### 受験資格

- (1) SAJ競技運営指導員資格保持者
- (2) SAJ競技技術指導員資格保持者又はクロスカントリースキー検定員資格  
上記、(1)は必須、(2)の資格の内一つが条件
- (3) 受験年の4月1日現在30才～50才の者
- (4) 上記のほか、SAJ大会の運営及び、指導に携わり、現在も指導者として活動し、  
加盟団体長の推薦により、SAJが必要とする者

#### 《審査及び公認》

- (1) 審査は、学科検定及び実地審査とする
- (2) 学科検定は通常隔年実施とする。
- (3) 実地審査(研修)の実施は、学科検定合格年度を含み2年間でSAJ公認大会の内、  
技術運営委員会が指定する大会の競技日、3日間とする。

3日間の内訳は、シーズン前に学科合格者に通知する。

- (4) 実地審査を2年間で修了しない場合は、学科合格は無効となる。

### TDライセンス保持者について

#### 《研修》

- (1) TDライセンス所有者はSAJ主催の2年に1回開催するTD研修会を受けなければならない

#### 《資格停止》

- (1) TD研修会を2回続けて欠席した場合は、資格停止とする。

#### 《資格喪失》

- (1) 正当な理由なくTD研修会を3回続けて欠席した場合は、資格喪失とする。

#### 《資格停止の解除》

- (1) 資格停止解除希望者の手順は以下である

資格停止解除申請書 ⇒ 加盟団体 ⇒ SAJ

- (2) 資格停止解除が認められた場合停止は解除となる。

### SAJ公認競技会の競技委員長

- (1) SAJ公認競技会の競技委員長はSAJ TDの有資格者でなければならない

## SAJ 技術代表(TD)名簿

2017(H29)年10月

No.	シ 氏	メイ 名	SAJ会員登 録番号	加盟団体	取得年	生年	所属団体
1	ワダ 和田	アキラ 明	125877	北海道	1990年以前	1935	札幌スキー連盟
2	タカハシ 高橋	セイイチ 誠一	41364	新潟県	1990年以前	1947	長岡スキークラブ
3	アンボ 安保	カツヒロ 勝広	13752	岩手県	1990年	1943	八幡平市スキー連盟
4	ウラカワ 浦川	ヨシヒロ 義博	17283	京都府	1990年	1944	大谷スキークラブ
5	サトウ 佐藤	ヒデキ 英樹	46466	秋田県	1990年	1952	鷹巣RCスキークラブ
6	カウ 加藤	オサム 治	21919	石川県	1990年	1951	白峰スキークラブ
7	ナカムラ 中村	カタン 堅	94389	長野県	1990年	1954	白馬村スキークラブ
8	ヨシダ 吉田	シゲル 茂	29716	北海道	1991年	1951	札幌スキー連盟
9	ヤンベ 山家	ヨシユキ 祥幸	136852	学連	1991年	1948	桜門スキー倶楽部
10	イケダ 池田	ミキオ 幹雄	91871	北海道	1991年	1951	札幌スキー連盟
11	オオタ 太田	オサム 収	86770	青森県	1991年	1946	大鰐スキークラブ
12	ミウラ 三浦	ユウコ 優子	51192	秋田県	1991年	1952	本荘スキークラブ
13	タグチ 田口	マサル 将	99553	秋田県	1991年	1953	鹿角市スキー連盟
14	ケウ 工藤	ヒロシ 博司	38625	宮城県	1991年	1941	東北大学萩雪会
15	サイノウ 斎藤	タカオ 敬男	78245	愛知県	1991年	1949	中京大学スノーレーシング
16	タカハシ 高橋	コウジ 光二	134642	京都府	1991年	1952	宮津市スキー協会
17	サトウ 佐藤	シロウ 志郎	47098	長野県	1995年	1953	北野建設スキー部
18	シミズ 清水	コウイチ 功市	75480	長野県	1995年	1951	飯山市スキークラブ
19	カタイ 方井	マサタカ 正隆	116545	岐阜県	1995年	1951	流葉スキー協会
20	イノ 井ノ	ノブオ 信雄	16111	富山県	1995年	1958	平スキークラブ
21	タケ 武藤	マサシ 正	113438	福島県	1995年	1956	日体大スキー部OB会
22	ヤマザキ 山崎	アキトシ 彰俊	53516	北海道	1996年	1960	名寄地方スキー連盟
23	シマダ 嶋田	ケンジ 健治	104234	富山県	1996年	1948	立野ヶ原スキークラブ
24	ワタナベ 渡邊	マサヒロ 雅彦	102309	大阪府	1996年	1953	マズシャスジャパン
25	ハシモト 羽染	キヨシ 清	17008	福島県	1996年	1949	伊南スキークラブ
26	コバヤシ 小林	ヨシオ 義夫	64426	北海道	1998年	1951	
27	カタオカ 片岡	ヒロユキ 祐幸	942834	北海道	1998年	1959	札幌スキー連盟
28	タカハシ 高橋	コウイチ 浩一	134660	北海道	1998年	1952	名寄地方スキー連盟
29	タニグチ 谷口	ヒロフミ 博文	888771	新潟県	1998年	1957	小千谷スキークラブ
30	ナガタ 長田	カズマサ 一政	97668	富山県	1998年	1961	平スキークラブ
31	ストウ 須藤	ノボル 昇	152071	青森県	1998年	1953	大鰐スキークラブ
32	ササキ 佐々木	アキラ 明	45855	山形県	2001年	1956	真室川レーシング チーム
33	オグマ 小熊	ヨシイチ 義一	60828	福島県	1998年	1957	猪苗代スキークラブ
34	アライ 荒井	ヒデキ 英樹	39571	東京都	1998年	1955	日立ソリューションズ スキー部

No.	シ 氏	メイ 名	SAJ会員登 録番号	加盟団体	取得年	生年	所属団体
35	イクダ 池田	マタジロウ 又次郎	92166	富山県	1998年	1952	立野ヶ原スキークラブ
36	ヤマイン 山石	ユウジ 裕司	877676	北海道	1998年	1962	北海道高体連
37	ムライ 村井	ナオト 直人	166444	富山県	2000年	1953	大山体協スキークラブ
38	シガ 志賀	ナオヤ 直哉	56687	新潟県	2000年	1961	津南スキークラブ
39	イガワ 井川	ヨシヒロ 純宏	15969	新潟県	2003年	1958	十日町スキー協会
40	イシムラ 石村	ミノル 實	80228	北海道	2003年	1944	小樽スキー連盟
41	シモアサ 下浅	カツオ 勝雄	21589	宮城県	2003年	1957	仙南スキークラブ
42	クワハラ 桑原	マサン 政司	35234	新潟県	2003年	1957	十日町市スキー協会
43	タカギ 高木	ヨシオ 良男	43105	長野県	2003年	1965	木島平スキークラブ
44	ヤマグチ 山口	トシヤ 俊哉	52656	石川県	2003年	1965	白峰スキークラブ
45	フルデラ 古寺	ヒロシ 博	36600	北海道	2003年	1949	遠軽スキー連盟
46	イシバン 石橋	アキラ 旭	79328	北海道	2003年	1949	旭川スキー連盟
47	スキウラ 杉浦	カズヒロ 一廣	140815	北海道	2003年	1950	旭川スキー連盟
48	イクダ 池田	タカオ 孝夫	91913	新潟県	2003年	1943	池の平スキークラブ
49	ニワノ 庭野	テツオ 鉄雄	99091	新潟県	2003年	1943	十日町市スキー協会
50	キタムラ 北村	ユキオ 幸男	117259	秋田県	2003年	1949	鹿角市スキー連盟
51	サトウ 佐藤	サダオ 貞雄	902034	山形県	2004年	1956	米沢スキークラブ
52	アイバ 藍葉	ヒロユキ 弘之	123071	長野県	2004年	1956	中電グループ スキークラブ
53	チギラ 千明	ヨシオ 芳夫	81390	群馬県	2004年	1955	片品スキークラブ
54	タケダ 武田	サダズミ 定純	113360	新潟県	2004年	1953	小千谷スキークラブ
55	ナカザワ 中澤	マサヒロ 昌宏	95038	群馬県	2005年	1962	草津スキークラブ
56	セキ 関	ヨシアキ 芳明	25557	長野県	2005年	1961	小谷村体育協会
57	ナリタ 成田	トモキ 知樹	74648	北海道	2006年	1972	旭川スキー連盟
58	ヤスマラ 安村	ヒデヒロ 英彦	13184	青森県	2006年	1967	野辺地スキークラブ
59	コダマ 児玉	ヨシアキ 義昭	395170	新潟県	2006年	1967	十日町市スキー協会
60	イチカワ 市川	アキラ 昭	56491	長野県	2006年	1970	野沢温泉スキークラブ
61	アオタニ 青谷	マサアキ 正章	77580	滋賀県	2006年	1962	マキノスキークラブ
62	タナカ 田中	マサノリ 雅徳	100446	秋田県	2006年	1963	鹿角市スキー連盟
63	アオヤマ 青山	ナオコ 菜穂子	77510	秋田県	2006年	1963	鹿角市スキー連盟
64	オクヤマ 奥山	アキミツ 昭光	18979	秋田県	2006年	1957	森吉スキークラブ
65	シモザワ 下澤	ヒロヨシ 弘嘉	883128	長野県	2006年	1956	白馬村スキークラブ
66	オオシマ 太島	マコト 誠	897516	新潟県	2007年	1966	十日町スキー協会
67	ノザキ 野崎	ヨシオ 吉雄	121075	滋賀県	2007年	1969	マキノスキークラブ
68	フジモト 藤本	ヒロシ 浩史	106334	山口県	2007年	1969	羅漢友の会
69	タナカ 田中	ヤスジ 靖治	852943	北海道	2008年	1963	北海道自衛隊 スキー連盟
70	エガワ 江川	アツシ 淳	039214	北海道	2008年	1966	札幌スキー連盟



No.	氏名	SAJ会員登録番号	加盟団体	取得年	生年	所属団体
71	キムラ 木村	ヨシハル 喜春	秋田県	2008年	1963	鷹巣RCスキークラブ
72	キムラ 木村	ケンイチ 謙一	秋田県	2008年	1959	阿仁スキークラブ
73	カナタ 金田	ヒロフミ 博文	秋田県	2008年	1963	森吉スキークラブ
74	フジモト 藤本	トモヒサ 豊久	富山県	2008年	1966	チームピステ
75	キツテ 切手	ナオキ 直樹	岐阜県	2008年	1970	アルコピアスキークラブ
76	タカギ 高木	サトシ 聡	岐阜県	2008年	1965	流葉スキー協会
77	ワタナベ 渡辺	タツヤ 達也	大阪府	2008年	1958	マズシャスジャパン
78	フジキ 藤木	ヒロミ 弘美	岡山県	2008年	1957	上斎原スキークラブ
79	ササキ 佐々木	カズナリ 一成	青森県	2010年	1962	平内町スキークラブ
80	キムラ 木村	ミキヤ 幹弥	青森県	2010年	1961	野辺地スキークラブ
81	ヤマダ 山田	タダミ 但己	学連	2010年	1960	稲門スキークラブ
82	エガワ 江川	サトル 聡	北海道	2012年	1968	北海道自衛隊 スキー連盟
83	カナヤ 金谷	ヒロカズ 浩克	北海道	2012年	1965	小樽スキー連盟
84	キウチ 木内	トモアキ 智章	長野県	2012年	1970	中電グループ スキークラブ
85	サジョウ 嵯峨	カズヒコ 和彦	北海道	2012年	1962	美瑛スキー連盟
86	スズキ 鈴木	ケンイチ 賢一	東京都	2012年	1962	港区スキー連盟
87	シバサキ 柴崎	トモヤ 智也	青森県	2012年	1979	野辺地スキークラブ
88	ナカヤマ 中山	テツジ 哲治	長野県	2012年		志賀高原スキークラブ
89	ノハラ 野原	ジュンイ 潤成	富山県	2012年	1972	立野ヶ原スキークラブ
90	ヒガシ 東	ヨシタカ 禎孝	長野県	2012年	1964	飯山市スキークラブ
91	ミヤウキ 宮脇	ノリジュン 範純	富山県	2012年	1961	大山体協スキークラブ
92	シミズ 清水	ナオハル 直春	新潟県	2013年	1970	妙高スキー協会
93	タケダ 竹田	ヨシヒデ 良秀	新潟県	2013年	1966	池の平スキークラブ
94	ニイサト 新里	ヒロト 浩人	岩手県	2013年	1964	雫石スキー連盟
95	フジモト 藤本	トモノリ 智教	長野県	2013年	1967	飯山市スキークラブ
96	ヤマカワ 山川	ヒサシ 尚	新潟県	2013年	1970	新赤倉スキークラブ
97	ヤマモト 山本	センイチ 専一	岩手県	2013年	1973	八幡平市スキー連盟
98	ナカスジ 中筋	カズユキ 一之	北海道	2014年	1968	旭川スキー連盟
99	カワベ 川辺	ジュンイチロウ 俊一郎	長野県	2014年	1975	志賀高原スキークラブ
100	ヤマダ 山田	ミツヨシ 光美	長野県	1990年	1955	小谷村体育協会
101	ワタナベ 渡辺	ヨシハル 吉晴	栃木県	2000年	1964	那須スキークラブ
102	スギノマ 杉沼	サトシ 智	山形県	2001年	1962	陸東レーシング
103	ネツ 柵津	カズトシ 和利	長野県	2014年	1976	木島平スキークラブ
104	タケウチ 竹内	ジュンイチ 順一	石川県	2003年	1964	吉野谷スキークラブ
105	ワシザワ 鷺澤	ヨシカズ 善和	長野県	2004年	1954	小谷村体育協会
106	マルヤマ 丸山	コウイチ 浩一	新潟県	2014年	1966	十日町市スキー協会

No.	シ 氏	メイ 名	SAJ会員登 録番号	加盟団体	取得年	生年	所属団体
107	サトウ 佐藤	アキノ 昭則	0047337	新潟県	2014年	1969	十日町市スキー協会
108	モト 本守	リュウジ 竜二	0118617	岡山県	2014年	1976	蒜山スキークラブ
109	シメ 真目	ユウジ 祐治	0902016	学連	2014年	1968	関西大学スキークラブ
110	タカハシ 高橋	タカヨシ 高吉	134668	北海道	2014年	1947	旭川スキー連盟
111	ハギワラ 萩原	カズノリ 和典	927447	群馬県	2015年	1972	片品スキークラブ
112	モリ 森	タカユキ 隆行	0925325	北海道	2016年	1982	名寄地方スキー連盟
113	ミツニ 三國	マサキ 正樹	0900916	青森県	2016年	1971	野辺地スキークラブ
114	クボ 久保	ナオト 直人	0908586	青森県	2016年	1972	野辺地スキークラブ
115	タケバナ 立花	タケヨシ 武良	0390079	岩手県	2016年	1969	盛岡南高校
116	タカハシ 高橋	ヒロユキ 洋之	0976942	岩手県	2016年	1971	西根中学校
117	サトウ 佐藤	シンイチ 新一	0988758	山形県	2016年	1985	真室川レーシング チーム
118	オダ 織田	ノリヤス 則泰	0893993	石川県	2016年	1974	白峰スキークラブ
119	カワゾエ 川添	トモヒロ 友博	0082548	滋賀県	2016年	1975	箱館山スポーツマン クラブ
120	マンバ 萬羽	タケヤ 琢哉	0894886	学連	2016年	1962	中央大学学員体育会 スキー部OB会
121	オカモト 岡本	ヒデオ 英男	0020850	北海道	2016年	1970	JR北海道スキー部
122	ニシ 西	サトシ 聡	0982645	北海道	2017年	1972	遠軽スキー連盟
123	オオバ 大場	マサヒロ 正浩	0152133	山形県	2017年	1972	陸東レーシング
124	ヤマダ 山田	スミタケ 純丈	0054166	石川県	2017年	1978	吉野谷スキークラブ
125	ウダ 宇田	コウジ 康二	0016829	福井県	2017年	1962	勝山市スキー連盟
126	タナカ 田中	マサノリ 正徳	0988681	学連	2017年	1981	龍谷大学学友会体育局ス キー部OB会

… 資格停止者 2019年研修受講しない場合は失効となる。

## 2017/2018 FIS/SAJ

### クロスカントリー・ポイント・ルール

#### 目 次

1. 一般的な情報
2. 競 技
3. 競技者
4. 有効期間
5. 計算プロセス
6. FISポイント・リスト
7. 年会費（更新）
8. 組織委員会、TDへの指示

## 1. 一般的な情報

### 1・1 FIS/SAJ ポイント・ルール

FIS ポイント・ルールブックは ICR の一部として ICR と一体をなすものである。

### 1・2 F - バリュース

F 値	競技形態
800	インターバル・スタート競技とパーシュートの前半
1200	スプリントとパーシュート競技の後半
1400	スキーアスロンとマス・スタート競技
2800	ポピュラーとローラースキー

### 1・3 レース・ポイントの計算

計算式と計算例 1a と 1b を参照のこと。

### 1・4 レース・ペナルティー

競技の重要度は、参加選手の質によって決定される。この質が、レース・ペナルティーに影響する。

競技会で獲得し、公式に基づき計算されたレース・ポイントと計算されたレース・ペナルティーの合計が、その競技会における FIS/SAJ ポイントとして、各参加登録競技者に与えられる。更なる詳細は、5.3 条と 1a を参照。

### 1・5 競技会参加エントリー

全ての国際大会/SAJ 公認大会への参加エントリーは、公式なエントリーフォームにより行わなければならない。(ICR215 条)

競技者の FIS/SAJ コード・ナンバーは明記されていなければならない。これを怠るとエントリーは無効とみなされる。

### 1・6 リザルト・リスト上の FIS/SAJ コード

TD は全てのリザルト・リストに FIS/SAJ コードを含む全競技者が記載されていることを確認する責任がある。

有効な FIS/SAJ コードのない競技者は、スタートすることを許可されない。

FIS/SAJ コードのないリストは受け取ることが出来ない。

## 2、競 技

### 2・1 条件

FIS/SAJ ポイントの対象として評価されるためには、以下の基準を満たさなければならない。

- 2.1.1 当該競技が FIS 国際スキーカレンダー/SAJ 公認大会カレンダーに発表されている。

- 2.1.2 国際競技規則 (ICR) /全日本スキー競技規則が厳格に守られている。
- 2.1.3 少なくとも5人の競技者の公式成績が報告されている。
- 2.1.4 ボーナス・タイム (秒) は、リザルトには含まれない。
- 2.1.5 すべての FIS 競技会は FIS 公認コースにおいて開催される。
- 2.1.6 ローラースキースプリントは 800m以上の長さのレースが FIS ポイントの対象となる。

## 2・2 日程変更、開催地変更及び中止

競技の開催地・日程の変更や中止、並びに競技プログラムの重大な変更は、直ちに以下に報告しなければならない。

FIS Nordic Office ,CH-3653 Oberhofen/Thunersee,  
 Phone:+41(33)244 61 61-Fax+41(33)244 61 71  
 e-mail : irina.gerber@fisski.ch

また、自国のスキー連盟及び当該競技会担当の TD に対しても、同様の報告をおこなうものとする。もし、競技が未公認の代用コース行われる場合、TD は ICR313 条と一致したコースの規範か否かを確認しなければならない。

## 2・3 ジュニア競技者

シニア選手は FIS カレンダーに載っているジュニア競技大会への参加はできない。年齢カテゴリーを混合することは可能である (3.3 条)。

## 2・4 マルチステージ・イベント (3つ以上の競技会)

競技会の実際のレースタイムのみが、FIS ポイント計算のため、認められる。パーシュートスタートの場合、FIS ポイントは、特定の距離に対するこの競技の最も速いタイムに基づき計算される。リザルト・リストは補正值を用い、日々、競技ごと公開される。ステージ・イベントの総合リザルトは、FIS ポイント・リストに対しては計算されない。

## 2・5 パーシュート・レース

ポイントは、パーシュート・レースの1stパート (前半) と、2ndパート (後半) に与えられる。2ndパート (後半) では、この競技の特定区間 (定められたキロ数) で最も速いタイムをもとに、FIS ポイントが計算される。2種類のレース・コーデックスがあり、1つは1日目に、もう1つは両日の総合成績用に付く。

## 2・6 FIS 長距離ポピュラー競技会

50 km 以上の、全ての FIS ロング・ディスタンス・ポピュラー競技会に、FIS ポイントが与えられる。(又は競技会場が海拔 1500 m 以上にある場合は 42 km)

FIS コード”active”を持つすべての競技者はポイント計算に考慮される。

### 3. 競技者

#### 3・1 FIS/SAJ コード・ナンバー

FIS/SAJ コードを持っている選手（男女）のみが FIS/SAJ 公認競技会への参加が許可される。コード・ナンバーは各国スキー連盟/各加盟団体で申し込  
ができる。

#### 3・2 登録

初回の FIS ポイントリストへの選手登録は、前シーズンの最終 FIS ポイント  
リストの計算が終了し、次シーズンの初回の FIS ポイントリストの計算が行  
われる前に行う（FIS ポイントリストの発行締切日詳細は、FIS ウェブサイト  
を参照）。

競技者は FIS ウェブサイト の FOU システムにより登録される。

<http://www.fis-ski.com/> ログイン名とパスワードは各競技の管理者から受け  
取ることができる。

- 3.2.1 このシステムにより、競技者のステイタスを変更することができ、競技者の更  
新、新規登録ができる。FIS コードは自動的に割り当てられる。
- 3.2.2 FIS の全競技会において、出場選手は暦年の 1 月 1 日から 12 月 31 日までに  
16 歳になっていなければならない。（ICR341.1.5）
- 3.2.3 FIS ポイント・リストに含まれるべきでない選手は、ステイタスを”active”ア  
クティブから”inactive”インアクティブに変更する。ステイタスが active の選  
手は、来たるシーズンに向けて登録しているとみなされる。怪我をした選手は、  
怪我の保護（injury protection）のため、”active”アクティブを維持しなければ  
ならない。
- 3.2.4 ICR203.3 条に従って選手宣誓書に署名した競技者のみに、各国スキー連盟を  
通じて FIS ライセンスのために登録される。  
各国スキー連盟は該当の競技者が適切な保険契約をしておき選手宣誓書に署  
名していることを確認する責任がある。
- 3.2.5 FIS ポイントにおける”active”アクティブという状態は、レースにでなくて  
も維持できる。  
”active”アクティブから”inactive”インアクティブへのステイタスの変更は 6  
月 1 日から 12 月 31 日の間のみに行うことができる。”active”アクティブの  
FIS コードを持つ選手のみが、FIS 大会への参加が許される。エントリーは  
開催者と FIS 技術代表によって、コントロールされる。

#### 3・3 年齢カテゴリー

ポイント計算は、シニアの年齢カテゴリーを対象として男女別に行われる。  
ジュニアでもスタートグループと距離、スタート時間が同じならシニアのカテ

ゴリー内にリストされる。このような場合は、ジュニアとシニア両方を含む1つのリザルト・リストを受け取る。

### 3・4 条件

以下の条件を満たすものだけが、FIS/SAJ ポイントの対象となる。

- ICR204 条/SAJ は SAJ 規定に、基づく資格を有する者。
- 自国のスキー連盟によって登録された者。
- その FIS コード、姓名及び生年月日が遺漏なくリストに記載され明確に読み取れるもの
- 自国のスキー連盟が、前シーズンの支払いをすべて済ませていること。
- リザルト・リストに FIS/SAJ コードが記載されている競技者。

### 3. 5 インジュリー・ステイタス (病気、兵役、出産等)

#### 3.5.1 インジュリー・ステイタスの要請

選手が怪我をしてシングル・ペナルティーの適用を希望する時、各国スキー連盟はシングル・ペナルティーの承認を得るために、公式申請書と医師の診断書を早急に FIS へ提出しなければならない。承認されれば、競技を中断した時点において有効であった FIS ポイントに基づき、22%のペナルティーが足される。但し、怪我による中断の前に、最小4ポイント、最大26ポイントである怪我をしていた選手が FIS 競技会をスタートしたら直ちに、インジャリーステイタスを失う。

##### 3.5.1.1 条件

怪我をした選手は、怪我の保護 (injury protection) のため”active”アクティブとして登録を維持されなくてはならない。

##### 3.5.1.2 継続期間

インジュリーステイタスは、最大で365日までである。もし怪我がそれより長引くようなら、各国スキー連盟は FIS に対して申請書、医師の証明書をもって再申請しなければならない。

### 3. 6 妊娠

妊娠によるインジュリー・ステイタスの申請は、妊娠12週からできる。妊娠によるインジュリー・ステイタスの期間は、妊娠4週から出産日までの間である。出産予定日は、診断書に記載されなければならない。出産後、インジュリー・ステイタスの期間は、引き続き、9ヶ月有効である。その後、この期間が終了しても期間延長の必要がある場合は、正確な医学的理由に言及して、書面にて申請しなければ、インジュリー・ステイタスは終了する。

### 3. 7 職業上の義務や兵役

職業上の義務や兵役のため出場できないときは、前もって、各国スキー連盟は“研究や兵役ステイタス”に対す申請書類を提出しなければならない。そのとき、理由と期間を明記する必要がある。手続きは 3.5 条に従って行うこと。

#### 3.7.1 申請

その任務が始まるまでに任務先の証明書類を提出しなければならない。

### 3. 8 アンチドーピング・ルール違反

ドーピング違反と認定された競技者は、FIS アンチドーピング・ルール 10.1.2 条により FIS ポイントを失う。

再び、WC に出場するには競技者資格を得なければならない。

## 4. 評価期間

4. 1 FIS ポイントは 365 日間有効である。

4. 2 前回から 1 年以上競技会に出場しなかった競技者は FIS ポイントを失う。

## 5. 計算プロセス

### 5. 1 レース・ポイント

5.1.1 レース・ポイントはコンピューターにより計算される (1 a)。

レース・ポイントは小数点第 3 位を四捨五入する。

(例 : 23.654=23.65。 23.846=23.85)

### 5. 2 FIS/SAJ ポイント

5.2.1 ディスタンス (スプリントより長い距離)

選手のポイントは、過去 12 ヶ月の期間内でのベスト 5/SAJ ベスト 2 の記録の平均とする。

5.2.2 スプリント

選手のポイントは、過去 12 ヶ月の期間内でのベスト 5/SAJ ベスト 2 の記録の平均とする。

5.2.3 5 つの記録がない場合 (SAJ は別途規定する)

ディスタンス、スプリントとも 5 つの記録がない場合は次のように計算される。

4 つの記録しかない : $4 \times 1.1 =$ FIS ポイント
3 つの記録しかない : $3 \times 1.2 =$ FIS ポイント
2 つの記録しかない : $2 \times 1.3 =$ FIS ポイント
1 つの記録しかない : $1 \times 1.4 =$ FIS ポイント



### 5・3 ペナルティーの計算

- 5.3.1 以下の点を考慮しレース・ペナルティーが計算される（図表 1 a/1 b）。
- 5.3.1.1 そのレースの上位 5 名の競技者の成績
- 5.3.1.2 上位 5 名の競技者（5.3.1.1）の FIS/SAJ ポイントが対象となる。そのレース上位 5 名の競技者の FIS/SAJ ポイントの上位 3 名のポイントをして 3.75 で割った数をレースペナルティー（計算ペナルティー）とする。小数点第 3 位を四捨五入する（例：13.654=13.65。21.849=21.85）。
- 5.3.1.3 リザルトの上位 5 番以内に、FIS/SAJ ポイントを保有する選手が 3 名以下又は、FIS/SAJ ポイントリストに掲載されていない選手や、ポイントが以下に示されたマキシマム・バリューを超えている場合は、当該選手に以下のマキシマム・バリューを与える。
- 176 インターバル・スタート競技
  - 264 スプリント、パシュート
  - 308 マス・スタート競技とスキーアスロン競技
  - 528 ポピュラーとローラースキー（2.6 項）
- 5.3.1.4 2 名以上が 5 位とか 3 名以上が 4 位とかの場合には、その中で最もよい FIS/SAJ ポイントを保有する競技者がポイント計算の対象となる。
- 5.3.2 ミニマム・ペナルティー設定競技
- 5.3.2.1 5.3.1.2 条により計算された計算ペナルティーがミニマム・ペナルティー（5.3.2.3 条参照）より高い（数が大きい）場合は、計算ペナルティーがそのレースのレース・ペナルティー・ポイントとなる。
- 5.3.2.2 計算ペナルティーがミニマム・ペナルティーより数が小さい場合は、ミニマム・ペナルティーがそのレースのレース・ペナルティー・ポイントとなる。
- 5.3.2.3 ミニマム・ペナルティー表

	女子	男子
U23 世界選手権	2 5	2 5
ジュニア世界選手権	3 5	3 5
ジュニア COC、FIS レース	3 5	3 5
EYOF	6 0	6 0
ユース・オリンピック	5 0	5 0
FIS ローラースキー WC/WSC	1 5	1 5
FIS ローラースキー ジュニア WC/WSC	5 0	5 0
FIS ローラースキー レース	3 5	3 5
FIS ローラースキー ジュニアレース	6 0	6 0

### SAJ 公認大会ミニマム・ペナルティー表 (SAJ ポイント)

全日本選手権 (スプリント)	計算ペナルティー	計算ペナルティー
全国高校大会	30	30
全国中学校大会	30	30
全国高校選抜大会(スプリント以外)	30	30
ジュニアオリンピックカップ	30	30
その他の SAJ 公認大会	計算ペナルティー	計算ペナルティー

#### ※ マキシマム・ペナルティー設定競技

SAJ では全国中学校大会にマキシマム・ペナルティーを設定する。  
 計算ペナルティーがマキシマム・ペナルティーより低い (良い) 数値なら、  
 計算ペナルティーがそのレースのレース・ペナルティーとして適用される。

### SAJ 公認大会マキシマム・ペナルティー表 (SAJ ポイント)

	女子	男子
全国中学校大会	80	80

#### 5.3.4 ペナルティー・ポイント固定競技

##### 5.3.4.1 OWG (オリンピック)、WSC (世界選手権)、WC (ワールドカップ) に対しては、ペナルティー・ポイント 0 点が適用される。

SAJ では全日本選手権 (スプリント以外) に対してはペナルティー・ポイント 0 点が適用される。(5.3.2.3 SAJ ミニマム・ペナルティー表に記載)

##### 5.3.4.2 固定ペナルティー表

	女子	男子
OWG (オリンピック)	0	0
WSC (世界選手権)	0	0
WC (ワールドカップ)	0	0
全日本選手権 (スプリント以外)	0	0

## 6. FIS ポイント・リスト

### 6.1 FIS ポイント・リストは電子装置上でのみ利用でき、ダウンロードも無料である (<ftp://ftp.fis-ski.com>

又は web サイト [fis-ski.com/cross-country/fis-points-lists.html](http://fis-ski.com/cross-country/fis-points-lists.html))。

CCFPxxx.zip は FIS ポイントリストプログラムに有効である。(xxx は、常に、リストとシーズンの番号である。例、1st リスト 2016/2017=CCPF117F.zip はフルリスト、または、CCEP117P は、前回のリストよりアップデートされ

たインフォメーション) CCFPxxxP.zip は同じであるが、修正箇所のみ  
小さいリストである。

TIP : FIS リストプログラム (Fislistsetup.exe) をインストールする。

<ftp://ftp.fisiski.com/Software/Files/Fislist/> でも可能である。

## 6.2 各リストの有効期間

印刷締め切りと有効期限はウェブサイトで公表される。

## 7. 年会登録料 (更新)

### 7. 1 費用

7.1.1 FOU システムによる登録は、競技者一人当たり 1 年を通して登録料は 33 スイスフランである。

7.1.2 FIS オフィスを通しての登録は、12 月 31 日までは競技者一人当たりの登録料は 33 スイスフランである。1 月 1 日以降の登録費は 100 スイスフランである。

### 7. 2 会計

シーズンの始めに、各国スキー連盟は、前年の実績の 70% の請求書を受け取る。この額は、それぞれの FIS アカウントから引き落とされる。シーズンの終了後、各国スキー連盟は、シーズン中に登録をした全選手の詳細な請求書を受け取る。その後、差額が、それぞれの FIS アカウントから引き落とされる。もしくは、入金される。

### 7. 3 返金

競技者がシーズン中に引退したり、国連盟の登録に間違いがあっても登録費の払い戻しはしない。

## 8. 組織委員会と技術代表への指示 (手順)

### 8. 1 競技コースの技術的基準

競技コースが技術水準の規定 (ICR313 条) に適応しているか否か、以下の点をチェックすること。

- |             |            |             |
|-------------|------------|-------------|
| — 競技距離      | — 標高差 (HD) | — 極限登高 (MC) |
| — 合計登高 (TC) | — 最高地点標高   |             |

### 8. 2 FIS/SAJ コード

FIS コードがリザルトに記載されているか否か、チェックすること。

図表参照。

FIS コードのない競技者はスタートすることを許可されない。さもなければ、そのレースは考慮されない。

8. 3 **FIS/SAJ ポイント・アデッショナル・レポート・クロスカントリー**  
最新 FIS ポイント・リストに基づきペナルティー・ポイントを計算し、FIS/SAJ  
ポイント・アデッショナル(ペナルティー・ポイント) 報告書を作成すること。  
図表 1 b 参照。

8. 4 **データ送信** (SAJ は別途案内する)  
TDの確認後リザルトは、xml フォーマットにより早急に正確に  
E-Mail:alpineresults@fisski.com へ送信しなければならない (これはクロス  
カントリーでも有効である)。 TDはリザルトが正しく送信されるよう監督  
し、通信記録を作成しなければならない。  
もしリザルトが電子的にタイムリーに、正しい xml フォーマットで送られな  
い場合は、FIS ポイント・リストに考慮されない。

E-Mail:alpineresults@fisski.com  
Fax No. +41(33)244 61 71 (TD Reports)  
Direct Tel No FIS Points(I.Gerber):+41(33)244 61 05  
E-mail:irina.gerber@fisski.ch  
Software for FIS format:ftp://ftp.fisski.ch

8.4.1 リザルトを送信するためのファイル名の作成  
— OCの国名 (FIS ブリテンに記載されている3文字で)  
— コーデックス (FIS カレンダーによる)  
例 ITA2060

8. 5 **エレクトロニック・レポート**  
TDは競技終了後3日以内に FIS メンバーに TD オンライン・レポートを送信  
しなければならない。

8. 6 **技術代表の署名**  
オフィシャル・リザルトが発表する前に、技術代表は署名しなければならない。

8. 7 **無効評価**  
競技会を FIS/SAJ ポイントの評価対象外とする正当な理由がある場合は、そ  
の理由をオンライン・レポートに記載しなければならない。

## THE CROSS-COUNTRY FORMULA

1 a

( C C レース・ポイント計算)

$$P = \frac{F \times T_x}{T_o} - F \quad \text{または} \quad \left( \frac{T_x}{T_o} - 1 \right) \times F$$

P = レース・ポイント

T<sub>o</sub> = 優勝者の所要タイム (秒)

T<sub>x</sub> = 各人のタイム (秒)

F 値

F = 800            インターバル・スタート競技とパーシュート前半

F = 1200           スプリント競技とパーシュートの後半

F = 1400           スキーアスロンとマス・スタート競技。

計算例(2×5Km スキーアスロン競技)

1,Smigun,EST            26.38.4(T<sub>o</sub>) (1598.4 秒)

2,Sachenbacher,GER    26.39.0        (1599.0 秒)

3,Savialova,RUS        26.39.0        (1599.0 秒)

Sachenbacher (T<sub>x</sub>) のレース・ポイント (P)

$$P = \frac{1400 \times 1599}{1598.4} - 1400 = 0.525 = 0.53 \quad (\text{小数点第3位四捨五入})$$

Savialova (T<sub>x</sub>) のレース・ポイント (P)

$$P = \frac{1599}{1598.4} - 1 \times 1400 = 0.525 = 0.53 \quad (\text{小数点第3位四捨五入})$$

## SAJポイント概略

### 1. ミニマム・ペナルティ

	女子	男子
全日本選手権（スプリント）	計算ペナルティ	計算ペナルティ
全国高校大会	30	30
全国中学校大会	30	30
全国高校選抜大会（スプリント以外）	30	30
ジュニアオリンピックカップ	30	30
その他のSAJ公認大会	計算ペナルティ	計算ペナルティ

### 2. マキシマム・ペナルティ

	女子	男子
全国中学校大会	80	80

### 3. ペナルティ固定競技

	女子	男子
全日本選手権（スプリント以外）	0	0

#### 4. ポイントリストの計算

新年度P	取得P	シーズン中のポイントリスト (No. 1を除く) デスタンス(TO)及びスプリント(SP)	最終ポイントリスト デスタンス(TO)及びスプリント(SP)
なし	2レース以上	シーズンを通した取得Pの中で ベスト2の値の平均	シーズンを通した取得Pの中で ベスト2の値の平均
	1レース	シーズンを通した有効期間内での 取得P x 1.7	シーズンを通した取得P x 1.7
	なし	なし	なし
あり	2レース以上	新年度Pと、シーズンを通した 取得Pの中で、 ベスト2の値の平均	シーズンを通した取得Pの中で ベスト2の値の平均
	1レース	新年度Pと、シーズンを通した 取得Pの平均	シーズンを通した取得P x 1.7
	なし	新年度P x (1.7のべき乗※)	なし

・小数点第3位四捨五入

・新年度P・・・前シーズンの最終ポイントリストの値。(但し、最終ポイントリスト1位の選手のみ新年度ポイントの調整あり)

・取得P・・・期間中に獲得したポイント

※ポイントリストNo. のマイナス1をした値のべき乗(例: No. 2なら1.7倍のみ。No. 3なら1.7の二乗)

#### 5. ポイントリストNo. 1について

ポイントリストNo. 1は新年度Pの値

#### 6. 最終ポイントリストについて

シーズンの最終ポイントリストにて、1位の選手のポイントがゼロでなかった場合は、1位のポイントをゼロにする為の値となる数値を、全選手のポイントから減算する。

#### 7. 新年度ポイントの調整について

最終ポイントリストの値はそのまま新年度ポイントとなるが、前シーズンの最終ポイントリストに於ける1位の選手(ポイントが0.00の選手)は、2位のポイントから0.10引いた値を新年度ポイントとする。(ポイントが0.00以外で一番良いポイントから0.10引いた値)

## 公認計算委員規程

- 第1条 本連盟は、スキー競技の正確なデータの計算によって大会の運営を円滑にし、その權威を保つため、公認計算委員の制度を設ける。
- 第2条 公認計算委員となる資格者は、競技運営指導員又は各加盟団体の開催する大会において2年以上計算運営に協力した者で、加盟団体長が本連盟に推薦した者とする。
- 第3条 公認計算委員となる資格者は、次項の養成講習に参加し、検定を受けなければならない。
- 2 養成講習及び検定会の期間は、2日間とする。
  - 3 学科及び実技は、第1日目に行い、次に掲げる内容とする。
    - (1) 各種目競技の知識
    - (2) 各種目競技のルール
    - (3) 計算委員の服務心得
    - (4) 各種目の計算方法
    - (5) 計測、計算機器のオペレーション実技
  - 4 検定は、第2日目に行い、次に掲げる内容とする。
    - (1) 各種目別の学科テスト
    - (2) 適性テスト
- 第4条 公認計算委員の養成講習及び検定会は、本連盟が毎年1回行うものとする。
- 第5条 養成講習及び研修会の講師は、本連盟のデータバンク委員会の委員5名以上をもってこれにあたる。
- 第6条 所定の養成講習及び検定会に参加し、検定に合格した者は、公認計算委員として本連盟より資格が与えられ、公認証を授与する。
- 第7条 公認資格取得者は、各種公認・登録等料金一覧表に定める公認料及び年次登録料を本連盟に納入しなければならない。
- 第8条 検定合格者の発表は、本連盟公認委員会が審査報告の上、本連盟理事会が決定するものとする。
- 2 合格者は、各加盟団体を通じ公認料、年次登録料を添えて、本連盟宛送付するものとする。ただし、他の競技資格保有者は、年次登録料を免除する。
- 第9条 養成講習及び検定会の開催に要する費用並びに講師の旅費等は、本連盟の負担とする。ただし、養成講習及び検定会の参加者の参加に要する費用は、自己負担とし、各種公認・登録等料金一覧表に定める検定料を本連盟へ納入するものとする。
- 第10条 公認計算委員は、資格取得後2年に1度の研修会に参加し、新しい機器の知識を習得し、正確かつ敏速な競技運営について研鑽し、各加盟団体においては、他の計時計算係に対し、指導的役割を果たすよう務めるものとする。
- 第11条 公認計算委員は、競技会開催の協力要請に対し、理由なくしてこれを拒否したり、前条の研鑽を怠るなど、その責任を保たれないと判定した場合は、本連盟理事会の決定により資格を喪失するものとする。
- 第12条 この規程の改廃は、理事会の議決による。



### 3 3 2 全日本スキー選手権大会 開催規程

平成29年7月15日改正

第3条 全日本スキー選手権大会は、各競技の種目ごとの男女別に毎年1回開催する。

2 開催競技の種目は、次の各号に掲げるとおりとする。

(3) クロスカントリー競技の種目

女子：①個人スプリント0.8～1.6Km (CとFを1年おきに)

②5Km (個人スタートでCとFを1年おきに)

③10Km (マススタートでCとFを1年おきに)

④スキーアスロン 5KmC+5KmF

⑤30Km (CとFを1年おきに)

⑥リレー3×5Km (1走C、2・3走F)

男子：①個人スプリント1～1.8Km (CとFを1年おきに)

②10KM (個人スタートでCとFを1年おきに)

③15Km (マススタートでCとFを1年おきに)

④スキーアスロン 10KmC+10KmF

⑤50Km (CとFを1年おきに)

⑥リレー4×10Km (1・2走C、3・4走F)

## SAJ競技付則 クロスカントリー

### 全日本選手権の出場資格

- I 全日本選手権の出場資格は(中略)クロスカントリー種目においては、VIの(B)に該当する競技者に出場資格を与える。また、Vの③④⑤に定める特例も認められる。
- II 全日本選手権の予選大会  
予選大会は、加盟団体が地域ごとに、その加盟団体の主催で行うことを原則とする。しかし、数加盟団体が合同して開催してもよい。
- III 全日本選手権の出場者数の基準  
クロスカントリー種目においてはVIの(B)により、毎シーズン種目ごとに計算される。
- IV 予選の区分
- ① 男・女リレー競技を除くノルディック全種目(男子クロスカントリー競技の各種目、女子クロスカントリー競技の各種目)
  - ② 男・女リレー競技
- V 各項に共通する原則
- VIの各項に共通する原則は、次に掲げるとおりとする。
- ①全日本選手権の出場資格は、どこの予選競技会で獲得してもよい。しかし、所属する加盟団体ではなく、他の加盟団体の主催する予選競技会に出場を希望する場合は、VIIIの規定に従い、出場する加盟団体の許可が必要である。
  - ②加盟団体は、前年の全日本選手権出場者の有無にかかわらず、最小限の出場が保証される。
  - ③前年度大会の男・女、各種目とも5位までに入賞した選手及びリレー5位までに入賞したチーム(メンバーが変更してもよい)は、予選競技会に出場すると否かにかかわらず、その加盟団体の枠外として全日本選手権への出場が認められる。
  - ④前年度のオリンピック・世界選手権・ユニバシアード大会及びそれに準ずる国際大会の日本代表になった競技者には、Vの③と同様に全日本選手権への出場資格を与えられる。前記大会に準ずるか否かは、その都度、SAJ理事会が決定し表する。
  - ⑤SAJが選手強化のため必要とし、SAJ理事会が承認した場合は、特例として会長推薦を認めることがある。
  - ⑥Vの③④⑤に該当する競技者又はチーム並びに該当する競技者の全日本選手権への申し込みは、その競技者の所属チームが責任をもって、加盟団体を通じて行うものとする。もし他の競技者と共通のランキングが必要な場合には、ランキングを決定し記入すること。
  - ⑦各加盟団体とも一種目の出場人員は、25人を限度とする。

## VI 全日本選手権の出場者数の計算

各加盟団体の全日本選手権の出場者の決定は、次の各項によって計算される。

### (B) 男・女クロスカントリー種目(リレーを除く)

1. SAJポイントリスト(シーズン基本リストNo.1)による出場資格は特別出場資格(Vの③・④)を有する競技者を除き、全ての種目について、男女ともポイントリストの上位50名に与える。また、Vの③・④とVIの(B)・1の出場有資格者を除き、高校ポイントリストの男子上位20名、女子上位15名に出場資格を与える。
2. 加盟団体に与えられる出場枠は、以下により計算される。
  - ① 前年度10位までに入った競技者については、その1人につき2人の全日本選手権出場権(以下出場権と略す)をその加盟団体に与えられる。
  - ② 同様に11位から20位までに入った競技者については、その競技者数だけ出場権が与えられる。
3. 加盟団体(都道府県、学連)に与えられる最小出場枠
  - ① 全日本選手権に少なくとも1人が出場し、(B)の1項及び2項による有資格者が2名に満たない加盟団体には、男女各種目に2人の出場枠を与えられる。
  - ② 前年度の出場実績のない加盟団体には、男女各種目に1人の出場枠を与える。
4. 基本資格
  - ① 出場競技者は、SAJ競技者管理登録を完了していること。
  - ② 全日本選手権出場者は、当該シーズンの始まる1月1日現在、満15歳であること。
  - ③ 15歳の競技者は、女子は全種目の出場が認められる。  
男子は50km以外の種目の出場が認められる。  
また、男子50kmの出場者は、当該シーズンの始まる1月1日現在、満19歳以上であること。
  - ④ (B)の2項①②に該当する選手が加盟団体を変更した場合は、旧加盟団体のみ増加が認められ、移籍した新加盟団体はそのままとする。
  - ⑤ Vの③④⑤に該当する選手が加盟団体を変更した場合は、その選手のみが、移籍した新加盟団体の別枠となる。また、所属しない加盟団体の主催する予選競技会に出場した場合も同様とする。  
ただし、学連選手の場合は、実際に出場権を獲得した加盟団体に増加を認める。
  - ⑥ (B)の1項に該当する選手が加盟団体を変更した場合は、その選手のみ  
の資格とする。
  - ⑦ 全日本選手権大会を開催する加盟団体が属するブロックに開催地元枠として、各個人種目女子4名、男子6名に出場資格を与える。

(C)リレー競技

- ① 前年度出場実績のある加盟団体には3チームの出場権を与える。
- ② 前年度出場実績のない加盟団体には2チームの出場権を与える。
- ③ 女子については、実績に関係なく各加盟団体に2チームの出場権を与える。
- ④ 全日本選手権大会を開催する加盟団体が属するブロックに開催地元枠として、リレー女子2チーム、男子2チームに出場資格を与える。

## 天皇杯授与規程

第1条 天皇杯は、本連盟の主催する全日本スキー選手権大会（リレー競技）の優勝チームに授与する。

第2条 天皇杯を授与された者は、加盟団体並びに同教育委員会、同体育協会に報告しなければならない。

第3条 天皇杯を授与された者は、付属の記録簿にその所属する都道府県名、チーム名を記入する。

第4条 天皇杯は、持回りとし、次回大会の開会式において返還する。

第5条 天皇杯を授与された者は、次に掲げる各号により保管の義務を有する。

- (1) 天皇杯は、所属の加盟団体長と協議の上、所属団体が責任を持って確実な金庫に保管するか、若しくは、本連盟に保管を委託しなければならない。
- (2) 毀損紛失等に対しては、本連盟が保管の責に任ずるほかは所属団体の責任とする。
- (3) 天皇杯には、氏名その他如何なることも刻入してはならない。
- (4) 本連盟が、必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第6条 この規程の改廃は、理事会の議決による。

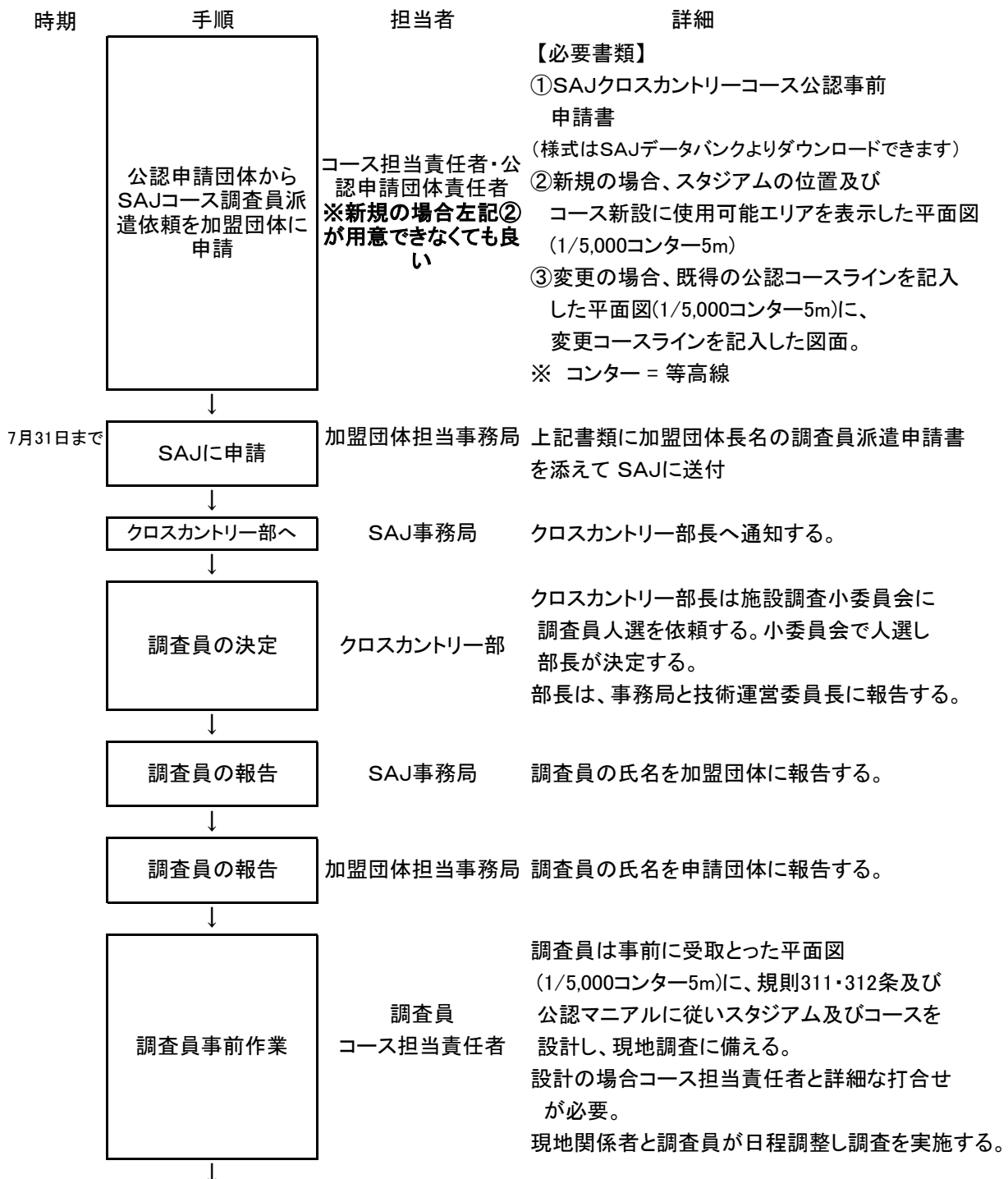
昭和52年11月 制定

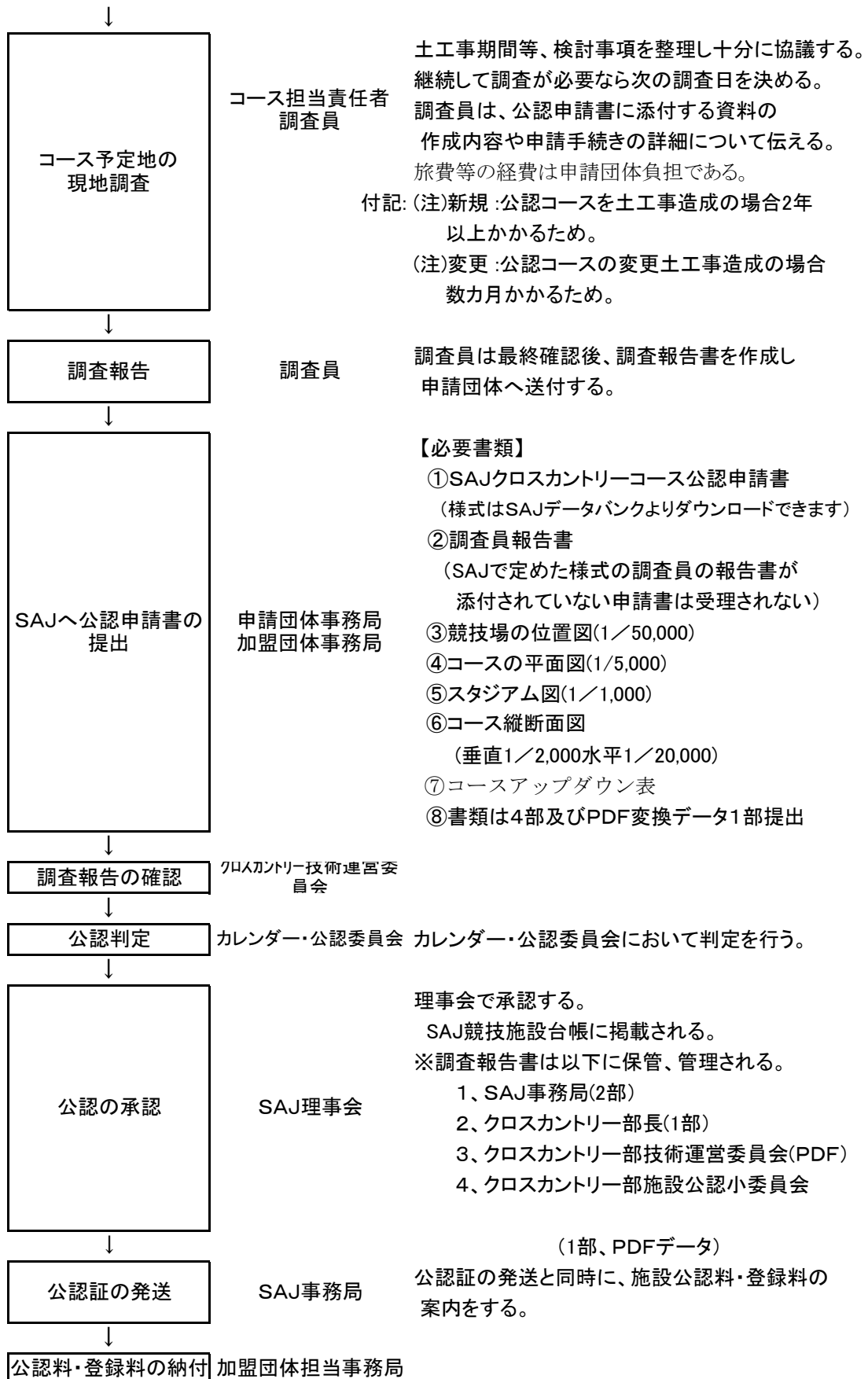
平成5年6月26日 改正

## SAJ公認クロスカントリーコース(競技場)施設公認についての手順

- 申請の期限 7月31日
- 有効期間 10月1日から翌年9月末とし、施設公認を継続する場合は毎年7月31日までに更新手続きを行う。
- 公認料・登録料 10,000円（初年度のみ）  
20,000円  
(同一競技場内の複数の公認コースがある場合もトータルで20,000円)

### SAJ公認クロスカントリーコース(競技場)新規・変更公認手続きの手順





## 競技施設公認規程（抜粋）

第1条 全日本スキー選手権大会とそれに準ずる競技会及び本連盟A級公認競技会（アルペンB級競技会及びユース競技会を含む）に使用するジャンプ台及びクロスカントリー競技コース、アルペン競技コース（ダウンヒル、スーパーG、ジャイアントスラローム、スラローム）は、本連盟公認のものでなければならない。

第2条 ジャンプ台及びコースの公認を求めるときは、次に掲げる書類を整え、工事着手前に所属加盟団体を通じ、本連盟会長に提出するとともに本連盟施設調査小委員会の審査を受けなければならない。

- (1) 公認申請書（別紙ヒナ型参照のこと）
  - (2) 位置図（縮尺は各競技別細目に従うこと）
  - (3) 平面図（縮尺は各競技別細目に従うこと）
  - (4) 縦断面図（縮尺は各競技別細目に従うこと）
  - (5) 横断面図（縮尺は各競技別細目に従うこと。ただし、ジャンツェ公認申請のみ必要）
  - (6) 設計図（ジャンプ台のみ平面図、縦断面図、横断面図、審判台一般図）  
（縮尺1/500実測による地盤高は必ず記載のこと）
  - (7) ジャンプ台諸点計算表（ジャンツェのみ）
  - (8) コース・アップダウン表並びに会場図（クロスカントリーのみ）
  - (9) SAJから派遣されたコース公認調査員（インスペクター）の調査報告書（様式1・2・3）
- 2 ジャンプ台の改造、新設に当り、本連盟に基本プロフィールを依頼する場合の手続きは、本連盟飛型台設計小委員会規程による。

第3条 公認申請のあった場合、各種目ごとに当該委員が現地調査を行い、公認委員会が判定の上、理事会が承認する。ただし、調査に必要な経費は、申請者側が負担するものとする。

第4条 公認が決定した場合、次項に定める公認料を納付するものとする。

- 2 公認料は、各種公認・登録等料金一覧表のとおりとする。

第5条 施設の公認申請の受付は、毎年7月31日までとし、その有効期間は、毎年10月1日から翌年の9月末日までとし、公認を継続する場合は、毎年同時期に更新手続きを行い審査を受ける。ただし、5年に1回は当該委員が第3条と同様に現地調査を行う。

2 登録料は、各種公認・登録等料金一覧表のとおりとする。ただし、更新中断の場合は、新規の公認申請として取扱うものとする。

第6条 公認ジャンプ台、コースに必要な条件は、ルールのほか、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 各種目共通に必要な事項
  - ① 競技会運営、コース施設整備力、宿泊等、全日本スキー選手権大会とそれに準ずるアルペン競技会又はA級、B級及びユース競技会開催に必要な条件を備え、公認旗門審判員20名以上、競技運営指導員10名以上を有すること。
  - ② コースの大部分にリフトなどの機械力を有し、これらの施設は競技会等の場合、役員選手を優先的に輸送できるような協力を得られること。
  - ③ コース会場全般に行きわたるような放送施設を必要とし、できれば、これらの施設は、恒久的なものであることが望ましい。



- ④ スタート及びゴール付近に競技運営に必要な小屋、選手控室、便所などの施設を有すること。
  - ⑤ 怪我人を収容する救護用具体制を整え、なるべく近くに収容できる病院などがあること。
  - ⑥ コース中に危険を防止するための防護施設が十分配慮されていること。
- (2) 各競技別に必要な事項
- ① ジャンプ台（飛躍競技）については、本連盟飛躍台設計小委員会規程によるもの以外は公認しない。
  - ② クロスカントリー
    - a クロスカントリーコースの公認は、ICRとFISコース公認マニュアルの規定に適合することを基準とする。
    - b コースの計測は、コース公認マニュアルに従い測量計器を使い正確に行うこと。
    - c 競技会運営経歴、コース付近での宿泊可能人員、コース管理者を明示すること。
  - ③ アルペン競技コース
    - a 競技の種別（ダウンヒル、スーパーG、ジャイアントスラローム、スラローム）
    - b コースの名称
    - c コースの所在地
    - d コースの管理者
    - e コースの概要については、コースの地理的状态、コースの方位、スタート地点の標高、ゴール地点の標高、コースの標高差、コースの全長、平均斜度最大斜度、最近5年間の積雪状態、一般的な視界、コースに及ぼす風の影響、負傷者の救出方法、観客の対策、コース付近の水の有無
    - f コースの施設については、スキーリフト（スタートまでの輸送時間及び輸送能力）、小屋・便所（スタート並びにゴール）、放送施設（ゴール付近及びコース全般にわたるもの）、コースの防護施設対策
    - g 競技会運営については、過去の競技会運営の経歴、宿泊施設、宿泊可能人員、公認旗門審判員の数、競技運営指導員の数
    - h その他添付書類については、申請書ヒナ型参照のこと。提出部数は4部とする。
- (3) コースの基準
- ① ジャンプ台（飛躍競技）  
本連盟A級公認ジャンプ台は、ルール第411条に規定するものを対象とし、諸数値は、ルールによるが、小ジャンプ台においても本連盟A級公認競技会を行うものは、本連盟飛躍台設計小委員会規程によらねばならない。
  - ② クロスカントリー競技コース
    - a 原則としてクロスカントリーのコースは、次のように設計される。
      - (1) コースの3分の1は、標高差10m以上、斜度9%から18%の登り、若干の18%を超える急な開脚登りを含む登り部分とする。
      - (2) コースの3分の1は、標高差1mから9mの小さな登り下りを含む、あらゆる地形の特徴を活用した小さな起伏地とする。
      - (3) コースの3分の1は、多様な滑降技術を要する変化に富んだ下り部分とする。
    - b コース基準の詳細は、ICRの規定とFISクロスカントリーコース公認マニュアルに従う。

平成27年4月27日 改正

(様式)

SAJ クロスカントリーコース公認申請書

年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 様

都・道・府・県スキー連盟会長

印

コースの種別

コースの名称

コースの所在地

コースの管理責任者

コース調査員氏名

コースの概要

- |                        |    |
|------------------------|----|
| (1) コース全長              | Km |
| (2) カテゴリー( A・B・C・D・E ) |    |
| (3) 標高差(HD)            | m  |
| (4) 最高地点標高             | m  |
| (5) 最低地点標高             | m  |
| (6) スタジアムの標高           | m  |
| (7) 合計登高値(TC)          | m  |
| (8) 極限登高値(MC)          | m  |

スタジアムエリア

- (1) レースオフィス 常設 ・ 仮設
- (2) スキーテスト:スタジアムに 近い ・ 遠い
- (3) ウォームアップトラック:スタジアムに 近い ・ 遠い
- (4) 交通アクセス
- (5) 駐車場 台駐車可能
- (6) トイレ
- (7) 更衣室

室内作業環境

- (1) 計時室
- (2) 計算室
- (3) 放送室
- (4) 報道関係
- (5) ジュリー室
- (6) ワックスルーム

大会運営

- (1) 経歴
- (2) 宿泊可能人数
- (3) 公認技術代表の人数
- (4) 競技運営指導員人数

申請資料(4部)、コース調査員の調査報告書添付のこと(4部)及びPDF変換データ1部

- (1) 競技場の位置図(1/50,000)
- (2) コースの平面図(1/5,000)
- (3) 会場図(1/1,000)
- (4) コースの縦断面図(垂直1/2,000、水平1/20,000)
- (5) コース・アップダウン表

(様式)

S A J ジャンプ台、コース公認台帳

公認ジャンプ台、コース番号(種目) No.

ジャンプ台、コースの名称

ジャンプ台、コースの所在地

ジャンプ台、コース申請者

所属都道府県連盟

ジャンプ台、コースの管理責任者

調査委員名

公認年月日 平成 年 月 日

公認期間 自平成 年 月 日

至平成 年 月 日

公認料納入 平成 年 月 日 ¥

公認認定証発送 平成 年 月 日

ジャンプ台、コースの概要

(1) コースの全長

(2) カテゴリー( A・B・C・D・E )

(3) 標高差(HD) m

(4) 最高地点標高 m

(5) 最低地点標高 m

(6) スタジアム標高 m

(7) 合計登高値(TC) m

(8) 極限登高値(MC) m

ジャンプ台、コースの施設

(1) スキーリフト

(2) 小屋、便所(ワックスルーム)

(3) 放送施設

(4) 防護施設

(5) 掲示板

(6) ジャンプ台、プロフィールのゲージ

大会運営

(1) 経歴

(2) 宿泊施設

(3) 宿泊可能人員

(4) 公認旗門審判員の数

(5) 競技運営指導員の数

公認の継続

	公認期間	公認料	記事
1	自平成 年 月 日 至平成 年 月 日	年 月 日 ¥	
2			
3			

(様 式)

競技施設公認継続申請書

平成 年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 殿

申 請 者  
所 属

このことについて、公認を継続いたしたく申請いたします。

記

ジャンプ台、コースの種別

ジャンプ台、コースの名称

ジャンプ台、コースの所在地

ジャンプ台、コースの管理責任者

公認月日及び番号

概要及び施設に変更のあるときは、詳細を記入し再調査の依頼をすること。



# FIS 競技用品規格& コマーシャルマーキング規格

2017/2018 (2017年6月)

A decorative horizontal bar at the bottom left of the page, consisting of an orange top half and a blue bottom half.

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE SKI  
INTERNATIONAL SKI FEDERATION  
INTERNATIONALER SKI VERBAND

## C. ノルディック競技用品 — クロスカントリースキー

### 1. クロスカントリーレーシングスキー

#### 1.1 定義

クロスカントリーレーシングスキーとは、スキーの種類であり、クロスカントリーピステ（アップヒル、でこぼこのある地形、ダウンヒル）をマスターするためのグライディングテクニックの使用に最適である。この種類のスキーの基本的特徴を、このルールで定義する。

#### 1.2 規制

##### 1.2.1 形体

###### 1.2.1.1 スキーの長さ

最小値：選手の身長マイナス 100mm

###### 1.2.1.2 スキーの幅

ISO9119 または Ö 基準 S4072 が定義するビンディング取り付け位置の幅：40mm 以上

###### 1.2.1.3 先端

ショベル湾曲： 30mm 以上

###### 1.2.1.4 テール

加重していないスキーを平面に置いた状態で、テールが 30mm より上がってはいならない。

###### 1.2.1.5 断面図の全高

20mm 以上、35mm 以下

###### 1.2.1.6 同一構造

両スキーとも、同一の構造で、同じ長さでなければならない。

#### 1.2.2 フレックス

フレックスの強度に関する規制なし。

#### 1.2.3 質量

スキー1組あたりの重量は、750g 以上なければならない。質量分布に関する制限なし。

#### 1.2.4.1 構造の種類

制限なし。

#### 1.2.4.2 スキー構成要素

##### 1.2.4.2.1 滑走面

滑走面全体は滑らか、または縦（長さ）方向に若干溝が入ったものとなる。滑走面の溝を例外として、水平度は縦横全体で一定でなければならない。スケールパターンやステップパターンによる登坂補助を認める。外的エネルギーにより駆動するモデルは一切認められない。

##### 1.2.4.2.2 上面

制限なし。

##### 1.2.4.2.3 エッジ

エッジが上外側を向いて、滑走面が上面よりも狭くなるようになってはならない（ウェッジシェイプ不可）。

#### 1.2.5 耐久性

制限なし。

#### 1.2.6 追加用品

##### 1.2.6.1 次に当てはまる追加用品は認められない：

- a) 外的エネルギーを利用するもの（例：ヒーター、化学エネルギーアキュムレータ、電池、機械的補助等）。
- b) 他の選手に不利となるような、競技の外的条件変化を引き起こすもの、または引き起こそうとするもの（例：ピステや雪に変化を加える等）。
- c) 意図された使用目的で使用した際、使用者やその他の人の負傷のリスクを高めるもの。

#### 2. クロスカントリーレーシングビンディング

1.2.6 の b) 及び c) を前提とし、素材及び型に関する制限なし。

#### 3. クロスカントリーレーシングブーツ

素材及び型に関する制限なし。

## 4.1 定義

クロスカントリーレーシングポールとは、クロスカントリーピステ（上り坂、でこぼこのある地形、下り坂）をマスターするためのグライディングテクニックの使用に最適なポールである。

## 4.2 一般規則

### 4.2.1 同じ長さのポール

競技で使用するポールは、2本とも同じ長さでなければならない。両手に1本ずつ握る。

### 4.2.2 ポールの長さ

クラシカル・テクニカル競技では、ポールの長さは最大、競技者の身長 $83\%$ を超えてはならない。

フリー・テクニカル競技では、ポールの長さは最大、競技者の身長 $100\%$ を超えてはならない。

身長は、平面にスキーブーツを履き無帽で頭頂部までの測定となる。

ポールの長さは石突き底部からストラップの付け最上部で測定される。

全ての測定値は、 $0.5\text{cm}$ 未満は切り捨て、 $0.5\text{cm}$ 以上は切り上げる。

### 4.2.3 一定の長さ

ポールの長さは一定でなければならない。例えば、伸縮自在のポールは認められない。

### 4.2.4 外的エネルギー

漕ぐのに有利に働く外的エネルギーを生み出すポールは認められない（例：スプリングまたは機械装置）。

### 4.2.5 重量

ポールの重量に関する制限なし。

### 4.2.6 構造

非対称的な構造のポールを認める（例：右手用と左手用のポールの違い）。

## 4.3 技術規格

### 4.3.1 グリップ

グリップは、シャフトに取り付けなければならない。形体や素材に関する制限なし。

### 4.3.2 ストラップ

ストラップは、グリップまたはシャフトにつなぎ合わせなければならない。長さや幅が調節可能なストラップを認める。



#### 4.3.3 シャフト

シャフトの素材及び型、質量分布に関する制限なし。

#### 4.3.4 バスケット

多様なスノーコンディションをマスターするため、種々の形態及び素材のバスケットを認める。しかしながら、他の選手にとって不利となるので、バスケットがトラックコンディションを変えるようなことがあってはならない。

#### 4.3.5 チップ

シャフトへのチップの取り付け角度は自由である。ポール 1 本に複数のチップを使用することができる。素材に関する制限なし。

## 競技用品のコマーシャルマーキング

### 1. 原則

選手は、2.1 から 2.6 においてアイテム別に認められたコマーシャルマーキング（文字またはロゴ）を、自分の競技用品に表示することができる。

その他のあらゆる形のコマーシャルマーキングや広告は、明確に記載されていない限り、認められない。競技用品にメーカーの識別表示（ID）をつける恩恵は、例外的であり、“有効なメーカー” に厳しく限られる。FIS は、A 1.1 の定義を、FIS の裁量によって、満たす企業のみを“有効なメーカー”として認める。

用品の製造に主に携わっているわけではなく、主に広告目的で特定の用品を製造する会社は、メーカーの識別表示の恩恵を得ることは認められない。

コマーシャルマーキングのサイズ・フォーム・数に関する規格は、FIS 理事会が定めなければならない。

競技用品に付けられているコマーシャルマーキングは、ビブや衣類に表示することができない。ただし、そのようなコマーシャルマーキングが、個々の競技用品のメーカーの識別表示の場合を除く。

### 2. 詳述

#### 2.1 スキー、ブーツ、ビンディング、スキーポール、アーム／レッグプロテクション等

##### 2.1.1

市販されているデザインのスキー、スキーブーツ、ビンディング、スキーポール、セパレートタイプのアーム／レッグプロテクション、その他ハードウェアは、FIS 競技会での使用が認められ、この規格の A 1.2 項で定義されるメーカーの識別表示のみをつけることができる。

##### 2.1.2

アーム／レッグプロテクションにつけるコマーシャルマーキングのサイズは、12cm<sup>2</sup> のものを各ピース 1 つまでとする。

これらのプロテクションがウェアの一部となっており、2.4 条の規定内のものであれば、アザースポンサーのマーキングをアーム／レッグプロテクションにつけることができる（3-4 パーツ）。

ジャンプスキーについては例外とする：2.6.3 条参照。

スキーポールのハンドプロテクターに付けるメーカーのコマーシャルマーキングは許可される。

各ハンドプロテクターにつきマーキングを2つに分けることができる。ハンドプロテクターごとの全体のコマーシャルマーキングは、15cm<sup>2</sup>までに限られる。

### 2.1.3 スキーストラップ

ハードウェア (スキー、スキーブーツ、ビンディング、スキーポール) とワックスのサプライヤーのみ、スキーストラップに広告を出すことができる。

商業広告は認められない。スキー1組につきストラップは2つまでとし、例えば、片方をハードウェア、もう片方をワックスサプライヤー用にするといった方法が可能である

## 2.2 グローブ

実際のメーカーの商業マーキングをグローブにつけることができる。グローブ片方につき、マーキングを2つに分けることができる。グローブ片方当たりの商業マーキングの表面積は合計 15c m<sup>2</sup>までとする。

## 2.3 ゴーグル

ゴーグルのストラップは実際のメーカーの商業マーキングを2つまで、それぞれ 15cm<sup>2</sup> 以内のものをつけることができる。15cm<sup>2</sup> 以内は伸ばさない状態で測定した時のサイズである。型物ロゴ (moulded logo) をフレーム上の額の中心に出すことができる。このロゴは、フレームと同じ色でなければならない。

ストラップの幅は 4cm 以下とする。ダブルストラップの場合は、片方のストラップにのみ商業マーキングをつけることができる。レンズには広告を入れてはならない。

ゴーグルサプライヤーの商業マーキングのついた (ゴーグルなしの) ストラップを着用することはできない。

## 2.4 ウェアー (衣類)

### 2.4.1

ウェアには、メーカーやアザースポンサー (2.6 条) の商業マーキングをつけることができる。

### 2.4.2

1人分のウェアにつけられる商業マーキングの面積は、合計 400cm<sup>2</sup> までとする。1つのマーキングの最大面積は 100cm<sup>2</sup> とする。同一スポンサーの商業マーキングを、上下や左右に並べてつけることはできない。商業マーキングの位置に関しては、各国連盟が決定することができる。

### 2.4.3

前述の 400cm<sup>2</sup> 以外に、ロールネックにもメーカートレードマーク/スポンサー表示が可能である。

表示は合計面積 20cm<sup>2</sup> までとし、2つに分割することも可能である。

### 2.4.3

国の軍事組織及び同様の組織を表す 20cm<sup>2</sup> までのミリタリーシンボル (エンブレム) を、ウォームアップスーツに表示することができる (ヘッドギアやレーシングスーツには不可)。このエンブレムは商業マーキングの合計面積 400cm<sup>2</sup>に含まれるものとする。このことは、慈善組織のマーキングにも適用される。

## 2.5 ヘルメット及びヘッドギア

### 2.5.1

ヘルメット及びヘッドウェアには、15cm<sup>2</sup> までのメーカーの商業マーキングを両サイドの耳の上に1つずつ、合計 2 つまでつけることができる。ヘルメット及びヘッドウェアのフロントは、2.5.2 条に従い、ナショナルチームエンブレム及びスポンサー向けにのみ使用することができる。

### 2.5.2

競技中、及びフラワーセレモニー／表彰式やインタビュー等の会場を含む競技エリア内で着用するヘルメットと全てのヘッドウェアのフロント (中央) には、6 cm<sup>2</sup> 以上の国内スキー連盟の識別表示 (ID: identification) をつけなければならない。

国内スキー連盟は、ヘルメット/ヘッドウェアの最大 50cm<sup>2</sup> (同サイズの同一ロゴであれば 2 つに分割も可) までの広告権について、それぞれの連盟規定に従い、スキー用品 (ハードウェアまたはソフトウェア) のサプライヤーではない企業とスポンサー契約を結ぶことができる。その場合、ヘルメット及びヘッドウェアのフロントには、6 cm<sup>2</sup> 以上の国内スキー連盟の識別表示 (ID) つけなければならない。広告の位置は、ナショナルチームエンブレムの上か横のどちらかでなければならない。

(ヘッドギアのフロント中央) 国内スキー連盟の識別表示 (ID) と、スポンサー広告 (50 cm<sup>2</sup>) との間のフリースペースは、1cm 以上でなければならない。

ヘッドバンドについては、広告をヘッドバンドのフロントにつけることができるが、その横に国内スキー連盟の識別表示 (ID) をつけること。

ヘルメットの可動または固定チンストラップへの広告は認められない。

また、選手のヘッドギアやウェアに、選手 (のウェブサイト) にダイレクトにつながるウェブサイトアドレスを表示することはできない。

イクイップメントやコンポーネント (スキー、ビンディング、ブーツ、ヘルメット、ワックス企業) などに記載された名前を、スタート・ピブ、レーシング・スーツに使用することは認められない。

※ハードウェアの製造業者が、アウターウェアも製造している場合、そのハードウェア業者のオリジナルブランド名以外の名前であれば、使用が認められる。

### 2.5.3

レースで使用するヘルメットや、ヘッドギアの選手名の表示を認める。選手名のサイズは最大 20cm で、ヘルメットの後ろか、クロスカントリーとノルディック・コンバインドの場合は、レーシングハットやヘッドバンドの後ろに表示する。選手名はフルネームのみ、全選手統一して FIS が定めた共通フォントとサイズを使用する。

## 2.6 アザースポンサー

### 2.6.1

各国連盟は、スキー用品（ハードウェア及びソフトウェア）のサプライヤーではない企業とスポンサー契約を結ぶことができる。ICR206 条も参照のこと。

### 2.6.2

アザースポンサーのコマーシャルマーキングのサイズは、2.1 条、2.4 条、2.5 条の規定に従うものでなければならない。

### 2.6.3

ジャンプスキー：ジャンプスキーへのアザースポンサーのコマーシャルマーキングの面積は、スキー片方につき合計  $160\text{cm}^2$  までとする。コマーシャルマーキングはスキー片方につき 1 つだけ認められる。このマーキングは両スキーとも同一のものでなければならない。

### 2.6.4

エアリアルスキー：エアリアルスキーへのアザースポンサーのコマーシャルマーキングの面積は、スキー片方につき合計  $120\text{cm}^2$  までとする。コマーシャルマーキングはスキー片方につき 1 つだけ認められる。このマーキングは両スキーとも同一のものでなければならない。

### 2.6.5

スノーボード：スノーボードの滑走面には、メーカーのコマーシャルマーキングのみを表示することができる。スノーボードのトップには、メーカーのコマーシャルマーキングと最大5つまでスポンサーのコマーシャルマーキングを最大  $250\text{cm}^2$  以内で、各国スキー連盟の規定に基づき、表示することができる。

## 2.7 アクセサリー

### 2.7.1 ファニーパック（ウエストバッグ）

コマーシャルマーキングは国内スキー連盟の所有とする。

コマーシャルマーキングのサイズは  $50\text{cm}^2$  までとする。製品の実際のメーカーまたは国内スキー連盟のコマーシャルスポンサーが、このスペースを使用することができる。

コマーシャルマーキングの入ったウエストバッグを、勝者発表や表彰式の最中に、表彰台の上で着用してはならない。

### 2.7.2 大きなネックバンドのついた携帯電話／ドリンクボトルの使用

勝者発表や表彰式中に、ビブスポンサーが見えるようにするために、表彰台の上では、大きなネックバンドのついた携帯電話（携帯電話のついた大きなネックバンド）やドリンクボトルを禁止する。

## 2.8

前述の規定は全て、オフィシャル、コーチ、テクニシャン、サポートスタッフ、前走者に対しても適用される。

### コマーシャルマーキング及び広告に関する細則

#### A. コマーシャルマーキング

##### A.1

その他の製品（アザープロダクト）のトレードネーム・ブランドネーム・ロゴを、モデルネームとして使用したり、スキー用品に表示したりすることはできない。ただし、ジャンプスキーとフリースタイルエアリアルスキーは例外とする。

##### A.2

スポンサーやメーカーのロゴや製品を模したり、表現したウェアやヘルメットは認められない。

##### A.3 計測

###### A.3.1

コマーシャルマーキングのサイズは、マーキングの輪郭線の内側の表面積とする。計測は、（布地等を）引き伸ばさない状態で行う。

###### A.3.2

マーキングが色の違うエリア内にある場合には、違う色の部分の合計面積を計測する。

###### A.3.3

マーキングの正確な計測は、各国スキー連盟の責任とする。

###### A.3.4

コマーシャルマーキングの承認を得るため、コマーシャルマーキングのオリジナルのサイズ、フォーム、色のコピーを、使用前に FIS へ送付することを強く推奨する。これは 10 月 1 日までに、または南半球ではシーズントート前に行うべきである。

#### B. 選手を使用した広告

##### B.1

当該国スキー連盟の許可があれば、選手を使用した広告が可能である。

##### B.2

特定の選手の氏名、タイトル、イラストレーションは、当該国スキー連盟の許可が得られた場合のみ、広告に使用することができる。

### **B.3** 選手を使用した広告で認められないもの

#### **B.3.1**

アルコール、タバコ、麻薬のあらゆる広告。

#### **B.3.2**

製品名や製品デザインとしての、スキーマーの氏名、イラストレーション、タイトルの使用。

#### **B.3.3**

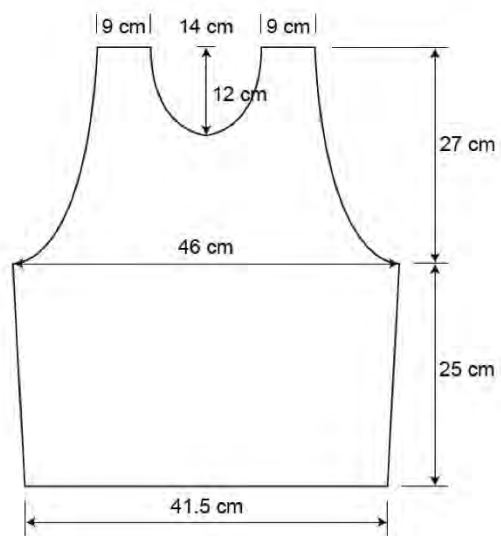
ダイレクトな発言や積極的な製品のプレゼンテーション。

#### **B.3.4**

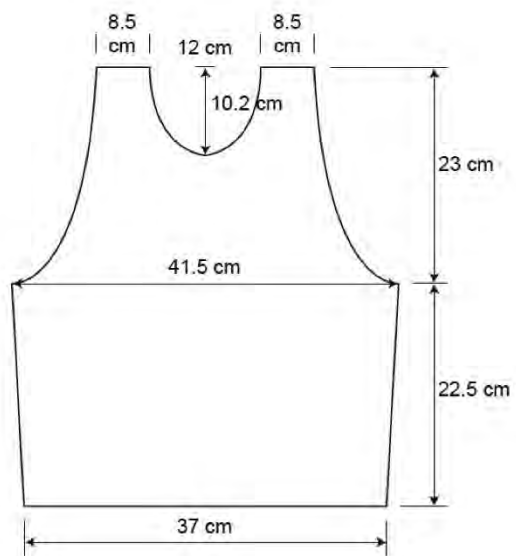
宗教的又は人種差別。

**C:** 前述のルールは、プレスインフォメーションや **PR** 活動に関しても適用される。

## Cross Country



Cross-Country - Men



Cross-Country - Ladies



# SAJパーソナルスポンサー

## 競技別コマーシャルマーキング枠

競技名	ヘッドギア	ロールネック	板
ジャンプ	50cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	160cm <sup>2</sup> × 2(1社)
コンバインド	50cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	160cm <sup>2</sup> × 2(1社) ※ジャンプスキーのみ
クロスカントリー	50cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	—
アルペン	50cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	—
フリースタイル	50cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	120cm <sup>2</sup> × 2(1社) ※エアリアル競技に限る
スノーボード	50cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	250cm <sup>2</sup> (5社)

# COMMERCIAL MARKINGS ON CLOTHING AND EQUIPMENT – A VISUAL GUIDE

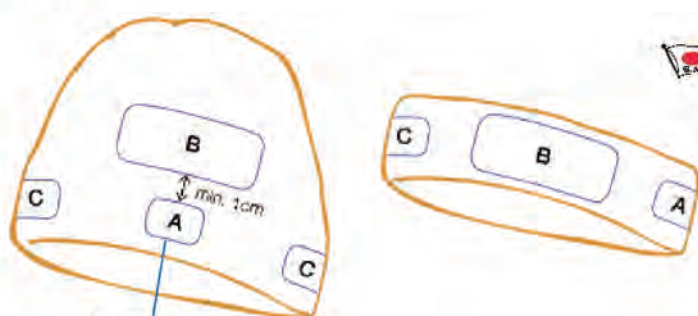
(FIS コマーシャルマーキングガイド


2016/2017)

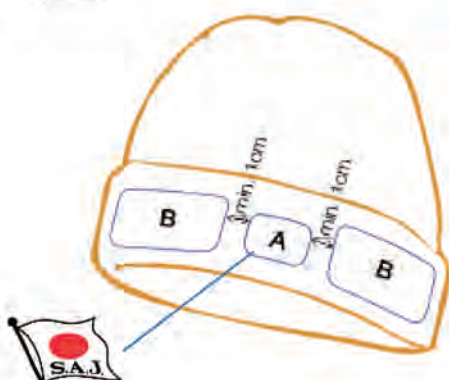
EDITION 2016/2017


FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE SKI  
INTERNATIONAL SKI FEDERATION  
INTERNATIONALER SKI VERBAND

## HELMETS (ヘッドギア) ②

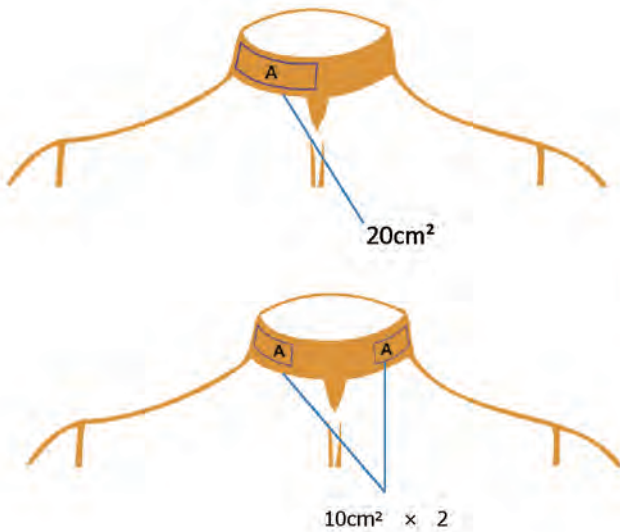


-  A= NSA identification minimum area 6cm<sup>2</sup>.
- B= One sponsor marking max. area 50cm<sup>2</sup>.
- C= Commercial marking of the manufacturer max. area 15cm<sup>2</sup>.



-  A= NSA identification minimum 6cm<sup>2</sup>.
- B= Two identical sponsor markings max. area 25cm<sup>2</sup> each or one sponsor marking above the NSA ID max. 50cm<sup>2</sup>.
- C= Two commercial markings of the manufacturer above the ears max. area 15cm<sup>2</sup> each.

## ROLLNECK（ロールネック）



Markings on the rollneck are in addition to the 400cm<sup>2</sup>.  
The total surface area of the markings may not exceed 20cm<sup>2</sup>.

Markings may be divided into two parts.

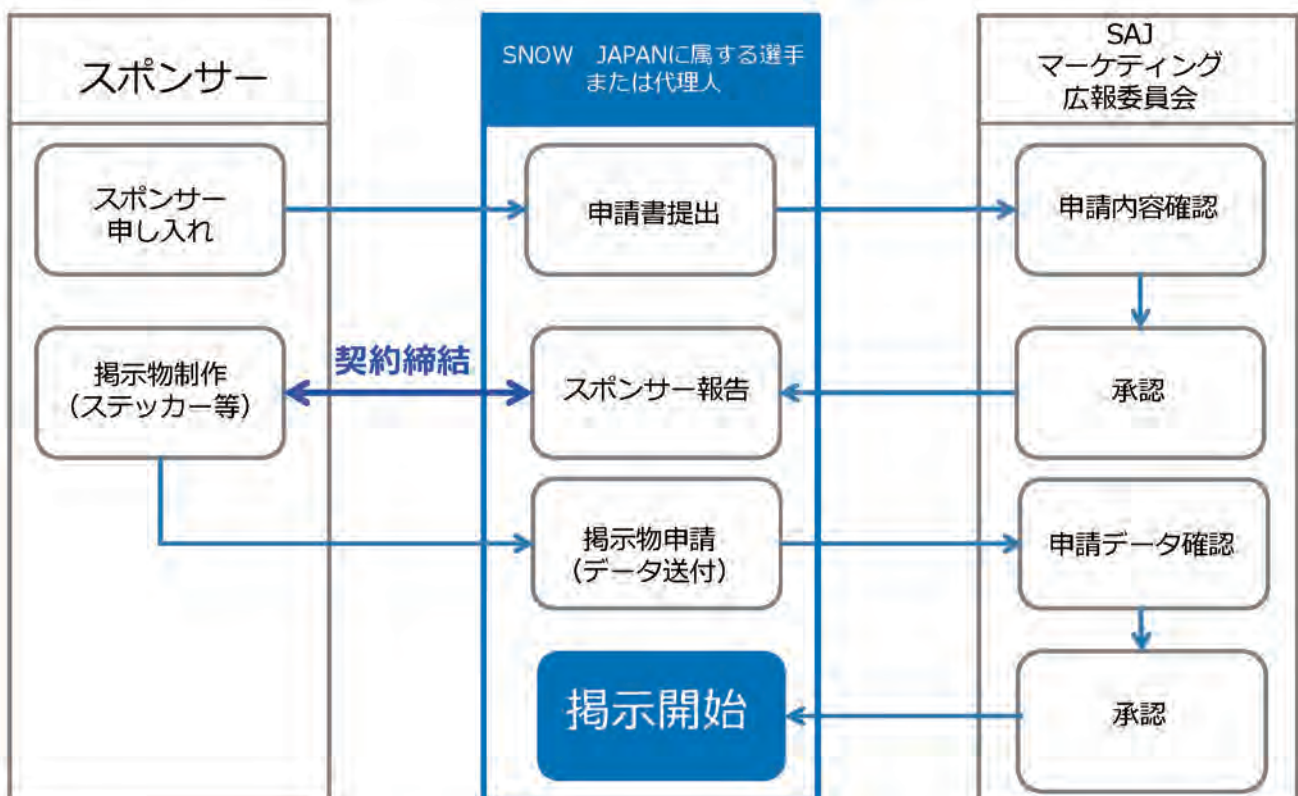


rollneck上のマーキングは、450cm<sup>2</sup>に含まれません。

マーキングの総表面積は20cm<sup>2</sup>を超えてはなりません。

マーキングは、二つの部分に分けることができます。

## パーソナルスポンサー申請フロー



## パーソナルスポンサー規程

### (目 的)

第1条 本規程は、国際スキー連盟（以下「FIS」という。）の規程に従い、強化指定選手、デモンストレーターその他本連盟の競技者がその使用する競技ウェア又は用具（以下「用具等」という。）に第三者の名称又はロゴマーク（以下「ロゴマーク等」という。）を掲出するにあたり遵守すべき事項を定める。

### (契 約)

第2条 強化指定選手及びデモンストレーターは、FISの商業マーケティングに関する規定（FISの商業ガイドを含むが、これに限らない。以下同じ。）その他の規程、国際オリンピック委員会、日本オリンピック委員会、日本体育協会の規程及び本規程を含む本連盟の規程等（以下「関連規程等」という。）の定めに従う限りにおいて、第三者との間で、自己の使用する用具等に当該第三者のロゴマーク等を掲出することを内容とするパーソナルスポンサー契約を締結することができる。ただしジャパンチームウェア及び競技ウェアについてはその限りではない。

2 前項に基づき第三者のために掲出するロゴマークの大きさ及び掲出箇所は、当該事業年度のFISの商業マーケティングに関する規定に従う。

3 パーソナルスポンサー契約の内容は、関連規程等の定めのほか、本連盟のオフィシャルスポンサーや次条第2項の所属団体の権利を一切制限又は侵害してはならない。

### (対象企業)

第3条 強化指定選手及びデモンストレーターは、次の各号に定める者とは、パーソナルスポンサー契約を締結することができない。

(1) 本連盟のオフィシャルサプライヤー（本連盟公認の公式用品を提供する企業をいう。）

(2) たばこ、ドラッグ（大麻等の違法薬物）又はアルコール製品の製造・販売事業者。ただし、当該製造・販売事業者であっても、スポンサー契約において、当該事業者がスポンサーの権利を行使できる製品カテゴリーから当該製品を明示的に除外した場合はこの限りではない。

(3) ギャンブル事業者

2 強化指定選手の所属団体（所属企業を含む。以下同じ。）は、本連盟へ事前に申請し、本連盟が承諾した場合に限り、所属団体のロゴマーク等を強化指定選手の使用する用具等に掲出することができる。なお、掲出するロゴマークの大きさ及び掲出箇所は、当該事業年度のFISの商業マーケティングに関する規定に従わなければならない。

### (承 諾)

第4条 パーソナルスポンサー契約の締結を希望する者は、本連盟の定める様式の申請書を事前に本連盟のマーケティング広報委員会へ提出して、本連盟の許諾を得なければならない。

### (手数料等)

第5条 本連盟は、強化指定選手及びデモンストレーターに対し、パーソナ

ルスポンサー契約に関し、手数料等を請求しない。

(差止め)

第6条 強化指定選手又はデモンストレーターがFISの規程又は本規程に違反してロゴマーク等を掲出している場合には、本連盟は、直ちに、その掲出を差し止めることができ、掲出の差止めを求められた者は、これに従わなければならない。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の決議による。

平成28年12月21日 改正

女子スプリント決勝ラウンド トーナメント表

# Sprint Form Women (30 Athletes)

《タイムを取る場合》

without B-Final

《B決勝なしの場合》

## Quarter Final

V1	
1	▶Top 2 to S1
10	
11	
20	
21	
30	

V2	
4	▶Top 2 to S1
7	
14	
17	
24	
27	

V3	
5	▶1. to S1
6	▶2. to S2
15	
16	
25	
26	

V4	
2	▶Top 2 to S2
9	
12	
19	
22	
29	

V5	
3	▶Top 2 to S2
8	
13	
18	
23	
28	

## Semi Final

●決勝ラウンドでタイムを取る場合の準決勝(S1、S2)の6番のポジション(LL)；準々決勝(V)各組3、4位の中で、1番タイムの良い競技者をS2のLLへ、2番目にタイムの良い競技者をS1のLLへ割り振る

S1	
	▶1+2 to A
	▶3 evtl.4 accord. The time to A
LL	

●S1の3、4位と S2の3、4位の中で1番目と2番目にタイムの良い競技者をA決勝へ割り振られる。

A	
LL	
LL	

S2	
	▶1+2 to A
	▶3 evtl.4 accord. The time to A
LL	

▶Nr. 1 and 2 are directly selected in addition the two quickest according the time. The faster of those two additional selected athletes will be placed in Semi finale 2 and the slower of those athletes will be placed in Semi Finale 1.

女子スプリント決勝ラウンド トーナメント表

# Sprint Form Women (30 Athletes)

《タイムを取らない場合》

without B-Final

《B決勝なしの場合》

## Quarter Final

		V1
1		
10		
11		
20		
21		
30		

▶Top 2 to S1

		V2
4		
7		
14		
17		
24		
27		

▶Top 2 to S1

		V3
5		
6		
15		
16		
25		
26		

▶1. to S1  
▶2. to S2

		V4
2		
9		
12		
19		
22		
29		

▶Top 2 to S2

		V5
3		
8		
13		
18		
23		
28		

▶Top 2 to S2

## Semi Final

●決勝ラウンドでタイムを取らない場合の準決勝(S1、S2)の6番ポジション(LL)：準々決勝(V)各組3位の中で、1番予選タイムの良い、競技者をS2のLLへ、2番目にタイムの良い競技者をS1のLLへ割り振る

		S1
	LL	

▶1+2+3 to A

## Final

		A

		S2
	LL	

▶1+2+3 to A

# Sprint Form Women (30 Athletes)

《タイムを取る場合》

with B-Final

《B決勝有りの場合》

## Quarter Final

	0:00:00	V1
1		
10		
11		
20		
21		
30		

▶Top 2 to S1

	0:05:00	V2
4		
7		
14		
17		
24		
27		

▶Top 2 to S1

	0:10:00	V3
5		
6		
15		
16		
25		
26		

▶1. to S1  
▶2. to S2

	0:15:00	V4
2		
9		
12		
19		
22		
29		

▶Top 2 to S2

	0:20:00	V5
3		
8		
13		
18		
23		
28		

▶Top 2 to S2

## Semi Final

●決勝ラウンドでタイムを取る場合の準決勝(S1、S2)の6番ポジション(LL); 準々決勝(V)各組3、4位の中で、1番タイムの良い競技者をS2のLLへ、2番目にタイムの良い競技者をS1のLLへ割り振る

	0:50:00	S1
	LL	

▶1+2 to A

▶3 evtl.4 accord. The time to A or B

▶5+6 to B

## Final

	1:10:00	B

	1:15:00	A

	0:55:00	S2
	LL	

▶1+2 to A

▶3 evtl.4 accord. The time to A or B

▶5+6 to B

●S1の3、4位と S2の3、4位の中で1番目と2番目にタイムの良い競技者をA決勝へ割り振る。3番目と4番目のタイムの競技者はB決勝へ割り振られる。

▶Nr. 1 and 2 are directly selected in addition the two quickest according the time. The faster of those two additional selected athletes will be placed in Semi finale 2 and the slower of those athletes will be placed in Semi Finale 1.



女子スプリント決勝ラウンド トーナメント表

# Sprint Form Women (30 Athletes)

《タイムを取らない場合》

with B-Final

《B決勝有りの場合》

## Quarter Final

	0:00:00	V1
1		
10		
11		
20		
21		
30		

▶Top 2 to S1

	0:05:00	V2
4		
7		
14		
17		
24		
27		

▶Top 2 to S1

	0:10:00	V3
5		
6		
15		
16		
25		
26		

▶1. to S1  
▶2. to S2

	0:15:00	V4
2		
9		
12		
19		
22		
29		

▶Top 2 to S2

	0:20:00	V5
3		
8		
13		
18		
23		
28		

▶Top 2 to S2

## Semi Final

●決勝ラウンドでタイムを取らない場合の準決勝(S1、S2)の6番ポジション(LL): 準々決勝(V)各組3位の中で、1番タイムの良い競技者をS2のLLへ、2番目のタイムが良い競技者をS1のLLへ割り振る

	0:50:00	S1
	LL	

▶1+2+3 to A

▶4+5+6 to B

## Final

	1:10:00	B

	1:15:00	A

	0:55:00	S2
	LL	

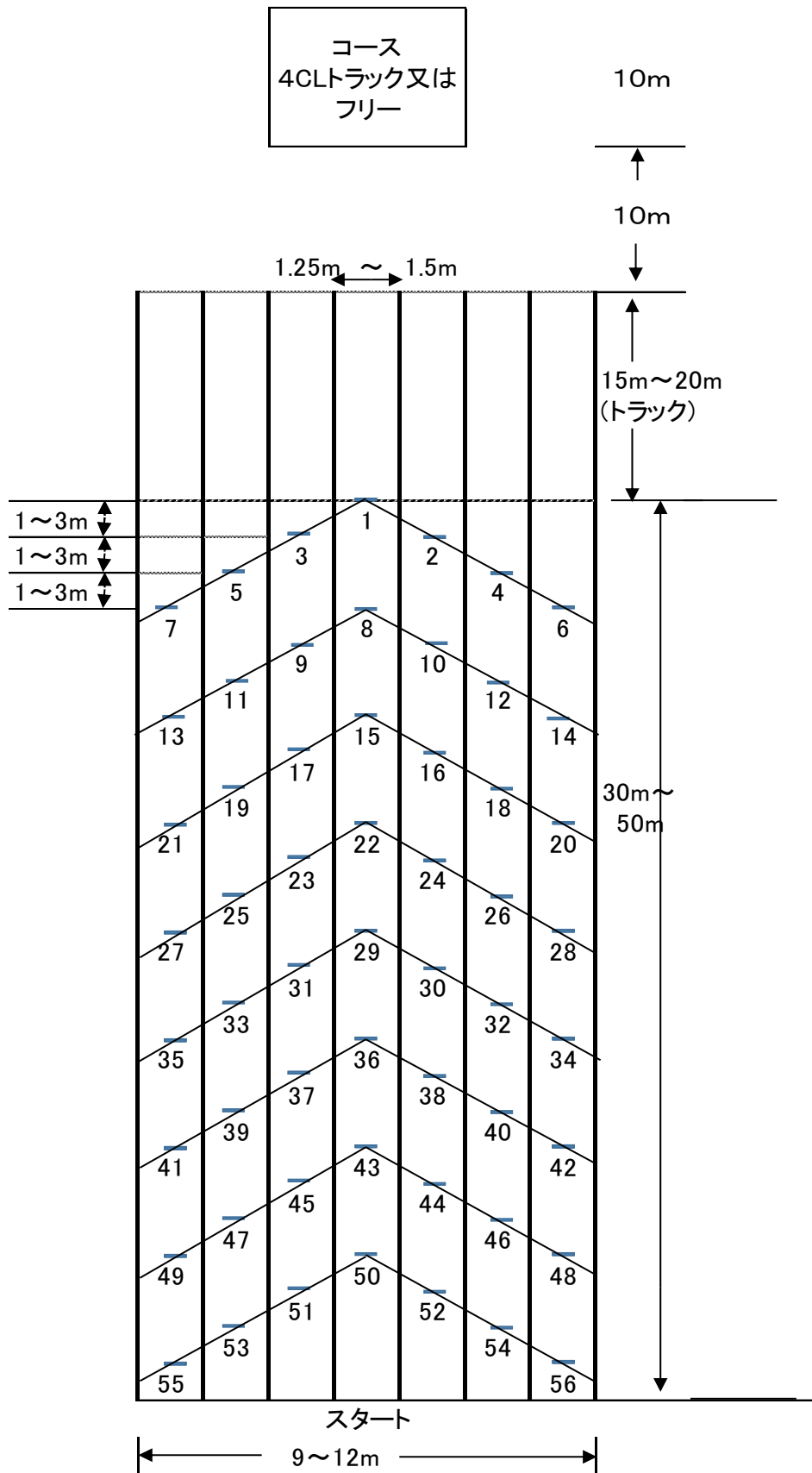
▶1+2+3 to A

▶4+5+6 to B

●S1の1、2、3位と S2の1、2、3位の競技者はA決勝へ割り振られる。  
4、5、6位の競技者はB決勝へ割り振られる。

▶Nr. 1 and 2 are directly selected in addition the two quickest according the time. The faster of those two additional selected athletes will be placed in Semi finale 2 and the slower of those athletes will be placed in Semi Finale 1.

# マス・スタート設置



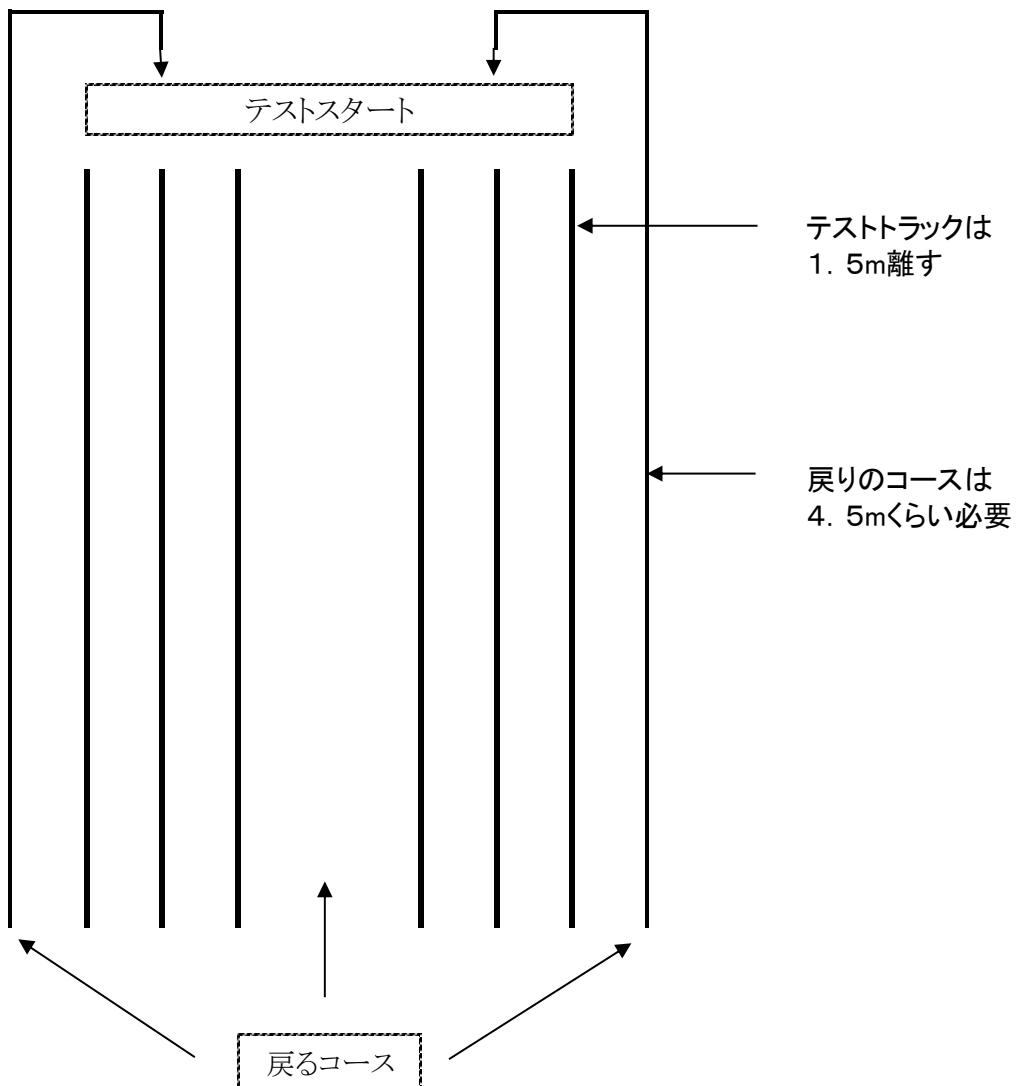
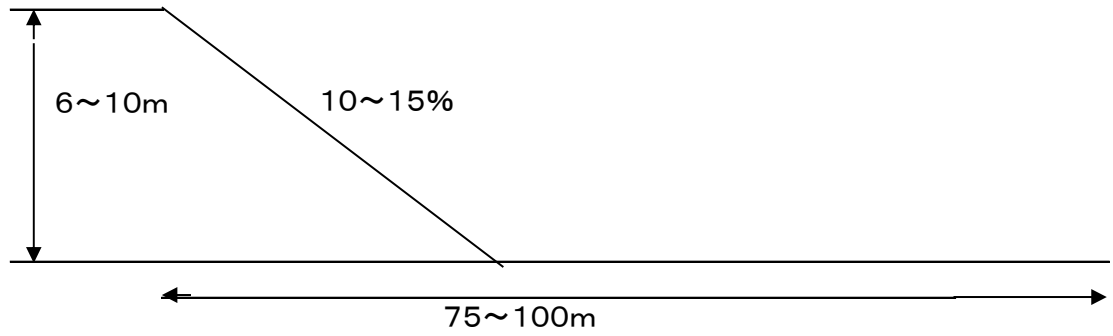
CLテクニック: 5  
又は7トラックを  
セットし、10mの  
移行ゾーンの後  
4トラックのコー  
スへ進む。

FRテクニック: 5  
又は7トラックを  
セットし、スター  
ト・エリア通過  
後、通常9m幅の  
コースへ進む。

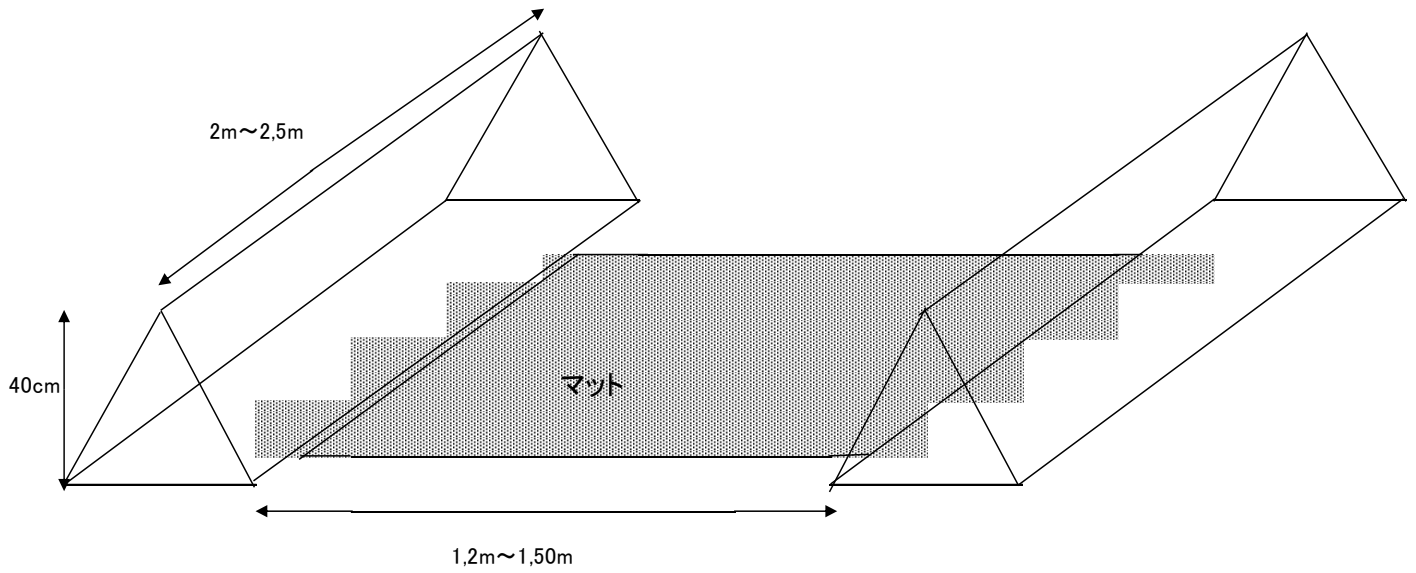
# スキーテスト

スキーテストエリアは、

- ・ワックスキャビンから行き来、しやすい場所、
- ・スキーテスト、ワックステスト専用コースであること(参加チームや用具供給業者専用)、
- ・コース数はチーム数を目安とする。



# パシュート、スキー交換ピットサイズ(目安)



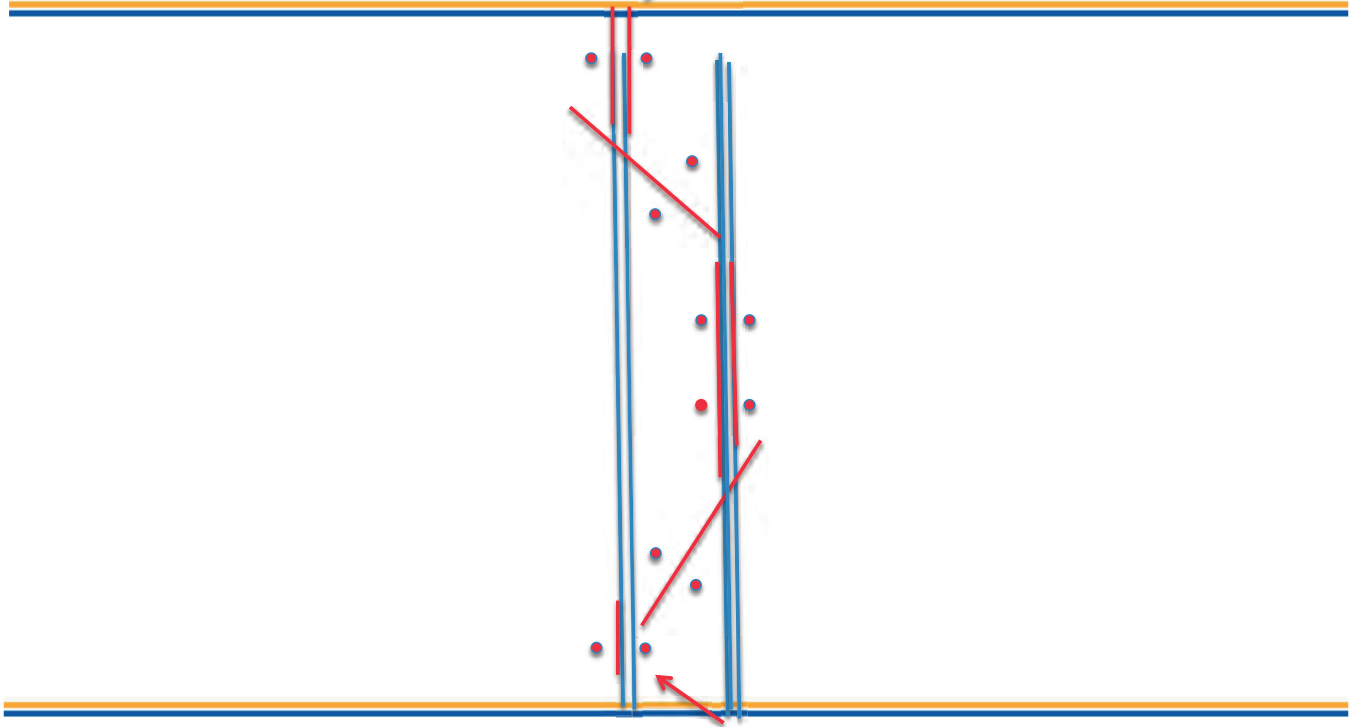
2013.10.22 s.takahashi

# クラシカル・テクニクの定義とルール

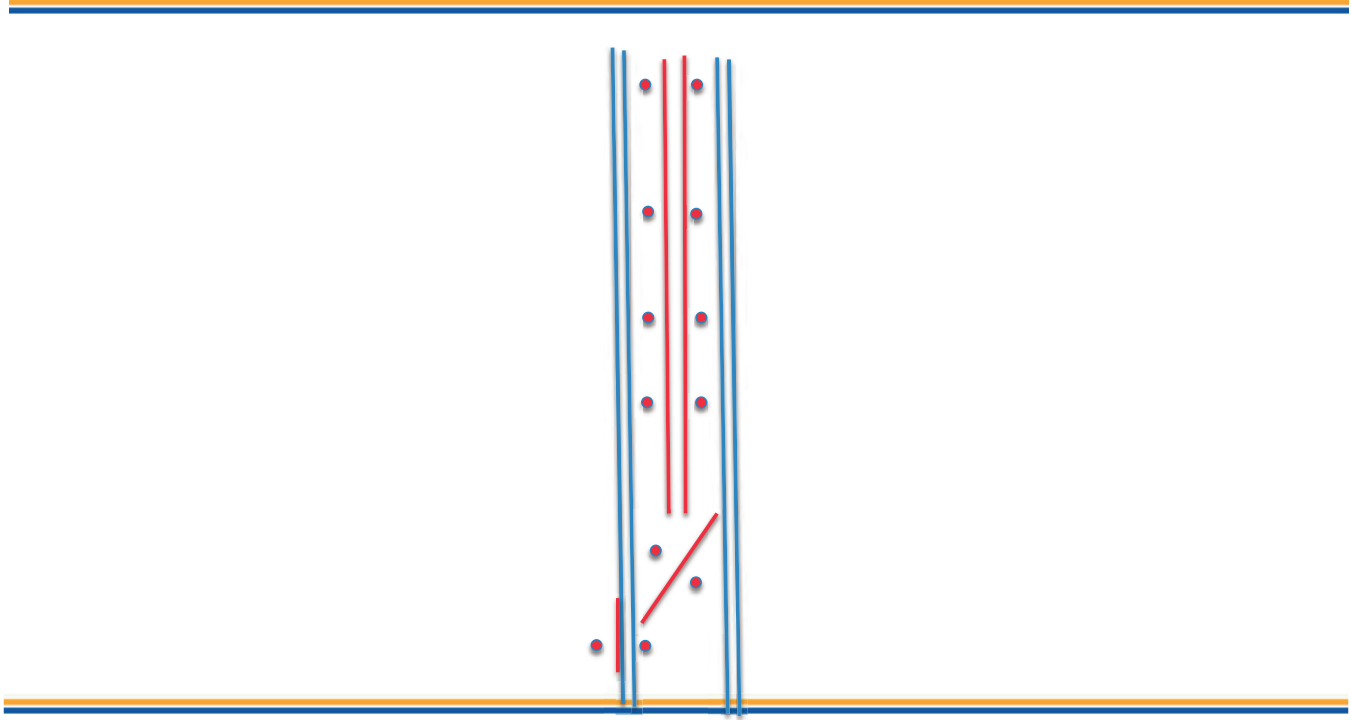
IGR ルール :

- ◎ クラシカル・テクニク競技では、競技者は以下のクラシカル・テクニクのみを使用すること：
  - ・ クラシカル・テクニクは、ダイヤゴナル、ダブル・ポール、グライドを伴わない開脚登高、ダウンヒル、ターンにより構成される。
  - ・ シングル・ダブルのスケーティングは認められない。
  - ・ トラックが設置されている場合は、プッシュ動作を伴うターンは禁止されるが、これはトラック外でも当てはまる。
  - ・ 複数のトラックが設置されている場合、別のトラックへ繰り返し移動することは認められない。
  
- ◎ 違反が生じた場合、ジュリーは以下を考慮し、適切に対処すること。
  - ・ 特筆すべき事情（例. トラックの状況、雪の状態、コースのどの位置か）
  - ・ 競技者にとって有利か利益になったか  
（例. マス・スタート、個人スタート）
  - ・ 他の競技者に対する悪影響
  - ・ リザルトへの影響（例. スプリント予選あるいは 50 km）
  - ・ 大会のレベル（例. ワールド・カップなのかユースの大会か）
  - ・ 競技者の年齢と経験
  
- ◎ クラシカル・テクニクの競技における違反に対して、以下の処置が可能である。
  - ・ 口頭注意
  - ・ 書面警告（イエローカード）
  - ・ 競技中止
  - ・ 失格

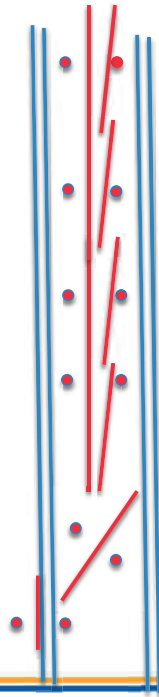
# Violation of ICR



# Allowed



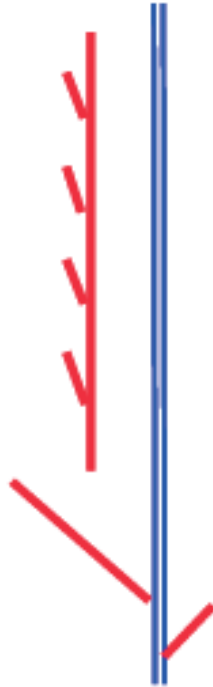
# Violation of ICR



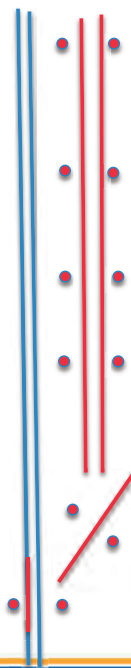
# Violation of ICR



# Violation of ICR



# Allowed

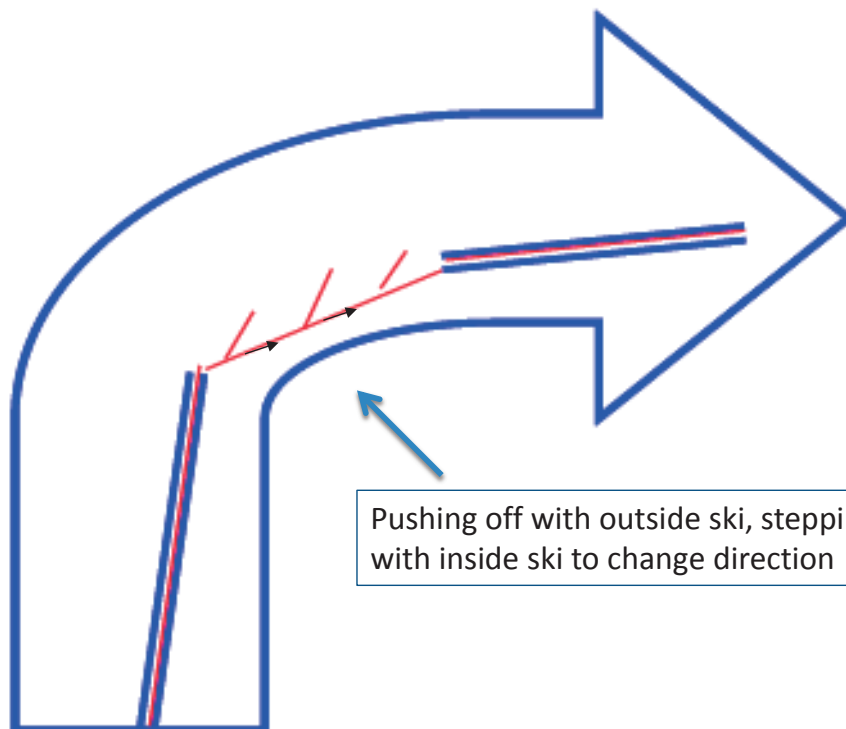




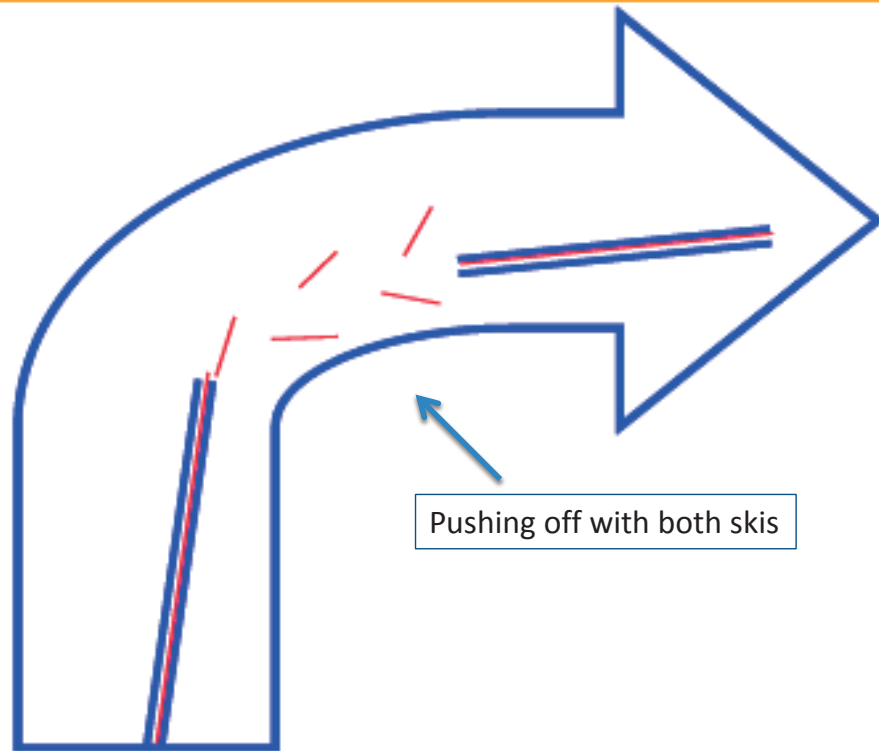
# Violation of ICR



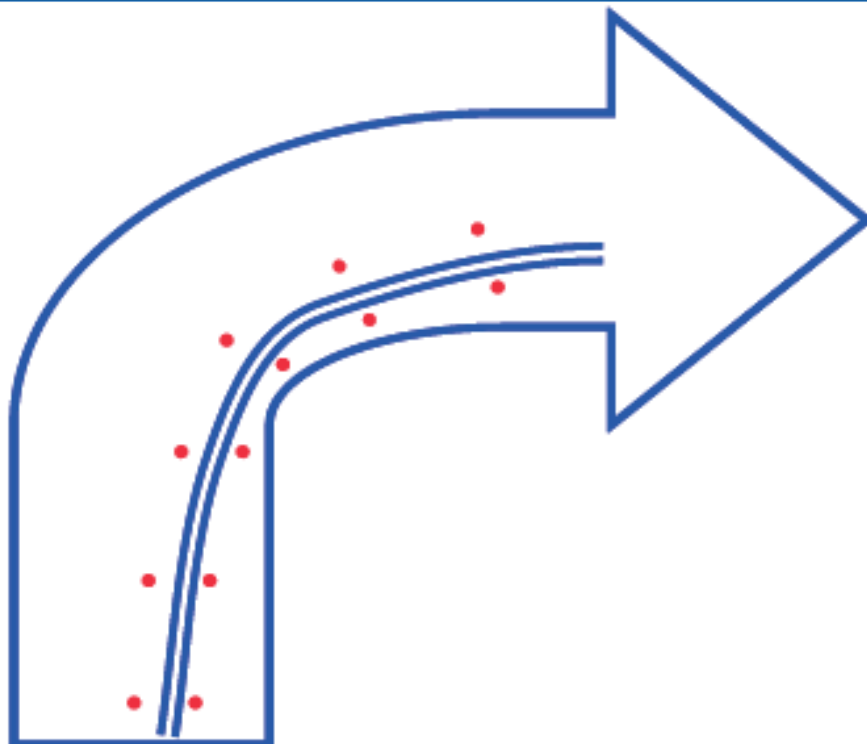
# Correct turning technique



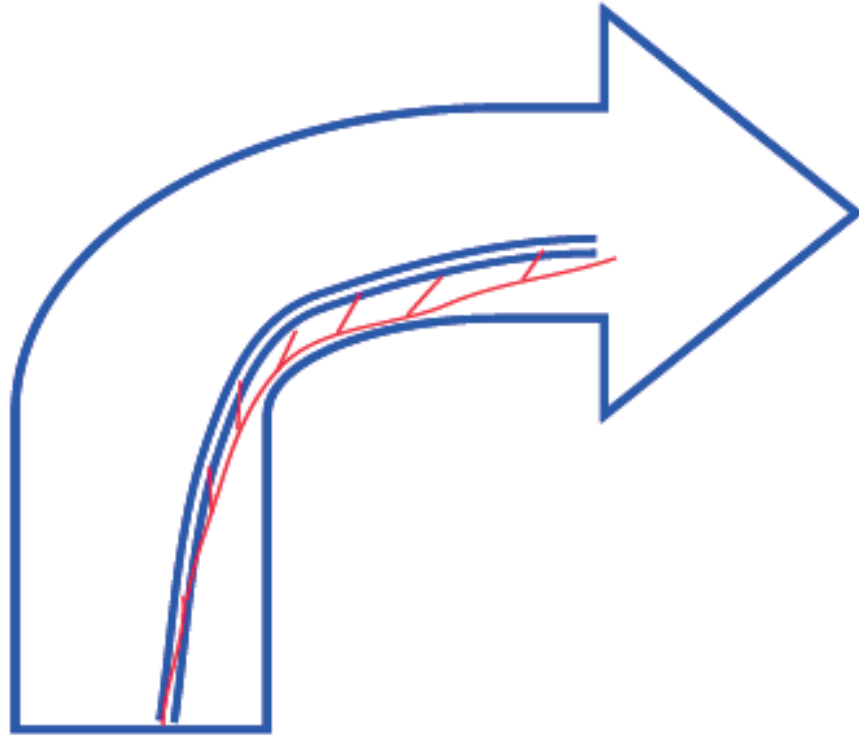
## Incorrect turning technique



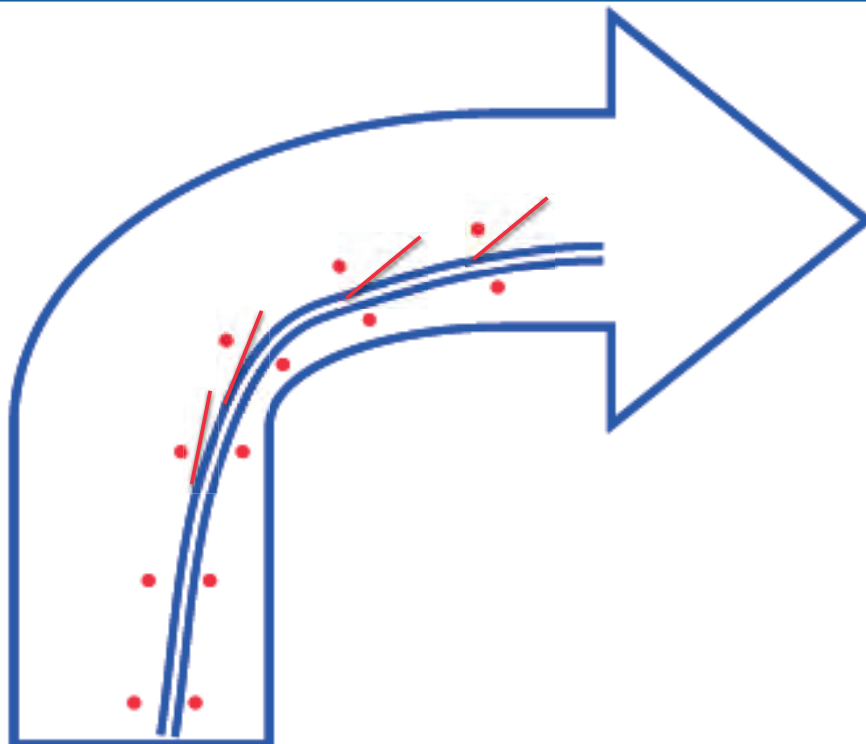
## Correct technique



# Violation of ICR



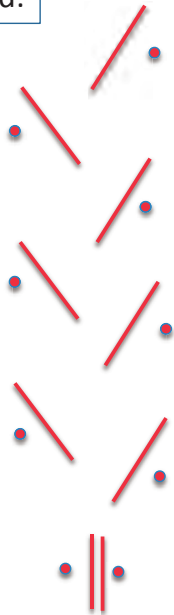
# Violation of ICR



# Herringbone uphill

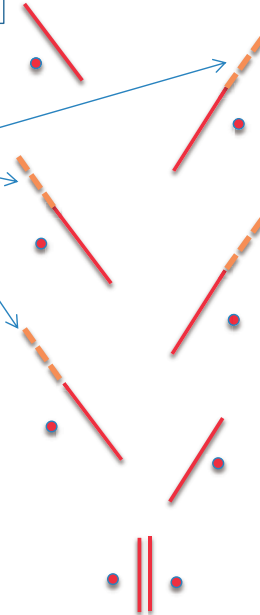
Allowed:

No glide  
phase



Not allowed:

Glide  
phase



## 教育本部 クロスカントリースキー部事業全般について

- (1)今年度は、第1会場と第2会場で公認クロスカントリースキー指導員・準指導員検定会、検定員検定会、指導員研修会及び検定員クリニックを行います。また、第3会場では公認クロスカントリースキー指導員研修会と検定員クリニックを行います。
- (2)公認クロスカントリースキー指導員・準指導員検定会の受験資格の年齢が変更になりました。受験年度の4月1日現在、18歳から20歳迄の方は、クロスカントリー準指導員検定を受験でき、21歳以上の方はクロスカントリー指導員検定を受験できます。
- (3)理論講習、検定のテキスト  
「2018年度オフィシャルブック」を使用します。検定を受験される方は「2018年度資格検定受験者のために」が技術理論書となっております。お持ちでない方は所属の都道府県スキー連盟又はスキージャーナル株式会社(TEL03-5980-6060)に問い合わせし購入してください。
- (4)スキー用具、ワックスなどはすべて各自で用意してください。
- (5)事業の申込にあたっては、参加者の個人情報、本事業の運営のみ使用されることに同意の上お申し込みください。
- (6)宿泊に関して  
参加者は申込書の宿泊希望欄に本部宿舎に宿泊するか否かを必ず記入してください。申込書の「本部宿舎に宿泊を希望する」に丸をつけた方はSAJで手配します。万一宿泊をキャンセルする場合は直接宿舎に連絡してください。直前のキャンセルについては、キャンセル料が発生しますので、個人に請求いたします。
- (7)会場・期日・日程等は変更の場合もあります。変更の場合は所属加盟団体(所属都道府県スキー連盟)から参加者に連絡します。

# 公認クロスカントリースキー指導員・準指導員検定会、 検定員検定会、指導者研修会、検定員クリニック

## 第1会場

【会期】 2018年3月24日(土)～25日(日)

【会場】

北海道・旭川市富澤クロスカントリーコース

【日程】

3月23日(金)

15:00 役員集合(本部宿舎)

●第1日目 3月24日(土)

9:50～10:00 受付

10:00～10:15 開会式

10:30～12:00 実技講習・研修・クリニック

13:30～15:00 実技講習・研修・クリニック

15:00～16:00 実技検定・クリニック

18:30～20:00 理論講習

●第2日目 3月25日(日)

9:00～11:00 研修講習

10:30～11:30 理論検定

12:30～ 合格発表・閉会式

※上記日程は、会場及び天候の状況等により変更する場合があります。

【集合場所】

旭川市富澤クロスカントリーコース管理棟 〒070-8061

TEL 0166-62-5349

【本部宿舎】

高砂温泉 〒070-8061

北海道旭川市高砂台8丁目

TEL 0166-61-0227

FAX 0166-62-3531

料金 1泊2食 7,500円(税込)

【現地連絡先】

江川 淳

TEL 090-1522-9892

E-mail bqqs718@ybb.ne.jp

## 第2会場

【会期】2018年3月24日(土)～25日(日)

【会場】

新潟県・マウンテンパーク津南クロスカントリーコース

【日程】

3月23日(金)

15:00 役員集合(本部宿舎)

●第1日目 3月24日(土)

9:50～10:00 受付

10:00～10:15 開会式

10:30～12:00 実技講習・研修・クリニック

13:30～15:00 実技講習・研修・クリニック

15:00～16:00 実技検定・クリニック

18:30～20:00 理論講習

●第2日目 3月25日(日)

9:00～11:00 研修講習

10:30～11:30 理論検定

12:30～ 合格発表・閉会式

※上記日程は、会場及び天候の状況等により変更する場合があります。

【集合場所】

越後田中温泉しなの荘

【本部宿舎】

越後田中温泉しなの荘 〒949-8205

新潟県中魚沼郡津南町上郷上田乙2163

TEL 025-765-2442

FAX 025-765-1082

料金 1泊2食 8,956円(税込)

【現地連絡先】

志賀 直哉

TEL 090-1602-2859

E-mail shiga@neptune.jstar.ne.jp

# 公認クロスカントリースキー指導者研修会

## 検定員クリニック

### 第3会場

【会期】2018年3月17日(土)～18日(日)

【会場】

青森県・あったかハウスかまどの森クロスカントリーコース

【日程】

3月17日(土)

10:00 役員集合(本部宿舎)

●第1日目 3月17日(土)

12:50～13:00 受付

13:00～13:15 開会式

13:30～16:15 実技研修・クリニック(クラシカル・テクニク)

16:45～18:15 理論講習

●第2日目 3月18日(日)

9:00～10:00 研修講習

10:15～11:30 理論講習

12:10～ 閉会式

※上記日程は、会場及び天候の状況等により変更する場合があります。

【集合場所】

あったかハウスかまどの森 〒039-3100

青森県上北郡野辺地町字続山1-1

TEL 0175-64-0778

【本部宿舎】

旅館コマイ 〒039-3154

青森県上北郡野辺地町字上小中野39-14

TEL 0175-64-3181

FAX 0175-64-0190

料金 1泊2食 6,700円(税込)

【現地連絡先】

木村 幹弥

TEL 090-3120-4626

E-mail mikiya-mk1964@docomo.ne.jp



# 公認クロスカントリースキー指導員・準指導員検定会

## 【実施会場】

第1会場、第2会場

## 【事業の目的】

クロスカントリースキーの各地区における検定員・指導員・準指導員の資格者の増員及び育成により、普及・技術の向上を目的とします。

## 【受検資格】

公認クロスカントリースキー指導者検定規程参照のこと

## 【費用】

検定に関わる費用はすべて受検者の自己負担となります。

合格者は、公認料、登録料及びバッジ代を合格時に現地で納入しなければなりません。

- ① 検定料 5,000 円
- ② 公認料 5,000 円
- ③ 登録料 1,000 円
- ④ バッジ代 2,000 円

## 【申込方法】

受検者は、受検願書に必要書類を添付し、検定料と共に、所属の加盟団体が定める期日までに、所属加盟団体に提出してください。

## 【受検願書締切日】

2017年12月10日（日）

加盟団体は、所属団体からの提出書類と必要書類を十分に審査し、適格者の受検願書を取りまとめ、受検願書2通（正本、副本）にそれぞれ必要書類を添付し、所定の送金案内書を添付してSAJ事務局に提出すると共に、検定料をSAJ指定口座にお振込みください。

## 【受験願書提出日必要書類】

- ① 2018年度SAJ会員証（A4サイズに拡大コピーしたもの）
- ② クロスカントリースキー級別テスト1級合格証（写）  
公認クロスカントリースキー指導者検定規程第10条第1項、2項における推薦により、受検資格が認められている者は、クロスカントリースキー級別テスト1級合格証(写)の提出は不要です。

## 【検定会受付時必要書類】

- ① 2018年度SAJ会員証

## 公認クロスカントリースキー検定員検定会

### 【実施会場】

第1会場、第2会場

### 【受検資格】

公認クロスカントリースキー検定員検定規程参照のこと

### 【費用】

検定に関わる費用はすべて受検者の自己負担となります。

合格者は、公認料、登録料及びバッジ代を合格時に現地で納入しなければなりません。

- ① 検定料 5,000円
- ② 公認料 3,000円
- ③ 登録料 1,000円
- ④ バッジ代 2,000円

### 【申込方法】

受検者は、受検願書に必要書類を添付し、検定料と共に、所属の加盟団体が定める期日までに、所属加盟団体に提出してください。

### 【受検願書締切日】

2017年12月10日（日）

加盟団体は、所属団体からの提出書類と必要書類を十分に審査し、適格者の受検願書を取りまとめ、受検願書2通（正本、副本）にそれぞれ必要書類を添付し、所定の送金案内書を添付してSAJ事務局に提出すると共に、検定料をSAJ指定口座にお振込みください。

### 【受検願書提出日必要書類】

2018年度SAJ会員証（A4サイズに拡大コピーしたもの）

### 【検定会当日必要書類】

- ① 2018年度SAJ会員証
- ② クロスカントリースキー指導員証

## 公認クロスカントリースキー指導者研修会

### 検定員クリニック

### 【実施会場】

第1会場、第2会場、第3会場

**【参加資格】**

公認クロスカントリースキー指導員規程、公認クロスカントリースキー検定員規程参照のこと  
参照のこと

**【参加料】**

4,000 円

**【申込方法】**

参加者は、所定の申込書と参加料 4,000 円を、所属の加盟団体が定める期日までに、所属加盟団体に提出してください。

なお、「クロスカントリースキー指導者研修会」と「クロスカントリースキー検定員クリニック」を両方申し込む場合の参加料は 4,000 円です。ただし、申込書は「クロスカントリースキー指導者研修会」と「クロスカントリースキー検定員クリニック」の両方の提出が必要です。

**【申込締切日】**

2018年2月7日（水）

加盟団体は、申込書2通（正本、副本）に所定の送金案内書を添付してS A J事務局に提出すると共に、参加料をS A J指定口座にお振込みください。

**【研修会受付時必要書類】**

- ① 2018年度S A J会員証（A 4サイズに拡大コピーしたもの）
- ② クロスカントリースキー指導員証  
（クロスカントリースキー指導員・検定員証をお持ちの方は持参してください。研修会参加の確認印を押印します。）

【その他】

2015年7月14日に公認クロスカントリースキー指導者規程及び公認クロスカントリー検定員規程が改正され、2016年度から、クロスカントリースキー指導員・準指導員、クロスカントリースキー検定員の有資格者の義務研修は、4年に1回の義務研修から、2年に1回の義務研修に変更になりました。2年続けて研修会を受講しない場合はクロスカントリー指導者資格が停止になり、2年続けてクリニックを受講しない場合はクロスカントリー検定員資格が停止になります。

但し、以下のとおり、2015年度までに、クロスカントリースキー指導員（CC 準指含む）、クロスカントリースキー検定員を取得された方は、取得年度から4年間資格が保有され、クロスカントリースキー研修会、クロスカントリースキー検定員クリニックを受講された方も同様に、受講年度から4年間資格が保有されます。

CC 指導者資格、検定員資格取得年度 または CC 指導者研修会、CC 検定員クリニック受講年度	研修会、クリニックの受講期限
2012 年度	2016 年度
2013 年度	2017 年度
2014 年度	2018 年度
2015 年度	2019 年度

※会員登録と資格登録を継続した場合

## 公認クロスカントリースキー指導者規程

(目 的)

第1条 この規程は、公益財団法人全日本スキー連盟（以下「本連盟」という。）公認規程に基づき、公認クロスカントリースキー指導者（以下「指導者」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(定 義)

第2条 指導者とは、本連盟公認クロスカントリースキー指導員、公認クロスカントリースキー準指導員をいう。

(任 務)

第3条 指導者は、クロスカントリースキー界の先達として自覚と誇りをもって、その普及発展に努めなければならない。

(資 格)

第4条 指導者は、全国共通の資格を有する。

(活動の範囲)

第5条 指導者は、本連盟の加盟団体、所属団体及び公認スキー学校等において活動することを原則とする。

(義 務)

第6条 指導者は、次の各号に掲げる義務を負うものとする。

(1) 指導者の任務を完遂するため、本連盟が主催する公認クロスカントリースキー指導者研修会に2年に1回参加し、修了しなければならない。

(2) 指導者は、加盟団体の事業には、優先的に参加しなければならない。

① 中央研修会、技術員研修会、公認スキー学校主任教師研修会は、特定行事として前項に定める研修会と同等の取扱いとし、これに参加した役員及び参加者は、研修を修了したものとみなす。ただし、みなし研修修了の場合の参加料は徴収しない。

② 公認クロスカントリースキー指導員検定会の役員は、前項に準じて研修を修了したものとみなす。ただし、みなし研修修了の場合の参加料は徴収しない。

(資格の停止)

第7条 指導者で、2年続けて研修会に参加しなかったときは、指導員の資格を停止する。資格停止中の者は、指導活動を行うことができない。

(資格停止の解除)

第8条 指導者の資格の停止解除は、公認クロスカントリースキー指導者研修会修了をもって資格の停止を解除できる。ただし、その場合の資格の有効は、研修会修了の翌年度から始まる。

(資格の喪失)

第9条 指導者で、次に掲げる各号の一つに該当する者は、理事会の決定により、指導員の資格を喪失する。

(1) 本連盟会員登録規程第4条の規定により、会員の資格を喪失したとき

(2) 本連盟の規約に違反し、指導者としての体面を汚すような行為があったとき

(3) 資格の年次登録料を納期までに納入しないとき

2 指導者の資格を返上したいときは、加盟団体長を経て、本連盟会長にその旨を届け出なければならない。

(登録料の納期)

第10条 第1条に定める指導者は、各種公認・登録料金一覧表に定める年次登録料を、毎年会員登録料と同時に、所定の期日までに加盟団体を経て本連盟に納入しなければならない。

(準指導員)

第11条 指導員のアシスタントとして、公認クロスカントリースキー準指導員（以下「準指導員」という。）をおく。

2 準指導員の認定は、別に定める指導員検定会を受検し、合格した者とする。

3 準指導員は、本規程を準用する。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、教育本部理事会の議決による。

平成11年10月18日 制定  
平成13年 9月28日 改正  
平成14年 6月28日 改正  
移行平成20年 9月16日改正  
平成21年 9月18日 改正  
平成22年 8月31日 改正  
平成25年 7月 9日 改正  
平成26年 7月15日 改正  
平成27年 7月14日 改正  
平成29年 7月15日 改正  
平成29年 8月22日 改正

## 5 4 3

### 公認クロスカントリースキー検定員規程

(目 的)

第1条 本連盟公認規程に基づき、公認クロスカントリースキー検定員（以下「検定員」という。）に必要な事項を定める。

(任 務)

第2条 検定員は、クロスカントリースキーの普及発展の推進者となる人材であることを認識し、公平な判定により、検定会及びバッジテストを円滑に運営し、その普及発展に務めなければならない。

(資格及び検定範囲)

第3条 検定員は、全国共通の資格を有する。

2 検定員が、検定できる範囲は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 公認クロスカントリースキー検定員検定
- (2) 公認クロスカントリースキー指導員検定
- (3) 公認クロスカントリースキーバッジテスト

3 検定員の資格検定については、別に定める。

(公認及び義務)

第4条 検定員は、本連盟において検定を行い、合格者を公認する。

2 検定員の資格有効期間は、公認された年を除き2年とする。ただし、認定された年度の資格は保有する。

3 検定員の任務を完遂するため、本連盟が主催する公認クロスカントリースキー検定員クリニックに、資格の有効期間（2年）に1回以上参加し、修了しなければならない。

4 検定員は、加盟団体の事業には、優先的に参加しなければならない。

(資格の停止)

第5条 検定員で、2年続けてクリニックに参加しなかったときは、検定員の資格を停止する。資格停止中の者は、検定員として活動ができない。

(資格停止の解除)

第5条の2 検定員の資格の停止解除は、公認クロスカントリースキー検定員クリニック修了をもって資格の停止を解除できる。ただし、その場合の資格の有効は、検定員クリニック修了の翌年度から始まる。

(資格の喪失)

第6条 検定員で、次に掲げる各号の一つに該当する者は、理事会の決定により、検定員の資格を喪失する。

- (1) 本連盟会員登録規程第4条の規定により、会員の資格を喪失したとき
- (2) 本連盟の規程に違反し、検定員としての体面を汚すような行為があったとき
- (3) 資格の年次登録料を納期までに納入しないとき

2 検定員の資格を返上したいときは、加盟団体長を経て、本連盟会長にその旨を届け出なければならない。

(登録料の納期)

第7条 第1条に定める検定員は、各種公認・登録料金一覧表に定める年次登録料を、毎年会員登録料と同時に、所定の期日までに加盟団体を経て本連盟に納入しなければならない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、教育本部理事会の議決による。

平成11年10月18日 制定

平成14年6月28日 改正

平成15年6月27日 改正

移行平成20年9月16日改正

平成21年9月18日 改正

平成25年7月9日 改正

平成27年7月14日 改正

平成29年7月15日 改正

平成29年8月22日 改正

## 5 4 4

### 公認クロスカントリースキー指導者検定規程

(目 的)

第1条 この規程は、本連盟公認規程及び公認クロスカントリースキー指導者規程第1条に基づき、公認クロスカントリースキー指導員検定に関し、必要な事項を定める。

2 クロスカントリースキー準指導員検定については、本規程を準用する。

(公認クロスカントリースキー指導者検定の種類)

第2条 公認クロスカントリースキー指導者検定は、次の各号に掲げる2種類とする。

- (1) クロスカントリースキー指導員検定
- (2) クロスカントリースキー準指導員検定

(実 施)

第3条 クロスカントリースキー指導員検定会及びクロスカントリースキー準指導員検定会は、本連盟の主催で行う。

(周 知)

第4条 実施要領は、毎年オフィシャルブック等で周知する。

(検 定 員)

第5条 検定員は、本連盟教育本部長から委嘱されたクロスカントリースキー検定員資格を有する検定員3名以上で構成する。

2 検定員の人数は、受検者数に応じて会場ごとに定める。

(会 期)

第6条 会期は原則として2日間以上とし、同期日に行う。受検者数、天候の状況等の特別な事情がある場合は、会期を変更することができる。

(会 場)

第7条 検定会会場は2会場を原則とし、受検者は、各検定会場の内、1会場に限り受検することができる。

(検定基準)

第8条 検定は講習検定会とし、実技及び理論講習を行う。

2 検定基準は、別に定める。

(受検資格)

第9条 受検者は、受検年度の本連盟会員登録を完了した者で、前年度までにクロスカントリーバジジテスト1級を合格していなければならない。

- (1) 受検年度の4月1日現在21歳以上の者は、クロスカントリースキー指導員検定を受検できる。
- (2) 受検年度の4月1日現在18歳から20歳迄の者は、クロスカントリースキー準指導員検定を受検できる。

(特別推薦による受検)

第10条 世界選手権・ワールドカップ・アジア大会・ユニバーシアード出場又は全日本選手権及び国体において3回以上入賞した者は、前年度までに、クロスカントリーバジジテスト1級を合格していなくても、加盟団体長の推薦により特別推薦書を本連盟に提出し、教育本部理事会の承認を得て、当該年度のクロスカントリースキー指導員検定会の受検手続きを行い、検定会で受検することができる。ただし、リレー競技の入賞は除く。なお、特別推薦書の提出期限は受検する年度の10月末日までとし、入賞大会名、種目、順位を付記し、その証明書類及び当該年度の会員登録証明書類を添付して提出することとする。

2 オリンピック出場者は、前年度までに、クロスカントリースキーバジジテスト1級を合格していなくても、加盟団体長の推薦により特別推薦書を本連盟に提出し、教育本部理事会の承認を得て、当該年度のクロスカントリースキー指導員検定会の受検手続きを行い、検定会で受検することができる。なお、特別推薦書の提出期限は受検する年度の10月末日までとし、推薦書に出場大会名、種目を付記し、その証明書類及び当該年度の会員登録証明書類を添付して提出することとする。

(受検手続)

第11条 受検者は、本連盟の定める受検願書3通にそれぞれ必要書類を添付し、各種公認・登録料金一覧表に定める検定料と共に、所属団体長を経て、加盟団体長に提出しなければならない。



- 2 加盟団体長は、前項の受検願書を審査の上、12月10日までに、適格者の受検願書2通にそれぞれ必要書類を添付し、各種公認・登録料金一覧表に定める検定料と共に本連盟会長に提出しなければならない。
- 3 受検願書提出後は、理由の如何を問わず、受検会場の変更は認めないものとし、検定料は返還をしないこととする。

(合格者の手続)

第12条 合格者は、各種公認・登録料金一覧表に定める公認料、年次登録料及びバッジ代を合格時に納入し、次年度からの年次登録料は、他の登録料等と同時に所属加盟団体を経て本連盟に納入しなければならない。

- 2 クロスカントリースキー準指導員検定を合格し、クロスカントリースキー準指導員として公認された者が21歳に達し、その年度以降のクロスカントリースキー指導者研修会を修了した場合は、クロスカントリースキー指導員として認定する。

(結果報告及び発表)

第13条 主任検定員は、検定会実施の結果を速やかにクロスカントリー委員長と本連盟に報告する。また、事業報告書に検定会実施の結果を記入し、検定責任者の承認を得て、検定会終了後2週間以内に本連盟に提出しなければならない。

- 2 検定会実施結果のうち、検定成績内容は発表しない。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃は、教育本部理事会の議決による。

平成15年6月27日 改正

平成19年7月5日 改正

移行平成20年9月16日改正

平成22年8月31日 改正

平成25年7月9日 改正

平成26年7月15日 改正

平成29年7月15日 改正

## 公認クロスカントリースキー検定員検定規程

(目的)

第1条 この規程は、本連盟公認規程及び公認クロスカントリースキー検定員規程第3条第3項に基づき、公認クロスカントリースキー検定員検定（以下、「検定員検定」という。）に必要な事項を定める。

(実施)

第2条 検定員検定会（以下、「検定会」という。）は、本連盟の主催で行う。

(周知)

第3条 実施要領は、毎年、オフィシャルブック等で周知する。

(検定の範囲)

第4条 検定員が、検定できる範囲は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 公認クロスカントリースキー検定員検定会
- (2) 公認クロスカントリースキー指導員検定会
- (3) 公認クロスカントリースキーバッジテスト

(会場)

第5条 検定は、公認クロスカントリースキー指導員検定会及びクロスカントリースキーバッジテスト（以下「バッジテスト」という。）において実施することを原則とし、受検回数は年1回限りとする。

(検定員)

第6条 検定は、本連盟会長から委嘱された検定員資格を有する検定員3名以上が、これにあたり、検定員の人数は、受検者数に応じて会場ごとに定める。

(受検資格)

第7条 公認クロスカントリースキー指導員取得の翌年から1年を経過した者。

(受検手続)

第8条 受検者は、本連盟の定める、受検願書3通にそれぞれ必要書類を添付し、各種公認・登録料金一覧表に定める検定料と共に、所属団体長を経て、加盟団体長に提出しなければならない。

2 加盟団体長は、前項の受検願書を審査の上、12月10日までに、適格者の受検願書2通にそれぞれ必要書類を添付し、検定料と共に本連盟会長に提出しなければならない。

3 受検願書提出後は、理由の如何を問わず、受検会場の変更は認めないものとし、検定料は返還しないこととする。

(検定の内容)

第9条 検定は、実技及び理論を行う。

2 実技の合格基準は、標準点に対して、合・否的中率が70%以上をもって合格とし、採点は、実際の検定を対象に行うことを原則とする。

3 理論は、クロスカントリースキー検定基準及び実施要領、その他検定に必要な事項を内容として行い、合格基準は、満点に対して70%以上とする。

(合格者の手続)

第10条 合格者は、各種公認・登録料金一覧表に定める検定員公認料、年次登録料及びバッジ代を合格時に納入し、次年度からの年次登録料は、他の登録料等と同時に加盟団体を経て本連盟に納入しなければならない。

(結果報告及び発表)

第11条 主任検定員は、検定会実施の結果を所定の報告書に記入し、検定責任者の承認を得て、検定会終了後2週間以内に、本連盟会長に報告しなければならない。

2 検定会実施報告のうち、検定成績内容は発表しない。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、教育本部理事会の議決による。

平成11年10月18日 制定

平成12年9月20日 改正

平成14年6月28日 改正

平成15年6月27日 改正

移行平成20年9月16日改正

平成25年7月9日 改正

平成29年7月15日 改正

各種公認・登録等料金一覧表

1. 負担金

区 分	負 担 金	備 考
加 盟 団 体	200,000 円／年	納期 1月 31 日まで

2. 公認料及び登録料

区 分	公認料	年次登録料	備 考
会員登録料 (一 般)	—————	2,000 円／年	一時も同額 800 円
(高校生)	—————	500 円／年	200 円
(中学生)	—————	0 円／年	—
一時 (一 般)	—————	2,000 円／年	当該年度のみ有効 800 円
(高校生)	—————	500 円／年	当該年度のみ有効 200 円
(中学生)	—————	0 円／年	当該年度のみ有効 —
スノーリフト会員登録料	—————	2,000 円／年	200 円
競技者登録料 S A J	—————	2,000 円／年	200 円
S A J	—————	4,000 円／年	〆切後 200 円
F I S	—————	5,000 円／年	—
F I S	—————	15,000 円／年	〆切後 —
F I S アカデミー プログラム代	—————	500 円／年	初回のみ (レベル I)
競技会公認料			
競 技 施 設 公 認 料	30,000 円／	—————	A 級 及 び B 級

### 3. 各種有資格者の検定料、公認料及び年次登録料

区 分	検 定 料	公認料	年次登録料
競技運営指導員	_____	3,000 円	1,000 円/年
競技技術指導員	_____	3,000 円	200 円
公認技術代表 名誉	_____	免除	
公認技術代表 SAJ	5,000 円(含む講習)	5,000 円	1,000 円/年
公認技術代表 FIS	5,000 円(含む講習)	5,000 円	200 円
公認計算委員	5,000 円	5,000 円	1,000 円/年 200 円
公認スキー功労指導員	_____	10,000 円	
公認スキー功労準指導員	_____	10,000 円	1,000 円/年
公認スキー専門指導員・指導員	20,000 円	10,000 円	200 円
公認スキー準指導員(含認定指導員)	主管団体において定める。	10,000 円	準指公認料還元 2,000 円
公認クロスカントリースキー 指導員	5,000 円	5,000 円	0 円
公認クロスカントリースキー 検定員	5,000 円	3,000 円	検定員C級 300 円
公認A級コーチ (公認・スキー上級コーチ)	(共通 27,400 円) (専門 16,800 円) 専門 30,000 円	10,000 円 3,000 円	SAJ無資格者は、 10,000 円/4年 と、SAJへ 1,000/年
公認B級コーチ (公認・スキーコーチ)	(共通 18,000 円) (専門 10,500 円)	10,000 円 3,000 円	200 円
公認C級コーチ	15,000 円	10,000 円	SAJ無資格者は、 1,000/年

注1. 教師の体育大学、専門学校卒は、検定料 60,000 円、公認料 10,000 円とする。

### 4. 研修会参加料

各 種 資 格 名	研修会参加料	備 考
公認技術代表	3,000 円	全種目 原則として、3,000 円とし、地域性及び参加人員によって増額できる。
公認計算委員	3,000 円	
公認コーチ(リフレッシュ)	3,000 円	資格更新検定の受検料を含む。
公認クロスカントリースキー 指導員	3,000 円	
公認クロスカントリースキー 準指導員	3,000 円	
公認クロスカントリースキー 検定員	3,000 円	

## 5. バッジ代及びワッペン代

各種資格名	バッジ代	ワッペン代	備考
競技運営指導員	1,500 円	1,000 円	バッジ還元 300 円
競技技術指導員	1,500 円	1,000 円	ワッペン還元 200 円
公認技術代表	1,500 円	1,000 円	
公認クロスカントリースキー 指導員	1,500 円	1,000 円	
公認クロスカントリースキー 検定員	1,500 円	1,000 円	

指導員手帳再発行は、3,000 円とする。ただし、加盟団体を移籍する場合は、無料とする。

## 6. バッジテスト検定料及び公認料

区 分	検定料	公認料	備考
クロスカントリースキーバッジテスト 1級	2,000 円	2,000 円	バッジ、合格証を含む 800 円
クロスカントリースキーバッジテスト 2級	1,500 円	1,500 円	バッジ、合格証を含む 600 円
(小・中学生)	700 円	1,000 円	バッジを含む 300 円
クロスカントリースキーバッジテスト 3級	1,000 円	1,500 円	バッジを含む 600 円
(小・中学生)	500 円	800 円	バッジを含む 240 円